

平成27年度

# 川崎市立小学校 学習状況調査 報告書

平成27年9月

川崎市教育委員会・川崎市立小学校長会



平成27年度

川崎市立小学校  
学習状況調査  
報告書

川崎市教育委員会・川崎市立小学校長会

# 学習状況調査の実施にあたって

川崎市立小学校長会  
会長 田中 真喜男

学習指導要領では、生きる力を育成することを目指し、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力その他の能力をはぐくむとともに、主体的に学習に取り組む態度を養うことが明示されています。

本市におきましては、平成 17 年 3 月に策定された「かわさき教育プラン」に基づき、平成 17 年度より、川崎市立小学校学習状況調査が始まりました。平成 27 年 3 月に策定された第 2 次川崎市教育振興基本計画「かわさき教育プラン」においても基本政策の「学ぶ意欲を育て、『生きる力』を伸ばす」の中の「確かな学力の育成」という施策に位置付けられ、本年度で 11 回目の実施となりました。

本調査は、子どもたち一人一人の学習や生活状況をよりの確に把握することで、学習指導上の課題を明らかにし、指導方法の改善や教育課程編成の工夫等に役立てたり、学習状況を子どもと保護者に伝え、今後の学習習慣の確立等に役立てたりすることを目的としています。

また、調査問題の作成につきましては、過去の問題と関連したものを出题することによって、解答傾向の推移を把握できるようにしています。報告書では、各設問を分析、考察し、今後の指導にあたっての改善点等をまとめております。各学校におかれましても、自校の状況を把握し教育課程の編成、日々の授業、学習活動等の検証・改善の資料としてご活用ください。

最後に、問題作成及び結果の分析に取り組まれた小学校国語教育研究会並びに算数教育研究会の皆様には、厚く御礼申し上げます。また、ご尽力いただきました川崎市教育委員会・川崎市総合教育センター並びに本市小学校教育研究会の皆様には深く感謝申し上げます。



# 目 次

<b>I 調査の概要</b>	
1. 調査の目的	5
2. 調査の内容	5
3. 調査の対象	5
4. 調査実施日及び調査対象教科・人数	5
(1) 調査実施日	5
(2) 調査対象教科・人数	5
<b>II 調査結果の概要</b>	
1. 国語	6
(1) 作問にあたって	6
(2) 領域ごとの結果	6
(3) 出題・観点等一覧	7
(4) 大問ごとの分析と考察	8
(5) 今後の指導にあたって	21
2. 算数	24
(1) 作問にあたって	24
(2) 領域ごとの結果	24
(3) 出題・観点等一覧	25
(4) 大問ごとの分析と考察	26
(5) 今後の指導にあたって	50
3. 生活や学習についてのアンケート	54
調査の概要	54
調査結果と分析	55
単純集計	55
クロス集計	69
資料 調査結果集計表	78
<b>III 資料編</b>	85
国語（問題用紙・聞き取り問題原稿・解答用紙）	
算数（問題用紙・解答用紙）	

# I 調査の概要

## 1. 調査の目的

全市的な規模で児童の学習状況を調査することにより、学習指導上の問題点及び改善点を明らかにする。その結果を、各学校においては、今後の学習指導法の改善や教育課程編成の工夫等、児童の基礎学力の向上に役立てる。

## 2. 調査の内容

### ○国語・算数

調査の目的に基づき、学習指導要領に定める第4学年までの内容のうち、ペーパーテストで調査を行うことが適当な項目について調査を実施した。

### ○学習意識調査（生活や学習についてのアンケート）

児童の学習や生活に対する意識等について明らかにするために、児童を対象とする意識調査を実施した。

## 3. 調査の対象

市内全市立小学校の第5学年の児童

## 4. 調査実施日及び調査対象教科・人数

(1) 調査実施日 平成27年5月12日(火)

(2) 調査対象教科・人数 小学校第5学年

国語	11,341人
算数	11,341人
生活や学習についてのアンケート	11,344人

## II 調査結果の概要

# 1. 国 語

### (1) 作問にあたって

- ① 本調査の目的に鑑み、主に4年生までの国語科の目標及び内容の基礎的・基本的な事項についての定着状況の把握に資する出題となるように努めた。
- ② 国語科の学習指導要領においては、各学年の目標及び内容などが2学年ずつまとめて示されている。したがって本調査では主に、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項の中から出題している。
- ③ 国語科の内容は「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の3領域と〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕からなっている。本調査の作問にあたっては、児童の学力の状況をなるべく広い範囲において把握していくために、各領域から出題することとした。しかし、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であることを踏まえて調査結果を活用していきたい。
- ④ 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕については基本的には各領域の指導を通して行うことを基本としている。しかしながら、本調査では学力の状況を把握するため、大問2及び大問3において、特定の事項を取り上げて出題している。

### (2) 領域ごとの結果

領域	該当する問題番号	正答率(%)
① 話すこと・聞くこと	[大問1](1)(2)(3)	91.6
② 書くこと	[大問6](1)(2) [大問7]①②③④⑤	65.8
③ 読むこと	[大問4](1)(2)(3)(4)(5) [大問5](1)(2)(3)(4)(5)	68.3
④ 伝統的な言語文化と 国語の特質に関する事項	[大問2](1)①②③④ (2)①②③④ [大問3](1)(2)(3)(4)	78.9

### (3) 出題・観点等一覧 (次ページ)

出題・観点等一覧

通し番号	大問番号	中間番号	小問番号	解答形式		正答		観点			問題の内容	領域	出題のねらい	学習指導要領	正答率
				選択	記述	(選択式→番号、記述式→言葉)	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語について の知識・理解・ 論・技能					
1		(1)		☆		1・4(完答)	◎			◎	①話の内容を聞き取る	①話すこと・聞くこと	話の中心に気をつけて、発表を聞き取ることができる。	A(1)エ	97.1
2	1	(2)		☆		3	◎			◎			話の中心に気をつけて、発表を聞き取ることができる。	A(1)エ	94.5
3		(3)		☆		2	◎			◎			話の中心に気をつけて聞き、話し方の工夫を聞き取ることができる。	A(1)イ	83.4
4			①	☆		えいよう				◎			第四学年配当漢字を読むことができる。	伝国(1)ウ(イ)	96.7
5			②	☆		ひつよう				◎			第四学年配当漢字を読むことができる。	伝国(1)ウ(イ)	94.5
6		(1)	③	☆		はた				◎			第四学年配当漢字を読むことができる。	伝国(1)ウ(イ)	97.9
7			④	☆		あらた				◎		④伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	第四学年配当漢字を読むことができる。	伝国(1)ウ(イ)	75.2
8	2		①	☆		研究				◎			第三学年配当漢字を書くことができる。	伝国(1)ウ(イ)	59.4
9			②	☆		反対				◎			第三学年配当漢字を書くことができる。	伝国(1)ウ(イ)	69.7
10		(2)	③	☆		笛				◎			第三学年配当漢字を書くことができる。	伝国(1)ウ(イ)	69.6
11			④	☆		悲				◎			第三学年配当漢字を書くことができる。	伝国(1)ウ(イ)	76.3
12		(1)		☆		3				◎			接続語を理解している。	伝国(1)イ(ク)	95.7
13		(2)		☆		2				◎			主語・述語の関係を理解している。	伝国(1)イ(キ)	60.4
14	3	(3)		☆		はかる				◎			国語辞典を利用して調べることができる。	伝国(1)イ(カ)	56.2
15		(4)		☆		3				◎			諺や慣用語などを適切に使うことができる。	伝国(1)ア(イ)	95.9
16		(1)		☆		3				◎			叙述を基に、登場人物の様子や気持ちを読み取り、音読することができる。	C(1)ア	61.5
17		(2)		☆		3				◎			叙述を基に、登場人物の様子や気持ちを読み取ることができる。	C(1)ウ	71.5
18	4	(3)		☆		2				◎			叙述を基に、登場人物の様子や気持ちを読み取ることができる。	C(1)ウ	79.5
19		(4)		☆		1				◎			叙述を基に、登場人物の様子や気持ちを読み取ることができる。	C(1)ウ	81.9
20		(5)		☆		4				◎			物語を読んで感想を述べ合うことができる。	C(2)ア	89.2
21		(1)		☆		落ち葉				◎			中心となる語や文をたどらせて文章を読むことができる。	C(1)イ	
22				☆		鳥の羽				◎			中心となる語や文をたどらせ、文と文とのつながりに注意して文章を読むことができる。	C(1)イ	64.1
23	5	(2)		☆						◎			中心となる語や文をたどらせて文章を読むことができる。	C(1)イ	70.6
24		(3)		☆		4				◎			中心となる語や文をたどらせて文章を読むことができる。	C(1)イ	76.3
25		(4)		☆		道員使いの名人				◎			中心となる語や文をたどらせて文章を読むことができる。	C(1)イ	54.0
26		(5)		☆		「自動車ケルミや二まい貝の上を通ると」といった内容が書かれている。				◎			文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章を要約することができる。	C(1)エ	30.4
27		(1)		☆		4				◎			文章の関連性を正したり、よりよい表現に書き直したりすることができる。	B(1)オ	85.0
28	6	(2)		☆		ア 3 イ 2 ウ 1(完答)				◎			手紙の後づけに必要な事柄や順序を理解している。	B(2)エ	21.2
29			①	☆		6行以上、10行以内(101字以上、200字以内)で書いている。				◎			目的に応じて、適切に書くことができる。	B(1)ウ	70.9
30			②	☆		3段落構成で書いている。				◎			段落と段落の続き方に注意して書くことができる。	B(1)イ	56.6
31			③	☆		「自分がどのグラフを選んだのか」がわかるように書かれている。				◎			書く必要のある事柄を収集したり選択したりして書くことができる。	B(1)ウ	84.4
32			④	☆		「選んだグラフを見てわかったこと」が書かれている。				◎			書く必要のある事柄を収集したり選択したりして書くことができる。	B(1)ウ	77.4
33			⑤	☆		「自分の考え」がはっきりと書かれている。				◎			自分の考えが明確になるように、段落相互の関係を考えながら書くことができる。	B(1)イ	65.5

【解答形式について】問題が「選択肢問題」、「記述問題」のどちらであるかを☆で表しています。

【観点について】◎が主たる観点、○が従たる観点、○が表しています。

※いずれも3・4年

## (4) 大問ごとの分析と考察

# 大問 1

### [1] 解答類型別の出現率

No.	問題番号			解答形式	正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
	大問	中間	小問					
1	1	(1)	選択	○	1・4(完答)	1	97.1	
					2	2	-	
					3	3	-	
					1・2	4	0.9	
					1・3	5	0.3	
					2・4	6	0.4	
					3・4	7	0.1	
					上記以外の解答	9	0.5	
					無解答	0	0.7	
				2	1	(2)	選択	
	2	2	2.1					
○	3	3	94.5					
	4	4	0.9					
	上記以外の解答	9	0.1					
	無解答	0	0.8					
3	(3)	選択		1	1	5.2		
			○	2	2	83.4		
				3	3	6.1		
				4	4	4.2		
				上記以外の解答	9	0.1		
				無解答	0	1.0		

### [2] 出題のねらい

学習指導要領における第3学年及び第4学年の「話すこと・聞くこと」の目標は、以下の通りである。

「相手や目的に応じ、調べたことなどについて、筋道を立てて話す能力、話の中心に気を付けて聞く能力、進行に沿って話し合う能力を身に付けさせるとともに、工夫をしながら話したり聞いたりしようとする態度を育てる。」

この問題では、「家の近くにあるスーパーマーケット」を調べた児童が、たくさんのお客さんに来てもらうために、どんな工夫をしているのか紹介するという言語活動を想定した問題である。「目的に応じて話の中心に気を付けて聞く能力」や、「工夫しながら話す能力」を問うこととした。

(1) は、「家の近くにあるスーパーマーケット」の紹介から、「スーパーマーケットが特に力を入れていること」を聞き取る問題である。紹介者の話した内容を的確にとらえ、話の中心に気を付けて聞くことができたかを問うている。

(2) も、話の中心に気を付けて聞くことができたかを問う問題である。「お店で働く人たちが商品について詳しい知識をもつことができるようにするためにどんなことをしているのか」質問者の質問とそれに対する紹介者の回答を聞き取ることを問うている。

(3) は、話し手の工夫に気を付けて聞くことができたかを問う問題である。紹介者が分かりやすく伝えるために話す内容を「一つめは・・・」「二つめは・・・」と整理して話していることに気付くことができたかを問うている。

## [3] 解説

「聞くこと」の平均正答率は91.6%であり、(1)の正答率が97.1%、(2)は94.5%、(3)は83.4%と、どの問題においても良好であった。

この問題は、「家の近くにあるスーパーマーケットを調べ、発表を聞く」という場面を設定し、スーパーマーケットがたくさんのお客さんに来てもらうために、どんな工夫をしているのか調べて紹介し、その後、質問を募り、2人の質問者からの質問にそれぞれ答えるといった組み立てになっている。

(1)は、話の中心に気を付けて聞く能力を問うものである。正答率が高かった理由の一つとしては、児童の多くが、「商品に関する情報を提供すること」や「お客さんとのコミュニケーションを大切にすること」を、的確にメモして聞いていたことが考えられる。

(2)も、話の中心に気を付けて、聞くことができたかを問う問題である。紹介者が話した内容に加え、質問者の質問とそれに対する紹介者の回答を聞き取ることができないと正解できない問題である。スーパーマーケットが特に力を入れていることを話した後、質問者が「スーパーマーケットがほかに力を入れていることがあるのか」と質問をした。質問の答えとして、「毎週1回、お店で働く人たちが新しい商品について学ぶ時間を設け、商品について学ぶ時間をもつことができること」を聞き取れたので、正答率が良好であったと考えられる。

(3)は、話し手の工夫に気を付けて聞くことができたかを問うものである。紹介者は「たくさんのお客さんに来てもらうために特に力を入れていることが二つあるそうです。」と伝え、その後「特に力を入れてきたことの一つめは・・・二つめは・・・」と話す内容を整理して紹介している。よって、選択肢3の「発表の中心となることから、いくつかのまとまりに分けて話している。」が正解である。

今後、学習の中で、説明や報告を聞くときには、内容だけでなく話し手がどのように分かったことや考えたことをまとめているかに気を付けて聞くことや、「話を整理して話す」などの話し手の工夫について色々な学習場面で取り上げ紹介し、説明や報告の仕方の分かりやすさについて意見をまとめる活動も取り入れていきたい。

# 大問2

## [1] 解答類型別の出現率

問題番号		解答形式	正答	解答類型	類型番号	出現率(%)		
No.	大問						中間	小問
【大問2共通事項】 ・傍線部分以外の部分まで解答欄に書いていた場合は、傍線部分が正しく書いていても×とする。 ・漢字の書きは、ハネ、トメまでは問わない。								
4	2	(1)	①	記述	○ えいよう	1	96.7	
					ええよう	2	-	
					えいよお	3	-	
					ええよお	4	-	
					上記以外の解答	9	2.0	
					無解答	0	1.3	
			5	②	記述	○ ひつよう	1	94.5
						ひつよお	2	-
						上記以外の解答	9	4.9
						無解答	0	0.6
			6	③	記述	○ はた	1	97.9
						上記以外の解答	9	1.1
						無解答	0	0.9
			7	④	記述	○ あらた	1	75.2
						かい	2	0.4
						さだ	3	1.9
						たしか	4	0.1
						上記以外の解答	9	18.3
						無解答	0	4.1
			8	①	記述	○ 研究	1	59.4
						「研」だけが○だった場合	2	5.9
「究」だけが○だった場合	3	9.8						
上記以外の解答	9	9.4						
無解答	0	15.5						
9	②	記述	○ 反対	1	69.7			
			「反」だけが○だった場合	2	13.9			
			「対」だけが○だった場合	3	2.0			
			上記以外の解答	9	3.3			
			無解答	0	11.1			
10	③	記述	○ 笛	1	69.6			
			上記以外の解答	9	10.5			
			無解答	0	19.9			
11	④	記述	○ 悲しい	1	76.3			
			「悲」は書けているが、送り仮名が未記入、または間違っていた場合	2	1.2			
			上記以外の解答	9	12.3			
			無解答	0	10.2			

## [2] 出題のねらい

学習指導要領における漢字に関する事項は、以下のようになっている。

「第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。」

学年別配当漢字の「読み」は当該学年において、「書き」は次の学年までに定着を図ることになっている。そこで「読み」については第4学年までに、「書き」については第3学年までに配当された範囲から出題した。

(1)の①栄養(エイヨウ)、②必要(ヒツヨウ)は、音読みの熟語を読む力、③旗(はた)は、送り仮名のない訓読みの漢字を読む力、④改める(あらためる)は、送り仮名のある訓読みの漢字を読む力を問うている。

(2)の①研究(ケンキュウ)、②反対(ハンタイ)は、音読みの熟語を書く力、③笛(ふえ)は、送り仮名のない訓読みの漢字を書く力、④悲しい(かなしい)は、送り仮名のある訓読みの漢字を書く力を問うている。(1)、(2)とも、音読み・訓読みの問題を、送り仮名の有無も含めた3種類のバランスを考慮して出題した。

## [3] 解説

「読み」は①96.7%、②94.5%、③97.9%、④75.2%で、平均正答率は91.1%と良好であった。その要因として、出題した語句は日常的に耳にしたり、目にしたりする機会が多く、想起し易かったことが考えられる。日頃からたくさんの本に触れるなどして言葉の幅をさらに広げさせていきたい。その中で「改める(あらた(める))」の正答率が75.2%であった。「改」を音読みでは読めるが、「改」の意味として、「新しくする」や「調べる」といった意味があることや、訓読みの読み方を理解していないことなどが考えられる。

「書き」については①59.4%、②69.7%、③69.6%、④76.3%で、平均正答率が68.8%であった。その中でも「悲しい」については76.3%とやや低い正答率だった。その理由として考えられることは、点画の長短や方向、接し方や交わり方などに注意して書けていないことや正しく字形を整えて書けていないことが挙げられる。また、文を書くときに既習の漢字を使わず、平仮名表記で済ませてしまっていることが考えられる。

漢字に関する事項では、ねらいを「文や文章の中で使う」としており、漢字を日常生活で使うことが求められている。各々の漢字の読み方を覚えることはもちろん、文脈に沿って正しく判断できる力や、熟語の意味を理解し自分の表現に取り入れられる力を育てていきたい。そのために、日常的に既習の漢字を用いる場面を設定したり、辞書を利用する習慣を身に付けさせ、言葉に興味や関心をもてるような機会を与えたりするなどの指導を通して、定着を図りたい。

# 大問3

## [1] 解答類型別の出現率

問題番号				解答形式	正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No.	大問	中問	小問					
12		(1)		選択	1	1	1	2.2
					2	2	2	1.1
					○ 3	3	3	95.7
					4	4	4	0.4
					上記以外の解答	9	9	0.1
					無解答	0	0	0.5
					13	3	(2)	
○ 2	2	2	60.4					
3	3	3	10.2					
4	4	4	7.1					
上記以外の解答	9	9	0.1					
無解答	0	0	1.9					
14		(3)		記述				
					はかり	2	2	35.2
					計る	3	3	0.3
					上記以外の解答	9	9	5.0
					無解答	0	0	3.3
15		(4)		選択	1	1	1	0.4
					2	2	2	0.9
					○ 3	3	3	95.9
					4	4	4	1.8
					上記以外の解答	9	9	0.1
					無解答	0	0	0.9

## [2] 出題のねらい

学習指導要領の〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕のうち、(1)イ「言葉の特徴やきまりに関する事項」(キ)の文の構成を理解すること、(ク)の接続語の役割を理解すること、(カ)の辞書を利用して調べる方法を理解すること、(1)ア「伝統的な言語文化に関する事項」(イ)の長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使うことについて学習の定着度を測る問題である。

(1)は、接続語の役割を理解できているかを問う問題である。文と文の関係を考え、接続語を使うことができるかを問う問題とした。

(2)は、主語を問う問題である。一昨年度、昨年度と正答率が低く、主語と述語の関係を正しくとらえられない児童がいる現状を踏まえ、今回も引き続き出題した。

(3)は、国語辞典を利用して調べる問題である。辞書を利用する能力や態度を育て、習慣をつけることは、第3学年及び第4学年で学習する内容である。国語辞典を利用して文中の言葉を調べることを想定し、調べたい言葉を適切な形に変える問題とした。

(4)は、長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、日常生活で活用できるかを問う問題とした。

## [3] 解説

(1) は、中学年の「指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し、使うこと。」を受けて、接続語を問う問題である。正答率は 95.7%と良好であった。正答率が高かった理由としては、「花畑を見つけた。」という一つ目の文に対して、「全ての花の名前を見つけることができなかった。」という予想される結果と異なる結果が示されていることを児童がよく理解していること、そして、「しかし」が逆接を意味する接続語であることを児童が理解し、正しく選択できたことが考えられる。今後も読みの学習の中や文章を書く様々な機会をとらえて、文脈に沿って接続語の役割を理解し、使うことの指導を続けていくことが大切である。

(2) は、低学年の「主語と述語との関係に注意すること」を受けて主語・述語の関係を問う問題である。正答率は 60.4%と昨年度よりも高かった。誤答の中で「わたしの」を選んだ児童が 20.3%いたのは、文の初めにあるものを主語ととらえてしまっていることに加え、「わたし」という言葉を主語と捉えてしまったと考えられる。「主語と述語の関係」は文の骨格をなし、文章や話を明確にするための基礎となる。このような「言葉の特徴やきまりに関する事項」は、そののみを取り立てて指導することだけでは定着は難しい。各領域の学習を通して、継続的・意図的に指導していくことが重要である。また、日常的な場面の中でも、主語を意識して話したり聞いたりさせることが大切である。

(3) は、国語辞典を利用して、言葉の意味を調べる活動を想定した問題である。正答率は 56.2%と昨年度に続き低い結果であった。誤答の中では「はかり」が 35.2%と多く、文中の「計りました」という動詞を調べる時には、言い切りの「計る」という形にして調べることが理解できていない児童が多い。定着していない理由として考えられることは、技能として身に付けた力を、生活の中で活用する機会が乏しいことが考えられる。繰り返し継続的に活用していくことで、技能は定着していく。第3学年及び第4学年は、辞書を活用する能力や態度、習慣の基礎を育てる時期である。国語科に限らず、他の教科での調べる学習や日常生活の中で、必要なときにはいつでも辞書が手元にあって使えるように指導しておくことが重要である。

(4) は、ことわざの意味を正しく理解しているかを問う問題である。正答率は 95.9%と良好であった。ことわざは児童にとって身近なものであり、また興味をかき立てられるものであると考えられる。その背景には、国語科の学習の中だけではなく、学級指導などの折を見て、教師が日常的にことわざや慣用語に触れる機会を設けているからであろう。今後も学習や日常生活の中で、ことわざや慣用語を活用する態度を育み、正しく意味を理解させることが大切である。

# 大問 4

## [1] 解答類型別の出現率

問題番号				解答形式	正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No.	大問	中間	小問					
16		(1)		選択	1	1	1	10.4
					2	2	2	21.5
					○ 3	3	3	61.5
					4	4	4	5.8
					上記以外の解答	9	9	0.1
					無解答	0	0	0.8
					17		(2)	
2	2	2	8.4					
○ 3	3	3	71.5					
4	4	4	7.1					
上記以外の解答	9	9	-					
無解答	0	0	1.1					
18	4	(3)		選択				
					○ 2	2	2	79.5
					3	3	3	8.9
					4	4	4	3.3
					上記以外の解答	9	9	-
					無解答	0	0	1.0
					19		(4)	
2	2	2	4.1					
3	3	3	2.3					
4	4	4	10.6					
上記以外の解答	9	9	0.2					
無解答	0	0	1.0					
20		(5)		選択				
					2	2	2	1.4
					3	3	3	2.3
					○ 4	4	4	89.2
					上記以外の解答	9	9	0.2
					無解答	0	0	1.0

## [2] 出題のねらい

学習指導要領における第3学年及び第4学年の「読むこと」の目標は、以下の通りである。

「目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。」

文学的な文章では想像しながら読み進めていく力、すなわち、「場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読む」力を身に付けさせたい。

- (1) は、場面の様子がよく分かるように音読する言語活動を想定した問題である。登場人物の様子や気持ちをとらえて音読する工夫を問うている。
- (2) は、叙述をもとに、登場人物の気持ちをとらえることができているかを問うている。
- (3) は、叙述を手がかりに登場人物の言いたいことをとらえる問題である。
- (4) は、登場人物の行動についてそのときの気持ちと様子をとらえる問題である。
- (5) は、感想を述べ合う言語活動を想定した問題である。物語全体の内容から登場人物の気持ちを考えて話し合っている。

## [3] 解説

(1) は、お父さんの言葉を受けたお母さんの言葉を音読する時に、その人物の気持ちを考えた読み方を問う問題である。正答率は 61.5%と低い結果であった。誤答として「お父さんにたずねるような言い方で読む」と書かれている選択肢を選んだ児童が 21.5%と多かった。傍線部のみに注目し、「なんとかする気はないってことね。」という語尾の表現から判断したと考えられる。学習指導要領には、場面の様子がよくわかるように音読することが求められている。そのためには、一文一文の表現だけでなく、場面を意識して、そのときの登場人物の様子や気持ちをとらえた音読の仕方を考えることが大事である。おじいちゃんを心配し、困り果てた様子でいるお母さんが、お父さんの「そのうちになんとかなるよ。」という言葉を受けた場面をとらえ、その後の「腹を立てて」という叙述も合わせて考え、正しい選択肢を選びたい。

(2) は、お母さんからの言葉に「ひまり」がどのような気持ちになったかをとらえる問題である。正答率は 71.5%であった。登場人物の行動や会話に即しながら、読んでいくと「ひまり」の気持ちをとらえることができる。傍線部前「そのとたんに、ひまりの口から言葉がこぼれた。」という表現からは、おじいちゃんのことを思って言葉が突然に出たことがわかる。それに対するお母さんの行動や会話から、「ひまり」が思いがけず褒められた様子もわかる。「鼻がくすぐったくなった。」とは文脈から照れくさいようなうれしいような気持ちの現れである。「いつもやさしいお母さんに感謝する気持ち。」を選んだ児童は 11.9%で、「ありがとね。」の表現から選んだと思われる。地の文や行動、会話から関連的に登場人物の気持ちを想像したい。

(3) は、おばあちゃんがなくなってさみしい思いをしているおじいちゃんを元気づける役目となった「ひまり」が、おじいちゃんに電話をかけたときの「ひまり」の一番言いたいことを考える問題である。正答率は 79.5%と概ね良好であった。誤答として「どこかへ連れてって」を選んだ児童は 8.9%であった。元気のないおじいちゃんを外に連れ出すということから選んだと考えられるが、物語全体を読むと、いっしょにプールへ行くことを言いたい「ひまり」をとらえることができる。

(4) は「うかがうように耳をすませた」ときの「ひまり」の様子を読み取る問題である。正答率は 81.9%で概ね良好である。「うかがうように」「耳をすませた」の2つの表現から「返事がわからなくてどきどきする」様子が想像できる。「プールに行くことが決まってわくわくする。」を選んだ児童が 10.6%いた。おじいちゃんの答えが出ていない状況であることをとらえられていないことがわかる。地の文や会話から関連させて、そのときの状況を正しく把握して読み進める力も育てていきたい。

(5) は、読書後に感想を述べ合う言語活動を想定し、登場人物の気持ちについて友達が疑問に思ったことに答えている場面である。正答率は 89.2%で良好であった。叙述から登場人物の性格を押さえ、登場人物同士の関係を考えながら読むことで、登場人物の気持ちを理解したことがわかる。また、普段の授業から、文学的文章の解釈について、交流や話し合いをする言語活動が大切にされていると考えられる。

# 大問5

## [1] 解答類型別の出現率

No.	問題番号			解答形式	正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
	大問	中間	小問					
21		(1)	記述	○	落ち葉・鳥の羽(順不同)	1	66.7	
					「落ち葉」または「鳥の羽」という言葉は書かれているが、もう一つが空欄、または他の語句(疑似餌を除く)である場合	2	0.5	
					疑似餌(ぎじえ)	3	3.7	
					「おち葉」「おちば」「鳥(しま)の羽」などのように、抜き出す箇所は正しいが、漢字が平仮名になっていたり、漢字が間違っていたりした場合。	4	5.5	
					上記以外の解答	9	10.5	
					無解答	0	13.0	
22		(1)	記述	○	鳥の羽・落ち葉(順不同)	1	69.9	
					「落ち葉」または「鳥の羽」という言葉は書かれているが、もう一つが空欄、または他の語句(疑似餌を除く)である場合	2	0.7	
					疑似餌(ぎじえ)	3	0.8	
					「おち葉」「おちば」「鳥(しま)の羽」などのように、抜き出す箇所は正しいが、漢字が平仮名になっていたり、漢字が間違っていたりした場合。	4	1.9	
					上記以外の解答	9	9.9	
					無解答	0	16.8	
23	5	(2)	選択	1		1	16.0	
				2		2	4.7	
				3		3	7.1	
				○ 4		4	70.6	
					上記以外の解答	9	0.1	
					無解答	0	1.4	
24		(3)	選択	1		1	4.5	
				2		2	7.4	
				3		3	9.0	
				○ 4		4	76.3	
					上記以外の解答	9	0.1	
					無解答	0	2.7	
25		(4)	記述	○	道具使いの名人	1	54.0	
					名人	2	-	
					上記以外の解答	9	29.5	
					無解答	0	16.6	
26		(5)	記述	○	・以下のような内容を書いていること。 「クルマや二まい貝の上を自動車が通ると」 * 語句や表現などが異なっても、同様の内容が書かれていれば正解。 →ただし、「クルマ」「二まい貝」という二つの言葉を必ず使っていること。 * 空欄のあとの文につながるように書いていること。 * 誤字脱字は問わない。 * 解答用紙には「、」があるが、文末に「、」がついていても構わない。	1	30.4	
					「クルマ」「二まい貝」(順不同)という言葉が使われていない場合	2	20.2	
					「(クルマや二まい貝の上を)自動車が通る」という要素が欠けている場合	3	14.6	
					上記以外の解答	9	21.0	
					無解答	0	13.9	

## [2] 出題のねらい

学習指導要領における第3学年及び第4学年の「読むこと」の目標は、以下の通りである。

「目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。」

説明的な文章では、「目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読む」力を身に付けさせたい。ここでいう「中心」とは、一般には「中心語」、「中心文」、「中心段落」など、文章全体の中で相対的に重要と位置付けられている部分のことである。中心をとらえるためには、接続語、指示語、文末表現に注意しながら、段落相互のつながりを理解し、内容や要点を的確に把握することが必要である。そうした力の定着度を測るために、以下のような問題を設定した。

大問5は、説明文に書かれていることを目的に応じて読み、その内容や段落相互の関係を的確にとらえる力を問う問題である。

- (1) は、目的に応じて、文章の細かい点に注意して読む力を問う問題である。
- (2) は、文章内の記述をもとに中心となる語や文をとらえ、書かれていることを読み取れているかをみる問題である。
- (3) は、文中に示された内容など、細かい点に注意して文章を読む力を問うている。
- (4) は、文中に示された内容など、細かい点に注意して文章を読む力を問う問題である。
- (5) は、文章をもとにしたクイズに答えるという目的に応じて、細かい点に注意して本文全体を読み、内容を理解して要約できるかどうかを問う問題である。目的や必要に応じて、もとの文章のどの部分を取り上げるかを決め、分量を考えて要約する力が求められる。

### [3] 解説

(1) は、目的に応じて、文章の細かい点に注意して読む力を問う問題である。正答率は69.9%と低い。文章をよく読んで前後の文脈をとらえる指導が必要である。設問の指示を見落としていると思われる誤答が見られる。「抜き出して書く」という指示に対して、漢字の誤りがあったりひらがなで書いていたりといった例がある。また、無回答の割合も16.8%と高めであった。

(2) は、文章内の記述をもとに中心となる語や文をとらえ、段落相互の関係から書かれていることを読み取れているかを見る問題である。正答率は70.6%であった。選択肢1「また」を選択している割合が16.0%となっていることから、段落相互の関係が意識できていないため、文章全体から読み取ることができていないことが考えられる。空欄の前後の文章を読み比べて、空欄の前にある「都市部に進出している鳥」「うまく道具を使う」という言葉を手がかりに、空欄の後ろにあるカラスについての記述と結び付けて、サギ以外の例示であることがわかれば、正答選択肢を選ぶことができる。今後も読みの指導の中で説明されていることを目的に応じて読み取る力を育成したい。

(3) は、文中に示された内容など、細かい点に注意して文章を読む力を問う問題である。正答率は76.3%と概ね良好であった。文章全体から内容を読むことができたと考えられる。誤答選択肢3「人間が作った道具を人間と同じように使っている」を選んでいる割合が二番目に高く、9.0%となっている。正答選択肢4「都会にあるいろいろな物を上手に利用している」との違いは「利用する」という要素となる。このことから文中の「利用」という言葉に着目できれば、正答選択肢を選ぶことができたと考えられる。

(4) は、文中に示された内容など、細かい点に注意して文章を読む力を問う問題である。正答率は54.0%と低い結果であった。傍線部の前後の文章を読んで、「道具使いの名人」の主語が「フィンチ」であることを手がかりに、言いかえている言葉を探ることができた児童が、正答選択肢を選ぶことができたと考えられる。「道具使いの名人」以外の誤答が29.5%と多い。今後も読みの指導の中で、説明されていることを目的に応じて読み取る力を育成したい。

(5) は、文章をもとにしたクイズに答えるという目的に応じて、細かい点に注意して本文全体を読み、内容を理解して要約できるかどうかを問う問題である。正答率は30.4%と低い結果であった。誤答の原因として、自動車がクルマや二枚貝の上を通過することでかたい殻が割れるという文章を見逃し、「空から落とす」という文章だけを読んで判断してしまっていることが考えられる。目的に応じて文章の要点に注意しながら読み、引用や要約をする力を育てていきたい。

# 大問 6

## [1] 解答類型別の出現率

問題番号				解答形式	正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No.	大問	中問	小問					
27	6	(1)		選択		1	1	2.8
						2	2	3.6
						3	3	3.8
					○	4	4	85.0
						上記以外の解答	9	0.1
						無解答	0	4.8
					28	(2)		選択
	ア 1 イ 2 ウ 3	2	24.6					
	上記以外の解答	9	48.7					
	無解答	0	5.5					

## [2] 出題のねらい

学習指導要領における第3学年及び第4学年の「書くこと」の目標は、以下の通りである。

「相手や目的に応じ、調べたことなどが伝わるように、段落相互の関係などに注意して文章を書く能力を身に付けさせるとともに、工夫をしながら書こうとする態度を育てる。」

言語活動例「目的に合わせて依頼状、案内状、礼状などの手紙を書くこと。」から、実用的な文章を書く力がどれだけ身に付いているのかという実態をみたいという意図で、お礼の手紙の書き方や後付けにおける署名と宛て名の位置関係を理解しているかを問うている。

## [3] 解説

(1) は、手紙の文章を推敲し、ふさわしい言葉に直す問題である。正答率は、85.0%と良好であった。

(2) は、後付けにおける日付や署名、宛て名の位置を問う問題である。正答率は21.2%と低い結果であった。解答類型別の出現率からも、全く理解していない児童が多数いると考えられる。その原因の一つとして、日常生活の中で、児童の手紙やはがきを書く経験が少ないことが挙げられる。学習指導要領の第3学年及び第4学年の「書くこと」の領域の言語活動例にも、実用的な文章を書く活動が挙げられ、「表書きに宛て名や住所などを正しく書くことや、後付けにおける署名と宛て名の位置関係といった基本的な形式なども押さえることが求められる。」とある。今後、さまざまな目的や行事に合わせて、礼状や招待状などの実用的な文章を書く機会を取り入れ、指導していくことが大切である。

## 大問7

## [1] 解答類型別の出現率

問題番号		解答形式	正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No.	大問 中間 小問					
【大問7共通事項】						
			誤字脱字は問わない。 原稿用紙の使い方の間違いは問わない(ただし、段落書き始めの1マス空けを除く)。			
29	(1)	論述	○	6行以上10行以内(101字以上200字以内)で書いている場合	1	70.9
				【補足】 * 1行目に題名や自分の名前が書いてあっても問わない。 (ただし、その部分は行数としてカウントしない。) * 段落分け以外の箇所でも改行して書いていても可。 (行数でカウントする。ただし、間に空白行があった場合は、その部分はカウントしない。) * 内容の良し悪しにかかわらず、上記の行数(文字数)で書いていけば可。 11行(201字)以上書いていた場合は不可。→「3」	1	14.4
				6行未満(101字未満)で書いている場合	2	0.4
				11行以上(201字以上)で書いている場合	3	-
				上記以外の解答	9	-
無解答				0	14.2	
30		論述	○	3段落構成で書いている場合	1	56.6
				【補足】 * 段落間の内容のつながりは問わない。 * 3段落目が、書きだし途中、文章として成立していない場合でも可。 * 段落の頭が1マス空けていない場合は不可。→「2」	1	
				3段落に分けて書いているが、段落の書きはじめの1マス空けができていない場合	2	3.1
				3段落未満で書いている場合	3	20.8
				4段落以上で書いている場合	4	4.5
上記以外の解答				9	0.8	
無解答				0	14.2	
31	7	① 論述	○	「自分がどのグラフを選んだのか」がわかるように書かれている場合	1	84.4
				【補足】 * 一つではなく、複数のグラフを選び、比較するような内容でも可。 * 「時間のグラフ」のようにグラフ名が省略されていても、どのグラフかがわかるようになっていけば可。 * グラフ名ではなく、「いちばん右のグラフ」などといった書き方でも可。	1	
				どのグラフを選んだのか書かれていない。	2	0.9
				上記以外の解答	9	0.4
無解答				0	14.2	
32	(2)	② 論述	○	「選んだグラフを見てわかったこと」が書かれている場合	1	77.4
				【補足】 * グラフの内容を正しく読み取っていれば、どのような観点から書かれていても可。	1	
				【グラフの特徴】(例) 「けがをした場所」 ・「教室」が最も多い／「教室」や「校庭」でけがをする人が多い 「けがの種類」 ・「打ち身」が最も多い 「けがをした時間」 ・「休み時間」が最も多い	1	
				グラフを見てわかったことが書かれていない。	2	5.4
				グラフから全く読み取ることができないことを書いている。	3	1.5
上記以外の解答				9	1.5	
無解答				0	14.2	
33	③ 論述	○		「自分の考え」がはっきりと書かれている場合	1	65.5
				【補足】 ・グラフと関係して、自分の考えが書かれていれば内容はどのようなものでも問わない。 ・グラフと関係して、自分の考えがくわしく書かれていけば可。 ・設問では「三つめの段落には～」とあるが、「自分の考え」が書いてあれば、どの段落に書かれていても可。	1	
				「よくない」「変えたほうがよい」などといっただけで、内容が具体的ではない場合	2	-
				「おどろいた」「感心した」などといったように、自分の考えではなく、単なる感想になっている場合	3	2.6
				グラフとは全く関係のないことを書いている場合	4	0.1
上記以外の解答				9	17.5	
無解答				0	14.2	

## [2] 出題のねらい

解答者が保健委員会に所属しているという場面設定になっている。4月の1週間に起きた怪我の結果から分かることを発表するためにグラフを一つ選び、そのグラフの中から分かることや自分の考えを報告する文章を記述するという相手意識をもって書くことができる題材を設定した。

目的に応じて書こうとする題材に必要な事柄を集め、自分の考えが明確になるように段落相互の関係などに注意して文章を構成し、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くことができるかを問うている。

## [3] 解説

「4月の1週間に起きた怪我の情報を集計したグラフから分かったことを報告する」文章を記述する問題である。注意する点を五つ示し、採点基準としている。

(1)の条件は、定められた文字数で自分の考えをまとめることである。正答率は、70.9%であった。無回答が14.2%もあり、自分の考えを条件に合わせてまとめることを苦手としている児童も少なくない。条件に合わせて書くことを、日頃から取り組ませていきたい。

(2)の条件は、3段落構成で書くことである。正答率は56.6%であった。文章を書く際、段落の書きはじめの決まりを理解していないことや、段落の役割を理解していないことが考えられる。今後も段落の役割や意味を繰り返し確認し、段落相互の関係などに注意して文章を書く力を育てていきたい。

(2)－①の条件は、「自分がどのグラフを選んだのか」を書くことである。正答率は84.4%と概ね良好であった。問いに対して、書こうとする中心を明確にして書くことができている。

(2)－②の条件は、選んだグラフを見て分かったことを書くことである。正答率は77.4%であった。グラフから全く読み取ることができないことを書いている解答は1.5%と低く、資料の中から情報を読み取って書くことができている。

(2)－③の条件は、自分の考えを書くことである。正答率は65.5%であった。学習指導要領の第3学年及び第4学年には、「書くこと」の内容(1)のウ「書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。」と書かれているように、理由や事例を挙げながら自分の考えを書いていく力が求められる。また、高学年の「事実と感想、意見を区別して書く力」を意識した学習にも多く取り組ませたい。

自分の考えを明確に伝えるためには、理由や事例を挙げて書くことが効果的であることを実感させたい。そのためには、児童が書く相手や目的を明確にもつことのできる場面の設定が必要となる。指導者は、児童の書く意欲をかき立てる題材を考えることが大切である。

## (5) 今後の指導にあたって

### ○話すこと・聞くこと【大問1】

「話すこと・聞くこと」についての調査結果は、良好であった。中学年の「話すこと・聞くこと」の目標では、話題については「目的」を明確にし、相手については多様な相手へと広がることが求められている。そのため、様々な目的のある学習の場を設定することが必要となってくる。話すときには、理由や事例を挙げながら筋道を立てることや、話す順序や話の組み立て方を工夫することを日常的に指導することが大切である。聞くときには、話し手がどのような課題について調べ、分かったことや考えたことをまとめているかに気を付けて聞き、その内容や説明や報告の分かりやすさなどについて意見をまとめたり、感想を述べたりする活動を取り入れていくことも必要である。意見をまとめるために、話の要点、気付いたことや連想したことなどをメモすることが有効であることを指導者が意識し、メモをとることができる力も育てていきたい。

### ○書くこと【大問6・7】

手紙の基本的な形式を問う問題と、与えられた条件をもとに記述する問題を出題した。手紙を書く際の後付けにおける署名と宛て名の位置関係を理解しているかを問う問題の正答率は 21.2%と昨年度に引き続き低い結果となった。学習指導要領の第3学年及び第4学年の「書くこと」の領域の言語活動例にも、実用的な文章を書く活動が挙げられ、「表書きに宛て名や住所などを正しく書くことや、後付けにおける署名と宛て名の位置関係といった基本的な形式なども押さえることが求められる。」とある。今後、様々な行事や目的に合わせて、礼状や招待状などの実用的な文章を書く機会を取り入れて、実生活に生きる書く力を育てていきたい。

3段落構成で書くという条件の通り記述できるかを問う問題では、正答率は 56.6%と低い結果であった。文章を書く際には、構成メモを活用するなどの手立てをとりながら、段落意識を身に付けさせていきたい。また、自分の考えが明確になるように、段落相互の関係を取り上げて指導する必要がある。今後も相手意識、目的意識をより明確にし、書く目的として、伝える、報告する、説明する、依頼する、案内するなど具体的な生活の中で必要となるものを取り上げながら書く力の向上を図りたい。

### ○読むこと【大問4・5】

「読むこと」については、文学的な文章、説明的な文章いずれにおいても、目的に応じて内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む能力を育てていきたい。読むことによって何を得ようとするのか、またどのように活用しようとするのかなどについて考え、目的意識をもって主体的に読むことのできる学習場面を設定しなくてはならない。

文学的な文章では、普段から場面ごとの読み取りではなく全文通読の中で、キーセンテンスやキーワード（重要語句）と関連付けて情景や心情を読み取ったり、場面の移り変わりに注意しながら読んだりする指導に力を入れたい。今回出題した問題では、平均正答率は、76.7%であった。今後も物語の全体をとらえる読みを普段からも行っていくことが肝要である。

## II 調査結果の概要

説明的な文章では、文章を読む目的に応じて中心となる語や文をとらえられるような学習を工夫することが今後の課題である。その時ポイントとなることは、取り上げる中心となる言葉や文も変化してくることを意識しながら、内容を整理していく指導が大切である。また、〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(1)イの「(ク) 指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し、使うこと。」と関連付けて、指示語や接続語、文末表現に注意して読ませることも取り組ませていきたい。

今後も、多くの文章を読むという読書の量的な向上と、いろいろな種類の本や文章を読んで読書の分野を広げるといった質的な向上の両方を指導者が意識しながら、読書しようとする態度を育て、そのことを通して、「豊かな心」の育成にも励んでいきたい。

### ○伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項【大問2・3】

---

漢字の「書き」については、漢字や送り仮名が正しく書けていなかったり、未記入にしていたりする児童が少なくなかった。漢字による表記を習慣化させなければ曖昧な漢字の獲得にしかない。国語辞典を身近に置いて活用する習慣を付けさせ、作文やノートを書く際や、日記や連絡帳など様々な書く場において日頃から既習の漢字を積極的に使うように指導し、定着を図っていきたい。

主語や述語の問題での正答率は良好とは言えなかった。こうした事項は、一度学習しただけではなかなか定着しないものである。文章を読んだり、表現したりする中で、意識できるように指導し、継続的、意図的に指導していきたい。また、「国語辞典で調べる場面を想定した問題」についても、良好とは言えない結果であった。引き続き日頃の国語学習において、児童が必要に応じて辞書を利用できる環境づくりに努めたい。「ことわざを問う問題」では正答率は95.9%と良好であった。今後もことわざや慣用句の意味を知り、興味をもつことで言語生活を豊かにしていきたい。

### ◎全体を通して

---

全体としては概ね満足できる結果が得られたが、今後取り組むべき課題もみえてきた。この調査は「指導に生かす」ことを目的として実施されたものであるから、各学校、各学級においても課題を整理し、各大問の「出題のねらい」、「解説」を参考にして、明日からの国語科の指導の改善に生かしていくことが望まれる。なお、言葉の力を育てるためには、国語の時間に指導することを中核としながら、学校教育全体で取り組むことも大切である。また、実生活で生きて働き、各教科等の学習の基本ともなる国語の能力を育成するためにも、言語活動の工夫とその充実を図っていくことが重要である。言語環境を整備したり、読書活動を充実させたりするなど、各学校の工夫が望まれる。



# 2. 算 数

## (1) 作問にあたって

- ① 川崎市全体における第5学年の学習状況を把握するため、より客観的なデータが得られるように作問を行った。したがって、出題範囲を第4学年までとし、基礎・基本の定着及び活用の様子を見ることができると考え、過去の問題と関連したものも継続して出題することによって、解答傾向の推移も把握できるように配慮した。
- ② 学習指導要領において、算数科は「数と計算」、「量と測定」、「図形」、「数量関係」の4領域で構成されている。そこで、幅広い範囲において学習状況を把握していくために、4領域の項目についてすべて網羅するように出題した。
- ③ 主たる評価観点を考えた上で問題を作成したが、「算数への関心・意欲・態度」の評価観点については、ペーパーテストでみることは難しいと考え、評価の観点としては取り上げないことにした。他の「数学的な考え方」、「数量や図形についての技能」、「数量や図形についての知識・理解」の3観点については網羅するようにした。
- ④ 本調査は、児童の学習の実態状況を把握するとともに、各校の教育課程や指導法の検証・改善に生かすことなどをねらいとして行われるものである。したがって、作問にあたっては、解答類型を分析し、調査後どのような点に気を付けて指導していけばよいのかが分かるように配慮した。
- ⑤ 活用する力の状況を把握するため、角の大きさの工夫した求め方を説明する問題や、平行四辺形を作図する際に使う性質を問う問題、面積を求める上で条件過多となっている問題などを設定した。そのため、平成27年度調査の結果は前年度より難易度が高くなっており、結果として全体的に正答率が昨年度よりも低くなっている。したがって、各学校が昨年度までと比較したり傾向を見たりするためには、この点を考慮する必要がある。

## (2) 領域ごとの結果

領域		該当する問題番号	正答率(%)
A	数と計算	[大問1](1)(2)(3)(4)(6)(7) [大問2] [大問3](1)(2)(3) [大問4](1)(2) [大問5] [大問8](1)(2)	66.4
B	量と測定	[大問10] [大問11](1)(2) [大問17](1)(2)①②	53.2
C	図形	[大問12] [大問13](1)(2) [大問14](1)(2)	56.6
D	数量関係	[大問1](5) [大問6] [大問7] [大問9] [大問15](1)(2)(3) [大問16]	60.1

## (3) 出題・観点等一覧 (次ページ)

出題・観点等一覧

大問番号	小問番号	解答形式		正答 (選択式→番号、記述式→言葉)	観点		問題の内容	領域	出題のねらい	学習指導要領	正答率
		選択	記述		数学的な考え 方	知識・理解 技能					
1	(1)	☆		6.04	◎		小数のたし算・ひき算	A数と計算	小数第二位までの小数の加法ができる	4年A(5)イ	82.6
	(2)	☆		40.98	◎		小数のたし算・ひき算	A数と計算	小数第二位までの小数の減法ができる	4年A(5)イ	64.5
	(3)	☆		25.2	◎		小数と整数のかけ算・わり算	A数と計算	(小数)×(1けた)の乗法ができる	4年A(5)ウ	83.5
	(4)	☆		1.75	◎		わり算	A数と計算	(整数)÷(整数)のわり進む除法ができる	4年A(5)ウ	64.9
	(5)	☆		9	◎		式と計算	D数量関係	四則混合計算ができる	4年D(2)ア	81.4
6	(6)	☆		$6\frac{1}{5}$ または $\frac{31}{5}$	◎		分数のたし算・ひき算	A数と計算	帯分数を含む同分母分数の加法ができる	4年A(6)イ	73.8
	(7)	☆		$\frac{5}{7}$	◎		分数のたし算・ひき算	A数と計算	帯分数を含む同分母分数の減法ができる	4年A(6)イ	66.4
8	(8)	☆		5(本とれて)2.8(cmあまる)	◎	◎	小数と整数のかけ算・わり算	A数と計算	(小数)÷(1けた)の余りのある除法の通用問題ができる	4年A(5)ウ	44.5
	(9)	☆		18	◎	◎	わり算	A数と計算	分数が単位分数のいくつ分かで表せることがわかる	4年A(5)ウ	69.3
10	(10)	☆		$1\frac{4}{5}$ または $\frac{9}{5}$	◎	◎	分数の大きさ	A数と計算	テープ図に示された分数を読み取ることができる	4年A(6)	43.4
	(11)	☆		$3\frac{2}{5} (>) 3 (>) \frac{13}{5}$ (完)	◎	◎	分数の大きさ	A数と計算	分数の大小がわかり、仮分数・帯分数・整数を大小順に並べることができる	4年A(6)	73.7
	(12)	☆		704億	◎	◎	大きな数	A数と計算	位取り記数法を理解し、1億より大きい数を表すことができる	4年A(1)ア	66.9
14	(14)	☆		89000 または 約89000	◎	◎	がい・数	A数と計算	数直線に示された数を読み取ることができる	4年A(2)イ	88.9
	(15)	☆		(左から)ー、×	◎	◎	式と計算	D数量関係	四捨五入を理解し、千の位までの概数で表すことができる	4年A(2)イ	69.4
16	(16)	☆		4	◎	◎	式と計算	D数量関係	計算順序に関する文章問題を式に表すことができる	4年D(2)ア	33.3
	(17)	☆		3	◎	◎	かけ算・わり算	A数と計算	四則混合計算の仕方がわかり、指定された式になる問題を選抜できる	4年D(2)ア	74.1
18	(18)	☆		$1600 \div 4 (=400)$ または $\square \times 4 = 1600$	◎	◎	式と計算	A数と計算	倍とわり算の問題を図に表すことができる	4年A(3)	52.9
	(19)	☆		100 または (29+71)	◎	◎	式と計算	D数量関係	図をもとに正しく式を立てることができる	4年D(3)ア	51.4
20	(20)	☆		☆ い、の角度は、一回転の角度よりどれだけ小さいかを調べて求めることができる。	◎	◎	角	B量と測定	180°より大きい角のくふうした求め方を説明することができる	4年B(2)ア、イ	30.3
	(21)	☆		$360 - 140 = 220$	◎	◎	角	B量と測定	180°より大きい角のくふうした求め方がわかる	4年B(2)ア、イ	64.3
22	(22)	☆		220	◎	◎	角	B量と測定	180°より大きい角のくふうした求め方がわかる	4年B(1)ア	68.0
	(23)	☆		2	◎	◎	面積	B量と測定	面積の大きさについての感覚を身につけている	4年B(1)ア	27.2
24	(24)	☆		(式) $7 \times 7 (=49)$ (答え) $49(\text{cm}^2)$	◎	◎	面積	B量と測定	正方形の面積を求めることができる	4年B(1)ア、イ	61.2
	(25)	☆		2	◎	◎	面積	B量と測定	正方形の面積を求めることができる	4年C(1)イ	32.3
26	(26)	☆		ア、イ、エ(順不同、完答)	◎	◎	垂直・平行と四角形	C図形	向かい合った角の大きさの性質がわかる	4年C(1)イ	71.1
	(27)	☆		イ、エ(順不同、完答)	◎	◎	垂直・平行と四角形	C図形	四角形の対角線の性質がわかる	4年C(1)イ	58.7
28	(28)	☆		4	◎	◎	立体	C図形	直方体の展開図がわかる	4年C(2)ア、イ	52.6
	(29)	☆		辺エウ、辺オカ、辺クキ (順不同)	◎	◎	立体	C図形	直方体の辺に平行な辺がわかる	4年C(2)ア、イ	68.3
30	(30)	☆		12分後	◎	◎	変わり方	D数量関係	折れ線グラフから中間値を読み取ることができる	4年D(2)ウ	76.3
	(31)	☆		ウ(のコンロ)	◎	◎	変わり方	D数量関係	折れ線グラフから二つの数量の変化を読み取って、題意に合うグラフを判断している	4年D(4)イ	56.4
32	(32)	☆		☆ グラフの内容をもとに説明できている	◎	◎	変わり方	D数量関係	折れ線グラフの特徴を思い出し、具体的な事象と結び付けて考え、理由を説明することができる	4年D(4)イ	44.7
	(33)	☆		24cm	◎	◎	変わり方	D数量関係	数量の関係を読み、脚べることができる	4年D(2)ウ	67.7
34	(34)	☆		$\square \times 4 (= \Delta)$ または $\square + \square + \square + \square (= \Delta)$	◎	◎	変わり方	D数量関係	ともなって表れる二つの数量の関係を式に表すことができる	4年D(2)ウ	54.1
	(35)	☆		$9 \times 9 (=81)$ または $(12-3) \times 9 (=81)$ または $(5+4) \times 9 (=81)$	◎	◎	面積	B量と測定	複合図形の面積の求め方を考え、式に表すことができる	4年B(1)ア、イ	58.6
36	(36)	☆		矢印が正しい位置に書かれている	◎	◎	面積	B量と測定	複合図形の面積の求め方を考え、変形することができる	4年B(1)ア、イ	65.4
	(37)	☆		①「長方形」だととらえたことを説明している ②「図形を」動かしただけだと説明している	◎	◎	面積	B量と測定	複合図形の面積の求め方を考え、説明することができる	4年B(1)ア、イ	50.9

【観点について】◎が主たる観点、○が従たる観点、○が従たる観点を表しています。

【解答形式について】問題が「選択問題」、「記述問題」のどちらであるかを☆で表しています。

(4) 大問ごとの分析と考察

# 大問 1

[1] 解答類型別の出現率

No.	問題番号			解答形式	正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
	大問	中間	小問					
1	1	(1)	短答	○ 6.04	1		82.6	
				604	2		0.1	
				2.89	3		4.1	
				28.9	4		0.5	
				289	5		0.1	
				上記以外の解答	9		12.3	
				無解答	0		0.3	
				2	(2)	短答	○ 40.98	1
4098	2		0.1					
41.02	3		4.9					
410.2	4		0.1					
4102	5		-					
4.11	6		1.0					
上記以外の解答	9		27.1					
無解答	0		2.3					
3	(3)	短答	○ 25.2	1		83.5		
			252	2		3.5		
			21.42	3		0.4		
			上記以外の解答	9		11.6		
4	(4)	短答	○ 1.75	1		64.9		
			175	2		13.3		
			1あまり6	3		1.0		
			上記以外の解答	9		16.5		
			無解答	0		4.4		
5	(5)	短答	○ 9	1		81.4		
			60	2		11.9		
			上記以外の解答	9		5.2		
			無解答	0		1.6		
6	(6)	短答	○ $6\frac{1}{5}$ または $\frac{31}{5}$	1		73.8		
			$\frac{6}{5}$	2		17.6		
			$\frac{6}{5\frac{10}{10}}$	3		0.1		
			上記以外の解答	9		7.2		
			無解答	0		1.2		
7	(7)	短答	○ $\frac{5}{7}$	1		66.4		
			$\frac{2}{7}$	2		5.3		
			$\frac{1}{4\frac{1}{7}}$	3		1.3		
			上記以外の解答	9		23.4		
			無解答	0		3.5		

[2] 出題のねらい

大問1は、第4学年で学習する計算問題をまとめて出題している。(1)～(4)と(6)(7)は「数と計算」、(5)は「数量関係」領域の問題となっており、いずれも数量についての技能をみる問題である。

(1)は、小数第二位までの小数の加法の問題で、被加数を小数第二位までの小数、加数を小数第一位までの小数にすることで、位取りを意識して計算できているかをみる。

(2) は、小数第二位までの小数の減法の問題である。被減数は小数第一位までの小数、減数は小数第二位までの小数にして、小数点を意識して計算できているかをみる。

(3) は、小数×整数＝小数となる問題で、被乗数の小数点を意識して、積の小数点の処理ができているかをみる。

(4) は、 $(2 \text{ 桁}) \div (1 \text{ 桁})$  で、割り進みの除法の問題で、割り進む場合の除法ができているかをみる。

(5) は、四則混合の問題で、四則計算の順番について加減乗除が混合している場合は、乗除から先に計算できているかをみる。

(6) は、帯分数を含む同分母分数の加法の問題で、同分母分数の加法の仕方に加え、分数部分が仮分数の形になったときの、帯分数の整数部分の処理ができているかをみる。

(7) は、帯分数を含む同分母分数の減法の問題で、同分母分数の減法の仕方に加え、分数同士の減法ができない場合は、整数の1を分数にして処理することができているかをみる。

### [3] 解説

(1)  $2.54+3.5$  の正答率は 82.6% だった。昨年度の  $3.62+4.3$  の正答率 73.1% よりも上昇しており、小数点の位置をそろえて計算することは概ね理解できていることが分かる。今後も、どのような数値であっても位をそろえ、単位量が同じものを（位をそろえて）計算する習慣を身に付けるよう指導していくことが大切である。

(2)  $50.1-9.12$  の正答率は 64.5% だった。昨年度の正答率 59.5% と比較するとやや上昇しているが、(1) と比べて低い正答率となっている。昨年度の問題と同様、小数第一位までの小数から小数第二位までの小数を減ずる問題であったが、繰り下がりが必要な減法のため、計算処理を間違えたり、(1) と同様に位取りを間違えたりした結果、低い正答率につながったものと考えられる。学習指導要領では、小数点をそろえて位ごとに計算するなど、小数の仕組みの理解の上で立つて行うようにすると示されていることから、(1) の問題と同様に、位をそろえて計算できるように引き続き指導していくことが必要である。

(3)  $3.6 \times 7$  の正答率は 83.5% と高い。小数と整数の乗法の仕方は概ね身に付いていると考えられる。しかし、25 年度の正答率 93.1% と比較すると 10 ポイント低くなっている。

(4)  $14 \div 8$  の正答率は 64.9% であり、昨年度と同程度の正答率である。「175」と小数点を付け忘れている誤答が 13.3% あり、こちらも同程度の誤答率である。引き続きわり進みの計算の仕方の意味を、図などをもとにして理解させながら、処理技能の習熟を図る必要がある。

(5) 四則混合の計算である「 $17-2 \times 4$ 」の正答率は 81.4% であった。昨年度の正答率 81.7% とほぼ同様である。加法・減法より乗法・除法を先に計算するという四則混合計算のきまりについての指導が充実していると考えられる。しかし、「 $17-2=15$   $15 \times 4=60$ 」と、左から順に計算してしまった誤答が 11.9% あることから、今後も継続して、四則混合計算のきまりにしたがって計算できるように、指導を積み重ねていくことが大切である。

(6) 帯分数を含む同分母分数の加法「 $3$  と  $4/5 + 2$  と  $2/5$ 」の正答率は 73.8% で、昨年度とほぼ同じ結果となった。「 $5$  と  $6/5$ 」という帯分数と仮分数が混在した誤答が 17.6% と高い傾向が見られる。指導にあたっては、数値の処理技能だけでなく、

## II 調査結果の概要

帯分数と仮分数についての意味の理解にも重点を置きたい。特に単位量あたりの分数の何個分という見方を身に付ける指導を、一層充実させることが大切である。

(7) 今年度出題した帯分数を含む同分母分数の減法「 $2と3/7 - 1と5/7$ 」の正答率は66.4%であった。加法に比べて減法のほうが正答率は低い。(6)と同様に「単位量あたりの分数の何個分」という指導を充実させるとともに、帯分数を含む同分母分数同士の減法で、分数同士の減法ができない場合は、整数の1を分数にして計算することを、数直線やLますなどの図を用いて説明するなどの指導を充実させることが大切である。

# 大問2

## [1] 解答類型別の出現率

問題番号				解答形式	正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No.	大問	中間	小問					
8	2			短答	○	5(本とれて、)2.8(cmあまる)	1	44.5
						5(本とれて、)28(cmあまる)	2	1.5
						5.4(本とれて、)0.4(cmあまる)	3	4.0
						5.4 または 5.46 (本とれて、)としている。 * あまりの方の内容は問わない	4	9.9
						54 または 546 (本とれて、)としている。 * あまりの方の内容は問わない	5	14.5
						上記以外の解答	9	21.8
						無解答	0	3.8

## [2] 出題のねらい

大問2は、「数と計算」領域の「小数と整数のわり算」の文章問題である。割り切れる場合、割り進む場合、あまりを出す場合など、問題場面の把握、立式、計算、解といった一連の思考につながりが見られるか検討するため、問題を設定した。

## [3] 解説

答えを問題にかえて、確かめさせていますか？

答えが出たら終わりではなく、問題場面にあっているか確かめる習慣を！

文章を読んで、 $32.8 \div 6$  の包含除の場面をとらえ、処理するこの問題は、正答率が44.5%であり、昨年度の正答率42.8%と状況は変わっていない。商を小数まで出している誤答や商を小数まで出そうとして小数点をつけ忘れていた誤答が、合わせて28.4%と多く、問題場面の意味を十分にとらえられていないことを示している。また、問題場面の把握に加え、小数÷整数の筆算の仕方の習得も不十分であるといえる。

問題を読んだときに「答えがどれくらいになりそうか」と見積もることや、「出てきた答えが本当に問題場面と結びついているのか」をふり返ることの必要性を、さらに指導していくことが大切である。

また、「小数と整数のわり算」の問題場面には、割り進む（割り切れず商を概数で求める場合も含む）場面（等分除）とあまりを出す場面（包含除）とがある。場面の意味をとらえ、何の位まで計算すればよいのかを考えることを大切にした指導を行う必要がある。その指導法として、例えば、問題場面を半具体物や図を用いて表現する活動が考えられる。図や操作活動を重視することで、等分除の場面と包含除の場面の違いがとらえ易くなるだけでなく、単位を意識しながら、商とあまりの関係も明確になる。そのような経験を重ねることで、割り進めるべき場面なのか、商は整数まで求めあまりを出す場面なのかの判断を、児童ができるようにしていくことが大切である。

それに加え、大問1（4）でも述べたように、継続して小数÷整数の技能の習得を図る必要がある。

# 大問3

## [1] 解答類型別の出現率

問題番号				解答形式	正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No.	大問	中間	小問					
9		(1)		短答	○ 18	1		69.3
					4	2		4.3
					24	3		7.9
					上記以外の解答	9		16.3
					無解答	0		2.2
10	3	(2)		短答	○ $1\frac{4}{5}$ または $\frac{9}{5}$	1		43.4
					$\frac{4}{5}$	2		1.9
					$\frac{9}{10}$	3		18.4
					1.8	4		2.1
					1.8以外の小数	5		4.1
					上記以外の解答	9		26.8
					無解答	0		3.3
					11		(3)	
$\frac{2}{3}\frac{2}{5}(>)\frac{13}{5}(>)3$	2		7.2					
$\frac{13}{5}(>)3\frac{2}{5}(>)$	3		2.8					
$\frac{13}{5}(>)3(>)3\frac{2}{5}$	4		3.3					
$3(>)\frac{13}{5}(>)3\frac{2}{5}$	5		2.8					
$3(>)3\frac{2}{5}(>)\frac{13}{5}$	6		6.3					
上記以外の解答	9		2.9					
無解答	0		1.1					

## [2] 出題のねらい

大問3は、「数と計算」領域の「分数」に関する問題で、分数の基礎的・基本的な理解ができているかをみることを目的として設定した。

(1)は、分数が単位分数のいくつ分で表されていることが分かっているかどうかをみるための問題である。

(2)は、テープ図に表された分数を読み取る問題である。量としての分数の理解の定着を把握するための問題として設定した。

(3)は、分数と整数を大きい順に並べる問題である。昨年度と同様に、整数、仮分数、帯分数を扱い、帯分数か仮分数にそろえて比較する必要が生まれるような問題を設定した。

## [3] 解説

(1)は、「2と4/7は、1/7を□こあつめた数です。」と□に当てはまる数を問う問題である。正答率は69.3%で、昨年度の68.7%とほぼ同様である。過去には真分数だけで考える「7/9は、1/9を何こ集めた数ですか。」という問題を提示したところ、95.9%と高い傾向であった。このことと併せて考えると、単純に真分数のいくつ分という見方はできていても、整数が真分数のいくつ分であるかという点での理解が不足している。今後も、「単位分数が○こ集まるといくつになるか」「整数や分数が単位分数のいくつ分か」「分数の単位分数はいくつか」など、さまざまな角度から分数を考察する問題に触れる機会を増やし、分数や整数を単位分数のいくつ分であるかと考える見方

を育てていく必要がある。

(2) は、テープ図に示された分数「 $1$ と $\frac{4}{5}$  (または $\frac{9}{5}$ )」の問題である。正答率は 43.4% であり、昨年度の 55.5% より下がっている。また、見た目から「 $\frac{9}{10}$ 」と答えた児童が、昨年度より上昇して 18.4% いた。長さ (m) を分数で表す場合、「 $1$  m を  $\bigcirc$  等分したうちのいくつ分で表す」という分数の意味がしっかり押さえられていないことが分かる。(1) と同様に、常に単位分数に目を向けるような指導が必要である。

「 $1$  を  $\bigcirc$  等分したうちの  $1$  つが単位分数であること」「単位分数がいくつ集まって整数になるのか」を意識させるために、数直線を用いる際には、整数部分が「 $1$ 」で終わりでなく、その先にも続いていくことを理解させるような提示の仕方を工夫する必要がある。

(3) 「 $3$ 、 $\frac{13}{5}$ 、 $3$ と $\frac{2}{5}$ 」を大きい順に並べるという問題では、正答率が 73.7% で、昨年度の 64.7% よりも上がっている。表し方の異なる分数同士をどのようにして比べればよいかを児童に考えさせたり、どのように直すと比べ易いかを検討したりする活動を取り入れた指導の成果が表れてきているといえる。引き続き、形式的に比較の仕方を定着させるだけでなく、相対的に分数をとらえたり、ある分数をいろいろな形で表したりする活動を重視することが大切である。

# 大問 4

## [1] 解答類型別の出現率

問題番号				解答形式	正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No.	大問	中間	小問					
12	4	(1)		選択	1または① * 選択肢番号は、以下「①」と表記する。	1	1.3	
					2または② * 選択肢番号は、以下「②」と表記する。	2	28.5	
					○ 3または③ * 選択肢番号は、以下「③」と表記する。	3	66.9	
					4または④ * 選択肢番号は、以下「④」と表記する。	4	2.3	
					上記以外の解答	9	0.1	
					無解答	0	0.8	
13		(2)		短答	○ 704億	1	88.9	
					700億4	2	-	
					704	3	-	
					上記以外の解答	9	10.2	
					無解答	0	0.8	

## [2] 出題のねらい

大問4は、「数と計算」領域の「大きな数」の内容として、億の単位までの範囲で出題した。

(1)は、十進位取り記数法の理解を中心として知識・理解を主たる観点としたため、昨年度と同様に数を書き表すのではなく選択する形式にした。「100億を32こあつめた数はいくつ」という、億を超える大きな数でも、単位のいくつ分で数が構成されていることを理解しているかをみる問題である。

(2)は、数直線上に示された数を読み取ることができるかどうかをみる問題である。

## [3] 解説

(1) 正答率は66.9%で、昨年度の79.0%よりも大きく下がっている。「100億を30こ」の昨年度が79.0%、「100億を20こ」の25年度が82.3%、「100億を23こ」の24年度が63.3%という結果から、「いくつぶん」がきりのいい数であれば考えやすいということがわかる。「100億」という言葉から単純に選択し、「320億」と答えた児童が28.5%もいる。今後も、十進位取り記数法の考えを大切に扱い、しくみを確認しながら数を読ませ、数を多様な見方でとらえられるような指導を継続することが必要である。加えて、「32こは30こと2こ」などといった数の見方も育てていくことも、いろいろな問題に対応できるようになるために有効である。

(2) 数直線上の㊸にあてはまる数を求めるという問題では、正答率が88.9%であった。単に数直線上の数字を読み取らせるだけではなく、「100億をいくつと10億をいくつ集めた数」「1億をいくつ集めた数」「1000万をいくつ集めた数」「〇〇より1小さい数」などの数の加法的な見方、減法的な見方、相対的な大きさなど、多様な見方ができるような指導を継続していくことが必要である。また、1目盛りの大きさの読み取りも繰り返し行っていくことが必要である。

# 大問5

## [1] 解答類型別の出現率

問題番号				解答形式	正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No.	大問	中間	小問					
14	5			短答	○	89000 または 約89000	1	69.4
						88000	2	0.2
						90000	3	16.2
						80000	4	0.4
						上記以外の解答	9	10.0
						無解答	0	3.8

## [2] 出題のねらい

大問5は、「数と計算」領域の「概数」の内容から出題した。

「89412」を四捨五入して、千の位までの概数で表す問題である。四捨五入の仕方が分かり、適切に処理できるかどうかをみる問題として設定した。

## [3] 解説

89412を四捨五入して、千の位までの概数で表すという問題では、正答率は69.4%で、昨年度の70.6%と大きな変化はみられない。誤答では「千の位で四捨五入」して90000とする解答が16.2%と多い。「千の位まで」と「千の位で」の違いをとらえられていなかったり、感覚で近い数を答えてしまったりしている児童が多いと考えられる。視覚的に数の範囲をとらえられるように数直線を活用したり、概数からもとの数値を予想する活動を取り入れたりするなど、さまざまな問われ方の課題を経験し、適切に判断する力や処理する力を養う必要がある。

実生活では、概数が使われることも少なくない。例えば、国や都道府県の人口や予算、ある地点までの道のりなどを近似値で求める場面、日常の買い物などでおよその金額を見積もる場面などがある。なんのために概数を用いるのかその目的を明確にさせ、具体的な事実にあわせてよさを理解できるようにすることで、生活や算数に概数を活用していけるようにすることが大切である。

# 大問6

## [1] 解答類型別の出現率

問題番号				解答形式	正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No.	大問	中間	小問					
15	6			短答	○	(左から)－、×	1	33.3
						(左から)－、÷	2	7.5
						(左から)÷、÷	3	8.1
						(左から)÷、－	4	4.2
						(左から)÷、×	5	30.4
						÷を使っているもの * 類型2～5以外	6	10.1
						上記以外の解答	9	3.2
						無解答	0	3.1

## [2] 出題のねらい

大問6は、「数量関係」領域で、四則の混合した文章問題の意味を理解し正しく立式できるかどうかをみる問題として設定した。主な観点は、数学的な考え方の「式についての考え」である。今年度は昨年度同様、減法と乗法が混在する問題にした。

## [3] 解説

言葉だけで立式をしていませんか？

問題を読んで図に表すなど、場面をとらえる活動を大切に！

今年度は、「折り紙が400まいあります。1人に70まいずつ、5人に配ります。折り紙は何まい残りますか。」を1つの式に表すとどうなるかを考え、 $400 \square 70 \square 5$ の□に当てはまる記号（「－」、「×」）を書く問題であり、正答率は33.3%であった。昨年度は、「折り紙が500まいあります。1人に80まいずつ、6人に配ります。折り紙は何まい残りますか。」を1つの式に表すとどうなるかを考え、 $500 \square 80 \square 6$ の□に当てはまる記号（「－」、「×」）を書く問題であり、正答率は32.5%であった。また、一昨年度も同様の問題で、「折り紙が300まいあります。1人に70まいずつ、4人に配ります。残りは何まいですか。」を1つの式に表すとどうなるかを考え、 $300 \square 70 \square 4$ の□に当てはまる記号（「－」、「×」）を書く問題であり、正答率は、32.7%であった。

一昨年度も昨年度も今年度も数量が異なるだけで、同じ場面の、同じ記号を用いて立式できる問題である。今年度の正答率は昨年度とほぼ変わらず、依然として課題があると考えられる。その理由としては、昨年同様「1人に70まいずつ、5人に配ります。」という文言から、わり算であるにとらえてしまった児童が多かったことが考えられる。解答類型別の出現率をみても、わり算の記号を用いた誤答が合計60.3%と多いことが分かる。

加減乗除の混合場面をよりよく理解するために、問題文から「あわせる」はたし算、「のこりは」はひき算などのような、言葉だけで演算決定するのではなく、どのような場面を表しているのか、問題場面の意味をとらえて立式することが大切である。低学年のときから「問題を読んで場面をとらえること」、「場面を式に表すこと」ができるよう、場面を図に表したり、立てた式の意味を読み取ったりする学習を積み重ねていく指導をする必要がある。

# 大問7

## [1] 解答類型別の出現率

問題番号				解答形式	正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No.	大問	中間	小問					
16	7			選択		①	1	6.6
						②	2	8.8
						③	3	8.0
						○④	4	74.1
						上記以外の解答	9	0.6
						無解答	0	2.0

## [2] 出題のねらい

大問7は、「数量関係」領域の「式と計算」の内容を取り上げた。四則の混合した式や( )を用いた式を読み、問題場面と照らし合わせることができるかをみる問題として設定した。

## [3] 解説

「 $(280+60) \div 4$ 」の式で答えが求められる問題はどれかを考える問題である。今年度の正答率は74.1%、昨年度の「 $(260+40) \div 5$ 」の正答率は72.5%、一昨年度の「 $(240+30) \div 3$ 」の正答率は70.8%である。場面は違うが、正答率は徐々に上がってきており、式から問題場面を読み取る指導が浸透してきている。

「式を読む活動」は解決の過程を振り返る点でも重要であるため、自分の考えを図や絵に表したり、立式した根拠を場面や図をもとに説明したりする活動を重視するとともに、学習の中で、ある児童がかいた式や図の意味をクラスで考えるなど、文章と図や式を関連付けて読み取る機会を設ける必要がある。

# 大問 8

## [1] 解答類型別の出現率

問題番号				解答形式	正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No.	大問	中間	小問					
17		(1)		選択	①		1	34.8
					②		2	4.6
					○③		3	52.9
					④		4	4.2
					上記以外の解答		9	0.6
					無解答		0	3.0
18	8	(2)		短答	○ $1600 \div 4 (=400)$		1	50.5
					○ $\square \times 4 = 1600$		2	0.9
					$1600 \div 4 =$		3	3.1
					$1600 \times 4$		4	22.8
					$1600$ を使っている式 類型1, 2以外		5	13.5
					上記以外の解答		9	1.6
					無解答		0	7.6

## [2] 出題のねらい

大問8は、「数と計算」領域で、比較量と割合から基準量を求める除法の場面を取り上げた。(1)は、数直線から数量の関係を読み取る力をみる問題として設定した。

(2)は、「比べられる量」、「倍」から「もとにする量」を求める除法の場面を正しく立式できるかをみる問題である。

## [3] 解説

(1)の正答率は52.9%である。選択肢①の反応率が34.8%と高い。これは、家から図書館までの道のり1600mだけに着目してしまい、家から図書館までの道のりと家から学校までの道のりのどちらが基準量なのかをしっかりとらえていないためだと考えられる。昨年度は、家から図書館までの道のりが1200mと同様の問題で、正答率は51.7%であった。選択肢①の反応率も37.0%と高かった。一昨年度までは、数直線ではなく、テープ図で「比べられる量」、「倍」から「もとにする量」を求める除法の場面を取り上げていた。一昨年度の正答率は63.2%、という正答率である。60%前後という結果であったことを踏まえると、数直線の読み取りがやや身につけていないことが分かる。

(2)の正答率は51.4%であり、(1)よりわずかながら正答率が低い。数直線の読み取りができていれば、立式もできると考えられる。

「割合」の問題は割合や比較量を求める活動に対し、基準量を求める活動の方が広がりがある分、難しさがある。また、学習指導要領では、具体物、言葉、数、式、図、数直線を用いて表したり考えたり説明したりする活動を通して指導することが掲げられている。低学年から、具体物や半具体物を1列に並べたり、図に表したりするなどの活動を充実させることが大切である。第2学年のかけ算の学習や、第3学年のわり算の学習でも、数直線を意識したテープ図が教科書などで明示されている。具体から徐々に、より抽象化されたテープ図や数直線を読み取ったり、描いたりする力を育てていきたい。引き続き、低学年から課題場面から立式して計算処理をするだけでなく、テープ図や数直線などで数量関係をまとめるような授業展開が必要である。

# 大問 9

## [1] 解答類型別の出現率

問題番号				解答形式	正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No.	大問	中間	小問					
19	9			短答	○	100	1	52.4
					○	(29+71)	2	0.2
						29 または 71	3	6.1
						29+71	4	0.1
						上記以外の解答	9	32.5
						無解答	0	8.6

## [2] 出題のねらい

大問 9 は、「数量関係」領域で、加減乗除に関する計算のきまりを理解し、分配法則を用いて、工夫して計算できるかをみる問題として設定した。

## [3] 解説

正答率は 52.6% である。昨年度は 67.1%、一昨年度は 64.9% であったので、大きく下がっている。しかし、昨年度は「 $64 \times 7 + 36 \times 7 = \square \times 7$ 」、一昨年度は「 $72 \times 4 + 28 \times 4 = \square \times 4$ 」という問題で、今年度と問題の構造は変わっていない。今年度の正答率が下がったのは、「 $29 \times 7 + 71 \times 7 = \square \times 7$ 」の「29」と「71」から「100」がイメージしにくかったためだと考えられる。昨年度までの傾向から、等号の意味や分配法則については概ね理解できていると言えるものの、さらなる指導の充実が求められる。数値が変わっても計算のきまりが使えるように、分配法則が表す意味についても理解し、2つのかけ算を1つの式にまとめたり、逆に1つの式から2つのかけ算を見出したりしていく経験を重ねる必要がある。

実際の指導については、加減乗除に関して成り立つ性質を使いたくなるような課題設定が大切である。この性質を使うと計算が簡単にできるという経験を積み重ね、加減乗除に関して成り立つ性質のよさを感じることができれば、計算の仕方を自ら工夫しようとすると考えられる。

分配法則については、3年の「かけ算のきまり」や4年の「式と計算」だけでなく、「かけ算のひっ算」や「小数と整数のかけ算、わり算」などでも意識的に取り上げることができる。様々な場面で繰り返し学習することで理解の充実を図ることが大切である。

# 大問 10

## [1] 解答類型別の出現率

問題番号				解答形式	正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No.	大問	中間	小問					
20		説明		記述	○	一回転の角度よりどれだけ小さいかを調べて求める内容で書かれている。	1	30.3
						一回転の角度よりどれだけ大きいかを調べて求める内容で書かれている。	2	3.4
						「一回転の角度」という言葉を用いて解答していない。	3	2.4
						上記以外の解答	9	49.6
						無解答	0	14.2
21	10	式		短答	○	$360 - 140 (= 220)$	1	64.3
						$180 - 140$	2	0.8
						$360 - 140 =$	3	0.3
						上記以外の解答	9	22.3
						無解答	0	12.3
22		答え		短答	○	220	1	68.0
						40	2	1.1
						上記以外の解答	9	18.3
						無解答	0	12.6

## [2] 出題のねらい

大問 10 は、「量と測定」領域で、「角」について出題した。

180 度より大きな角度を、角が 1 回転で 360 度であることをもとに解決する方法を考え、説明するという問題である。与えられた図からどのように角度を求めたか、式と言葉の説明を考えるとという主に数学的な考え方をみる問題として設定した。

## [3] 解説

一昨年度は式を選択する問題、昨年度は式に当てはまる数値を考える穴埋めの問題を出題し、正答率は 77.6% と 75.3% だった。180 度よりも大きな角度の測り方について、1 回転が 360 度であることから、いらぬ部分の角度をひいて求める方法を理解している児童が多いことがわかった。

今年度は、図から式を考え、その説明を、例文をもとに考える問題を出題した。正答率は、式が 64.3%、答えが 68.0% だったが、説明は 30.3% と低かった。大問 12 と併せ考えると、求め方はわかっている、言葉での説明を苦手とする子どもが多いことに加え、指導面でも、方法の定着を図ることで終わってしまっている傾向があるといえる。

立式して答えを求めるだけで終わらせず、自分の考えた方法を自分の言葉で説明するような場面を多く取り入れ、経験を積んでいくようにしたい。

指導については、引き続き、角度は直線の開き具合を表す量という定義をもとに、180 度を超える角についても、操作を通して基準の 0 度からどれだけ開いたかを理解できるようにすること、また 1 回転した大きさは 360 度であることをおさえていくことを意識していきたい。そして、その意味や角度の求め方を説明する活動も大切にしていきたい。

# 大問 11

## [1] 解答類型別の出現率

問題番号				解答形式	正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No.	大問	中間	小問					
23		(1)		選択	①		1	3.5
					○②		2	27.2
					③		3	45.8
					④		4	20.4
					上記以外の解答		9	0.1
					無解答		0	3.0
24	11	(2)		短答	○ $7 \times 7 (=49) 49 \text{ cm}^2$ *式と答えの両方できて正解		1	61.2
					「=」の右辺が書かれていない。		2	0.2
					$7+7(=14) 14 \text{ cm}^2$		3	-
					$7+7+7+7(=28) 28 \text{ cm}^2$		4	0.3
					$7 \times 4 (=28) 28 \text{ cm}^2$		5	5.8
					$7 \times 3.5 (=24.5) 24.5 \text{ cm}^2$		6	0.3
					上記以外の解答		9	22.7
					無解答		0	9.5

## [2] 出題のねらい

大問 11 は、「量と測定」領域の「面積」について出題した。

(1) は、単位から適切な面積のものを選ぶ問題である。量感が身に付いているかを見ることをねらいとしているので、知識・理解を主たる観点とした。

(2) は、正方形の面積を求める問題である。面積の求め方が分かっているかを見る問題としているので、主たる観点は知識・理解である。

## [3] 解説

面積を求める指導だけで、終わっていませんか？

面積から実際の大きさを考える経験を！

導き出した答えを根拠をもとにふり返る習慣も！

(1) は昨年度と同じ問題を出題した。正答率は 27.2% で、昨年度の 22.5% に引き続き大変低い結果となった。誤答を見ると、「算数の教科書の面積」を選んだ児童が 45.8% と最も多い。明らかに大きさの違う「教室のゆかの面積」と答えた児童も 20.4% もいた。この結果から、面積についての量感が伴っていないこと、指定された面積からふさわしい大きさの図形を考える十分な指導がなされていないことがわかる。

指導については、指定された面積に近いものを選ぶ活動や身の回りの長方形や正方形の辺の長さを測って面積を求める活動などを取り入れていくことが必要である。例えば、数種類の大きさの長方形を用意し、その中から  $300 \text{ cm}^2$  の図形を選ぶといった活動である。指定された大きさの図形を選ぶ際には、 $300 \text{ cm}^2$  という面積から  $10 \text{ cm} \times 30 \text{ cm}$  や  $15 \text{ cm} \times 20 \text{ cm}$  の長方形をイメージするなど、面積を辺の長さに置き換えて考えられるようにすることが大切である。また、身の回りのものの縦と横の辺の長さを測って実際の面積を求めるなど、面積と辺の長さの関係を意識させる経験を重ね、面積について感覚を豊かにする指導の充実を図ることが大切である。さらに、大問 6 のような問題とも併せ、導き出した答えが本当に正しいのかを、根拠をもとにふり返る態度も普段から養ってい

## II 調査結果の概要

なくてはならない。

(2) の正答率は、61.2%である。昨年度の74.4%から大幅に減少している。昨年度は「1辺が6 cmの正方形の面積は何 $\text{cm}^2$ ですか」という文章による問題であったが、今年度は斜めに提示した正方形をもとに求積する問題であった。正答率の減少は、正方形が斜めだったり求積に必要な数値を提示したりしていたことにより、正方形と判断できなかつたり必要な数値を選ぶことができなかつたりしたためと考えられる。

もとより、児童は生活経験の中から形が安定する視点から、図形を判断する傾向が見られることが多い。「4つの角が全て直角で、4つの辺の長さが全て等しい四角形は正方形」という定義をもとに、提示された図形は正方形であると判断できるように指導することが大切である。また、正方形の面積は1辺 $\times$ 1辺で求めることができるため、1辺の長さがわかれば面積が求められることも指導のなかで押さえていきたい。

# 大問 12

## [1] 解答類型別の出現率

問題番号				解答形式	正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No.	大問	中間	小問					
25	12			選択		①	1	30.2
						○②	2	32.3
						③	3	16.6
						④	4	14.3
						上記以外の解答	9	1.7
						無解答	0	4.9

## [2] 出題のねらい

大問 12 は、「図形」の領域で、平行四辺形の作図の仕方を性質をもとに考えることができるかどうかをみる問題として設定した。

## [3] 解説

**形式的に作図の手順を指導していませんか？  
なぜその方法で作図できるのかを考えさせましょう！**

正答率は 32.3% である。昨年度の平行四辺形を作図する問題の正答率 74.5% と比較すると、大幅に減少している。誤答では、「向かい合っている辺が平行である」を選んだ児童が 30.2% もいた。昨年度は、平行四辺形をコンパスで作図するという技能をみる問題であったが、今年度は作図の仕方が成立する理由を説明する問題である。正答率が低い原因は、大問 10 と同様に定義や性質を理解しないまま、形式的に作図の手順を指導してきたことにある。

指導にあたっては、「向かい合った二組の辺が平行な四角形は平行四辺形」という平行四辺形の定義を理解できるようにすることが大切である。また、手順と図形の特徴とを対応させながら作図することも大切である。例えば、二等辺三角形の作図の場合を考えてみる。二等辺三角形には、「二辺の長さが等しい」という特徴がある。一方、作図に用いるコンパスは、等しい長さを写すことができるものである。これらのことを確認しながら、コンパスを用いた作図は辺の長さが等しいという特徴を使っていることを理解して作図できるようにすることが大切である。

# 大問13

## [1] 解答類型別の出現率

問題番号				解答形式	正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No.	大問	中間	小問					
26	13	(1)		短答	○ ア, イ, エ(順不同, 完答)	ア	1	71.1
						イ	2	2.1
						エ	3	2.7
						ア, イ	4	1.1
						イ, エ	5	4.3
						ア, エ	6	0.7
						イ, エ	7	10.7
						上記以外の解答	9	3.0
						無解答	0	4.3
						27		(2)
エ	2	4.6						
ウ, エ	3	2.6						
イ, ウ, エ	4	0.9						
ア, イ	5	0.6						
ア, イ	6	6.7						
上記以外の解答	9	19.3						
無解答	0	6.7						

## [2] 出題のねらい

大問13は、「図形」領域の「いろいろな四角形」について出題した。

(1)は、「向かい合った角の大きさが等しいすべての四角形」を選ぶ問題で、図形についての知識・理解をみる問題として設定した。

(2)は、「2本の対角線の長さが等しい四角形」を選ぶ問題で、図形についての知識・理解をみる問題として設定した。

## [3] 解説

(1)の正答率は71.1%であった。昨年度も同様の問題で、正答率は69.6%であった。長方形と正方形は選択しているものの、ひし形は選択していない誤答が10.7%もあった。「向かい合う」の意味が理解できていないためと考えられる。台形、ひし形、長方形、正方形などの図形の観察や作図、作図したものを切り抜いて折り重ねるなどの活動を通して、図形の構成要素や位置関係、定義、性質などに着目する授業展開が必要である。

(2)の正答率は58.7%であり、昨年度の正答率59.8%と同程度の結果と言える。長方形のみ、正方形のみを選んだ誤答が7.2%あった。向かい合う頂点を結んでできる直線が対角線であることを指導し、対角線に着目して四角形の特徴をとらえ分類整理できるようにすることが大切である。今年度も図形を提示しているため、実測すれば正解できた問題である。自ら線をかき加えて判断していこうとする態度や、自分の解答が妥当かどうかをふり返る姿勢を育てる必要がある。

# 大問 14

## [1] 解答類型別の出現率

問題番号				解答形式	正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No.	大問	中間	小問					
28	14	(1)	選択		①	1		22.0
					②	2		3.6
					③	3		17.2
					○④	4		52.6
					上記以外の解答	9		0.8
					無解答	0		3.8
					29	14	(2)	短答
					○ 辺イウ, 辺アエ, 辺アオ, 辺イカ	2		1.7
					上記以外の解答	9		20.1
					無解答	0		10.0

## [2] 出題のねらい

大問14は、「図形」領域の「直方体」について出題した。

(1)は、直方体の正しい展開図を選ぶ問題で、図形についての知識・理解をみる問題として設定した。

(2)は、直方体の中で平行な辺を選ぶ問題で、図形についての知識・理解をみる問題として設定した。

## [3] 解説

(1)は、直方体の正しい展開図を選ぶ問題で、正答率は昨年度同様52.6%であった。一方、面のつながる順序や辺の長さを考慮せず、見慣れている十字型の図(①、③)を選んだ誤答は39.2%であった。これは、立体を把握するとき、構成要素に着目せず見た目で判断しているため、例年同じような結果となっている。展開図をかき、組み立てたらどうなるか実際に経験する学習を通して、筋道を立てて考えられるようにすることが大切である。また、一つの立体図形から、一通りではなく、いくつかの展開図をかくことができることや、展開図からできあがる立体図形を想像することも大切である。

(2)は、直方体のある1辺に平行な辺をすべて選ぶ問題で、正答率は68.3%であった。昨年度は直方体のある面に垂直な面をすべて選ぶ問題で正答率は73.5%であった。直方体の辺の位置関係については、概ね理解できていると考えられる。しかし、面よりも辺の選択の方が困難であるため、今後も立体の辺や面の位置関係については、立体を観察したり、構成したり、分解したりする活動を通して理解できるように指導することが大切である。

# 大問 15

## [1] 解答類型別の出現率

問題番号				解答形式	正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No.	大問	中間	小問					
30		(1)		短答	○ 12分後		1	76.3
					上記以外の解答		9	17.6
					無解答		0	6.1
31		(2)		選択	ア(のコンロ)		1	9.8
					イ(のコンロ)		2	13.0
					○ ウ(のコンロ)		3	56.4
					エ(のコンロ)		4	11.4
					上記以外の解答		9	0.5
					無解答		0	9.0
					15			
32		(3)		記述	○ あたため始めてから、15分後にあたためるのをやめたが、5分後にまたあたためはじめた。		1	21.3
					○ あたため始めてから、15分後にあたためるのをやめたが、20分後にまたあたためはじめた。		2	23.4
					グラフが上がった、下がったなどグラフの持ちようのみを答えており、あたため方について記されていない。		3	5.4
					あたため方については説明できているが、時間についての記述が不足している。		4	7.8
					上記以外の解答		9	25.8
					無解答		0	16.2

## [2] 出題のねらい

大問 15 は、「数量関係」領域の「折れ線グラフ」から出題した。獲得した知識を生活場面に活用する力が身についているかどうかをみるため、コンロで水をあたためたときの温度を記録したグラフを扱った。結果を理想化したグラフではあるが、「このように変化していこう」とグラフに表し、また、そのグラフから傾向を読み取ることは大切な活動である。

(1) は、グラフから中間値を読み取る問題であり、主たる評価観点は技能である。

(2) は、グラフから2つの数量の変化を読み取って、題意に合うグラフを判断する問題であり、主たる評価観点は技能である。

(3) は、グラフの変化の特徴と具体的な事象とを結び付けて考え、その理由を説明する問題であり、主たる評価観点は数学的な考え方である。

## [3] 解説

(1) の正答率は 76.3% であり、昨年度の 78.2% とほぼ変わっていない。グラフの学習では、グラフに表すだけでなく、グラフを読み取る活動も大切である。「35 度は何度と何度の間にあるのか」「12 分後と 16 分後の中間は何分後なのか」など、グラフ上に記されていない数値を考え、判断しようとする態度を育てていく必要がある。

(2) の正答率は 56.4% である。昨年度の 59.9% に比べると、やや低くなっている。

(1) と同様にグラフを読み取る問題ではあるが、(1) よりも正答率は低い。これは、問題文にある「25 度の水を、4 分間で 45 度にする」を「水の温度を 4 分間で 20 度上げる」などと読みかえることに困難さがあるためである。グラフのどこを読み取ればいいのかを判断するために、問題文の意味をしっかりと読み取り、視点をはっきりさせよう

とする態度を育てることが大切である。また、(1)と同様に、グラフに記されていない数値を読み取るような学習も重視していくことが必要である。

(3)の正答率は44.7%である。昨年度はグラフの特徴をもとに理由を説明する問題で、正答率は51.4%であった。今年度は、グラフの特徴ではなく「コンロのあたため方」という具体的な事象として説明する問題となったため、正答率は低くなった。問題に別のコンロのあたため方の説明が例示されているにも関わらず、時間についての記述が不十分なものが7.8%、グラフの特徴を説明しているものが5.4%あった。「エ」との違いとして、「またあたためはじめた」ことを明確に説明する必要がある。

グラフは、算数だけでなく日常生活や他教科でもさまざまな場面で目にするものである。なので、グラフから読み取った特徴を、「水の温度が下がったのはなぜなのか」「再び水の温度が上がっているのはどうしてか」のように具体的事象と結びつけて考えることが必要となってくる。言語活動が注目されている中、子どもたちがより明確に、分かりやすく説明するという意識をよう、学年に応じて指導していくことが大切である。

# 大問 16

## [1] 解答類型別の出現率

問題番号			解答形式	正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No.	大問	小問					
33		(1)	短答	○ 24cm	1		67.7
				○ 30cm	2		0.3
				上記以外の解答	9		19.9
				無解答	0		12.0
34	16	(2)	短答	○ $O \times 4 (= \Delta)$	1		49.9
				○ $4 \times O (= \Delta)$	2		3.8
				○ $O + O + O + O (= \Delta)$	3		0.4
				○ $O + 4 (= \Delta)$	4		0.5
				○ $O \times 5 (= \Delta)$	5		0.2
				上記以外の解答	9		26.0
				無解答	0		19.2

## [2] 出題のねらい

大問 16 は、「数量関係」領域の「変わり方」を取り上げた。正三角形を 2 個組み合わせて作った形の、正三角形の 1 辺の長さと言の長さという 2 つの数量の関係を調べる活動を扱った。変わり方がイメージしやすいように図に示した。また、解決への手だてとして、正三角形の 1 辺の長さと言の長さをそれぞれ  $O$ 、 $\Delta$  とした途中までの表を示し、問題文にも「言の長さは 4 cm、8 cm、12 cm、…となります。」と明記した。なお、昨年度は (1) に類する問題は設定されていなかった。

(1) は、正三角形の 1 辺の長さから言の長さを求める (調べる) 問題で、主として数学的な考え方をみる問題として設定した。

(2) は、ともなって変わる 2 つの数量の関係を式に表す問題で、主として数学的な考え方をみる問題として設定した。「関係を式に表す」だけではさまざまな形での正答が存在し、子どもたちが混乱することも考えられるため、関係式の一部を表す問題形式とした。

## [3] 解説

(1) の正答率は 67.7% である。昨年度との比較はできないが、高い正答率とは言い難い。解答類型に当てはまらない誤答が 19.9%、無解答が 12.0% という結果からは、問題の意味を十分に理解できなかった児童も相当数いると考えられる。上記の通り図・表・問題文という問題把握や課題解決への手だてがあるにも関わらず、じっくりと問題に向き合わずに直感的に答えていることがわかる。

(2) の正答率は 54.1% である。昨年度の正答率 59.9% と比べ、5 ポイント以上下がっている。昨年度は「正方形の 1 辺の長さと言の長さ」であったのが、今年度は「正三角形を 2 個組み合わせて作った形の、正三角形の 1 辺の長さと言の長さ」となったことで、数量の関係が理解できなかったことがわかる。変化のしかたは、昨年度の「正方形の 1 辺の長さと言の長さ」と全く同じで、2 つの数量の関係そのものはとらえやすい問題である。問題に示された条件を整理することや、記号に表すこと・記号を使って数量関係を式に表すことに課題がある。また、無答率が 19.2% もあることから、「表

を横や縦に見てきまりを見つければよい」や「表の続きを考えればよい」などの方法の見通しをもてなかった児童がいることが分かる。

変わり方のきまりを見つけるには、表を横や縦に見て、「正三角形の1辺の長さが1cm増えるごとに周りの長さは何cm増えるのか」、「正三角形の1辺の長さとおりの長さにはいつもどんな関係が成り立つのか」など、その規則性を発見していこうとする態度が大切になる。表の扱い方についても、「表をかかせる」指導ではなく「表を使ってきまりを見つける、表のよさを体感する」指導が重要になる。

また、日頃からきまりに気づいたり、きまりを見つけようとしたりする態度を育むことが必要である。

# 大問 17

## [1] 解答類型別の出現率

問題番号				解答形式	正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No.	大問	中間	小問					
35		(1)		短答	<p>【大問17(1) 採点基準】                      式の答えが間違っている場合も、式が正しければ許容とする。                      式が「=」でとまっている場合は誤答とする。                      式に単位「cm」「cm<sup>2</sup>」がついていても許容とする。単位が間違っているでも許容とする。                      計算の順序は問わない。                      9×9になっている式であれば正解とする。</p>	○ 9×9(=81)	1	47.1
						○ (12-3)×9(=81)	2	4.8
						○ (5+4)×9(=81)	3	6.1
						○ (4+5)×(4+2+3) など9×9になるもの	4	0.7
						「=」の右辺が書かれていない。	5	1.4
						12×9	6	1.5
						8×9	7	0.2
						答えは81になるが、図と説明に合った式ではないもの	8	4.1
						上記以外の解答	9	10.1
						無解答	0	24.0
						36	17	①
上記以外の解答	9	2.2						
無解答	0	32.4						
37		(2)	②	記述	<p>【大問17(2)② 採点基準】 ※複数の類型に該当する解答については、上位の類型に分類する。                      説明の際に、単位がなくても、間違っているでも許容とする。                      (正答の条件)                      次の①、②を正しく書いている。                      ①「長方形」だととらえたことを説明している。                      ②図形を「動かした」ことを説明している。                      (正答例)                      イの部分に矢印のところに動かして、長方形と考えて面積を求めました。</p>	○ ①、②を満たしているもの。	1	50.6
						○ ①のみを満たしているもの。	2	0.3
						○ ②のみを満たしているもの。	3	17.0
						上記以外の解答	9	6.3
						無解答	0	25.8
					(2)① 正解 (2)② 正解	1	47.0	
					(2)① 正解 (2)② 不正解	2	18.4	
					(2)① 不正解 (2)② 正解	3	3.8	
					(2)① 不正解 (2)② 不正解	4	30.8	

## [2] 出題のねらい

大問 17 は、「量と測定」領域から「複合図形の面積」を求める問題を 2 問出題した。いずれも主たる観点は数学的な考え方である。一昨年度までの数年間は、2 つの長方形に分けて合わせる方法や、大きな正方形・長方形から実際にはない部分の面積をひく方法を扱ったが、昨年度から図形の一部を動かすことで公式で求められる図形に変形（等積変形）する方法を扱った。

(1) は図と文章による説明から複合図形の面積の求め方を読み取り、式に表す問題である。

(2) は提示された式から等脚台形の面積の求め方を読み取り、図に表し文章で説明する問題である。台形の面積の求め方については 5 年生で学習する内容であるが、本問の解決力である等積変形の考え方は 4 年生までに身につけることができるものである。問題解決力が基礎学力の 1 つとしてどの程度身につけているのかをみる問題として設定した。なお、文章による説明の正答の条件は、以下の①②の両方、または①が書かれていることとした。

- ①「長方形」だととらえたことを説明している。
- ②図形を「動かした」ことを説明している。

## [3] 解説

(1) の正答率は 58.6%であり、昨年度の 58.5%と同程度の結果となった。「矢印のところに動かして」「正方形と考えて」という言葉と図を対応させて式を考えることは、おおむねできているといえる。等積変形という考え方そのものは一昨年度までよりやや複雑であるものの、問題文に「正方形と考えて」とあるため、式として表すことは比較的難しくなかった。

図や文章による説明から考え方を読み取り、式に表すなど、学習指導要領で大切にされている思考力・判断力・表現力による課題解決は今後も課題となる。これからも日常の授業で、友達の考えを読み取ったり、それを自分の言葉で説明したりする活動を充実させていく必要がある。

(2) の、①図に矢印の線をかき入れる問題の正答率は 65.4%、②求め方を文章で説明する問題の正答率は 50.9%であった。①は昨年度の 66.7%とほぼ同等であるが、②は昨年度の 59.6%と比べると 8.7 ポイント低くなった。昨年度と全く同じ問題であるが、②が大幅に減少している原因の 1 つとして、「動かした」ことは説明していても「長方形」ということが説明できていない誤答が 17.0%と昨年度より増えたことが挙げられる。昨年度の報告書に「授業の中で『どうやって考えたか説明する』『友達の式や図を読み取る』活動を大切にしている成果が表れてきているといえる。」とあるが、今回の結果からは、何のために動かしたのか意識されていない児童も多くいることがわかる。日常の授業では、子どもたちが図を使いながら「ここが  $3 \times 2$  で 6? だから…」のように「ここが…」と説明する場面が多いが、既習の(公式を使うことができる)図形をもとにして考えていることを子どもたちに意識させていく必要がある。

今後も、与えられた図を式に表して処理する学習にとどまることなく、図と数や式などを相互に結び付ける学習を積み重ねることを大切にしなければならない。また、図を使って式の意味を説明する活動や、式をもとにして図を考える活動を、これからも重視していく必要がある。

また、(2) については、①と②の正答率に関してクロス集計をとった。①ができている児童の  $1/4$  以上が②を正解できていない。図という具体物を通せばイメージすることができるにも関わらず、それを言葉で表現できないということがわかる。説明する活動を意図的に取り入れる授業も増えてきているが、引き続き自分の言葉で表現する活動を大切にする必要がある。

## 無答率について

今年度、小問ごとにみた全 37 問の平均無答率は 7.6%であり、中には無解答が 20%を超える問題もあった。見通しをもつことができなかつたもの、理由や求め方を文章で説明するため書けなかつたもの、時間がなくて答えられなかつたもの、はじめから「できない」とあきらめてしまったものなど、さまざまな理由が考えられる。しかしながら、数値をもとに判断すると、「なんとかして答えるところまでたどり着こう」とする態度が身につけているとはいえない。各校においては、児童の実態を把握するとともに、問題解決型の授業を充実させ、既習の考えをもとにしたり、図に表したり、具体的な場面や数値に置き換えたりすることが、答えに近づくための手立てになると子どもたちが実感することを通して、無解答を減らしていくように努めていく必要がある。

## (5) 今後の指導にあたって

### ◎全体を通して

観点別に平均正答率を見てみると、「数学的な考え方」53.7%、「数量や図形についての技能」67.9%、「数量や図形についての知識・理解」59.3%であった。

「数学的な考え方」は、児童が新たな問題場面に直面し、既に獲得した知識や技能と関連させて考えたり、よりよい解決方法を吟味・検討したりする過程を大切にする中で育まれる。そして、児童が「知識・理解」、「技能」の力を活用し、主体的に粘り強く考えていくとき、「数学的な考え方」は大きな力を発揮するものである。

これからも各観点を相互に関係付けながらバランスよく育てていくことが大切である。

#### <数学的な考え方を育む授業づくりのポイント>

- 1 学習したことを用いて筋道立てて考え、言葉・数・式・図・表・グラフなどで表現する。
- 2 自分の考え方や解答をふり返る。
- 3 友達の考え（式、図など）を読み取る。
- 4 自分や友達の考えから相違点を見つけたり、整理したりして、考えと考えを結び付ける。
- 5 友達と一緒に創り上げる。  
(より単純に、より簡単に、より正確に、より便利に、より美しく)
- 6 どのように考えることが大切だったかふり返る。

数学的な考え方を育むためには、教材研究だけでなく、子どもたち同士が友達の考えを読み取ったり、自分と友達の考えを比べたりすることのできるような場の設定や授業構成、教師の言葉かけが大切である。また、自分の解決までの道筋を振り返り、検証する姿勢も併せて育てていきたい。子どもたちの数学的な考え方を育てるためにも、日々の授業を、何を指導し、どんな力を身につけさせたいのかというねらいを明確にもって指導にあたっていきたい。

本調査をもとに、授業改善に積極的に取り組まれることを期待している。

### ○数と計算【大問1 (1)～(4)(6)(7)・2・3・4・5・8】

「数と計算」は、整数、小数、分数などの数の意味と表し方、数の計算などによって構成されている領域で、平均正答率は66.4%であった。

四則計算では、小数同士の加法や、小数と整数の乗法は、高い正答率を示している。一方で、小数同士の減法や、整数同士のわり進む除法は、十分な正答率を得られていない。小数点の付け忘れや位取りによる誤答がみられることから、処理技能の定着だけでなく、位取り表などを用いて「各位の数字が何を表すのか」「位ごとに計算する意味」といった十進位取り記数法をしっかりと押さえられるような指導が重要である。また、小数と整数の除法の文章問題では、立式はできているものの、文章から「どこまでわり進めていくのか」を判断することが課題となっていることが分かる。引き続き、場面を把握するために図に表したり、実際に操作したりする活動を取り入れていくことが大切である。加えて、

ひもの本数を求める問題にもかかわらず、答えが小数になってしまったり、わられる数より大きくなってしまったりする誤答も多くみられることから、「問題と照らし合わせて答えを見直す力」を育てていく必要がある。その方法として「見積もる」「確かめの式」「問題場面に戻す」など、見通し・振り返りが考えられる。学習内容や子どもの実態に併せて取り入れていくことが大切である。

分数では、同分母分数の加法や、帯分数を単位分数のいくつ分かで表す問題、整数・仮分数・帯分数の大小比較はおおむね理解できている。しかし、テープ図に表された分数を読み取る問題は極めて低い正答率となっている。引き続き、分数も整数と同様に、量を表す数として数直線やテープ図に表したり読み取ったりする力をつけていかなければならない。また、見た目から判断している誤答も多いことから、単位分数を常に意識した指導が必要である。「1を○等分したうちの1つ分」という単位分数の意味を押さえるために、「単位分数を○こ集めると」「単位分数のいくつ分」など、いろいろな視点で数を見る力を育てていくことが大切である。

倍とわり算では、昨年度と同様に数直線で表したため、正答率は低かった。数直線やテープ図を立式の根拠や考え方の筋道を表すことに用いることができるよう、数量関係を図に表したり読み取ったりする指導を続けていく必要がある。

「数と計算」の内容は、「量と測定」、「数量関係」などの他の領域と深く関わりがあるので、重点を置いて指導していく必要がある。指導にあたっては、数の形式的な処理だけでなく、十進位取り記数法、0.1や単位分数の何個分かなどの数の意味もきちんとおさえていくことが大切である。さらに、わり算や分数、倍とわり算などの指導では、図や数直線などを用いて実感を伴ってとらえられるようにすることが大切である。

キーワード：図や数直線、十進位取り記数法、意味理解、見通し・振り返り、単位分数

## ○量と測定【大問10・11・17】

「量と測定」は、身の回りにおけるいろいろな量の意味、単位を用いての量の表し方、量の測定などによって構成されている領域である。平均正答率は53.2%と、昨年度の59.5%から大きく下げる結果となった。

180度よりも大きな角の工夫した求め方については、今年度から加えた説明する問題の正答率が低かった。角の大きさを求めることはおおむねできているので、それを説明する力を育てることが課題である。

昨年度までと同様に、面積の量感に関する問題は極めて低い正答率となっている。引き続き、実測したり体感したり比較したりするなど、量に対する感覚を日頃から育てていくことが大切である。また、量感を身につけるには、「広さ」から「長さ」という、自分がイメージできるものに戻って判断する力が必要である。例えば、面積を調べる活動において、「たてが△cm、横が□cmだから…」と根拠をもとに予想をさせることで、面積に対する見方を広げ、量感をつかめるようにする。このように、求積するだけでなく、面積から実際の広さをイメージできるような活動を多く取り入れていく必要がある。

正方形の面積を求める問題は、今年度は斜めに図示したり、求積に必要な数値を提示したりしたことにより、正答率が大きく下がった。定義をもとに図形を判断するように指導することが大切である。

複合図形の面積の求め方を式に表したり、式から求め方を考えたりする問題の正答率は昨年度まで少しずつではあるが確実に上昇を続けていた。しかし、今年度は式から求め方を考え、説明する問題の正答率が下がった。与えられた図から式を立て面積を求め

## II 調査結果の概要

るだけでなく、普段の授業の中で友達の式や図を読み取って、その意味や考え方を説明するなど、図と式を相互に結び付ける活動を今後も積極的に取り入れる必要がある。

キーワード：図と式の相互関係、量感、操作、説明

### ○図形【大問12・13・14】

「図形」は、基本的な図形の意味、構成などに関する領域である。平均正答率は56.6%であり、昨年度の66.0%より10ポイント近く下がった。

三角定規を用いない平行四辺形の作図の方法は、平行四辺形のどんな性質を使っているのかを問う問題の正答率が32.3%と極めて低い結果となった。昨年、実際に平行四辺形を作図する問題の正答率は74.5%と高かったことを踏まえると、図形の性質を理解しないまま、形式的に作図の手順を指導してきたことがわかる。作図をする際には、図形のどのような性質をもとにしているのか、なぜその方法で作図することができるのかを考えるように指導する必要がある。

四角形の角の大きさに関する問題、直方体の辺の位置関係に関する問題は、おおむね理解できている。その一方で、四角形の対角線に関する問題や、直方体の展開図を選択する問題は課題が残る結果となった。

図形の学習は、辺、頂点、角、面などの構成要素に着目して図形を分類し、各図形を定義し、理解を深めていくことが大切である。低学年の頃から、構成要素に着目し、いろいろな図形を弁別したり作図したりする活動を通して、図形に親しみ、豊かな感覚を育てる学習を取り入れなければならない。また、実際に長さや角度を測ることで、図形の性質について実感を伴って理解できるような指導が重要である。

キーワード：図形の構成要素、定義や性質に基づいて作図する、実測

### ○数量関係【大問1(5)・6・7・9・15・16】

「数量関係」は、数量や図形を取り扱う際の共通の考え方や方法などによって構成される領域である。平均正答率は60.1%であった。

文章中の数量関係を読み取り、正しく式に表す問題は、昨年度までと同様に特に正答率が低かった。問題文中の「ずつ」という言葉からわり算になると考えた誤答が多くあった。言葉だけで演算決定をするのではなく、問題場面を整理し、図などに表して考えたり、文章を正確に読み取ったりするなど、立式の根拠を大切にしながら指導を続けていくことが必要である。問題場面を正確に把握する力を育てるには、問題文から式を立てる活動だけでは不十分である。「問題文や式を図に表す」「式から問題文を予想したり図に表したりする」「図から問題文を予想したり式を立てたりする」など、「文章・式・図」を結び付けるような活動を多く取り入れていくことが必要である。

計算のきまりに関する問題は、さらに定着を図る必要がある。引き続き、計算のきまりを用いることのよさを感じられるような課題の設定が必要である。加えて、低学年の頃から1つの数を「○から1ひいた数」「△と□を合わせた数」というように多様な見方ができる力を育てていくことも重要である。

伴って変わる2つの数量の関係を記号を用いて式に表す問題も、引き続き課題が残る結果となった。今後も、表の続きを自分で作ってみたり、表を縦や横に見て規則性を発見したりしていかこうとする態度を育てていく必要がある。

折れ線グラフの数値や変化の特徴を読み取る問題は、おおむね理解できている。グラフの変化の様子から、実際の場面を想起するような指導が定着していることが伺える。一方で、理由を説明する問題については正答率が下がった。グラフの変化の特徴を「明確に」説明することが課題である。思考力、判断力、表現力などの育成も含め、根拠を「正しく」だけでなく「明確に」説明できるような指導を続けていくことが必要である。

キーワード：計算の工夫をする良さ、立式の根拠、式を読む、グラフを読む

# 3. 生活や学習についてのアンケート

## 調査の概要

### 1 調査の目的

川崎市の公立小学校に在籍する児童の生活や学習についての意識や実態を把握することにより、各学校における教育課程や指導方法等の改善に資するとともに、本市学校教育全体の充実に向けた基礎資料として活用する。

### 2 調査の設計

#### (1) 調査実施校及び対象者

市内公立小学校第5学年に在籍する全児童 \*調査当日の欠席者を除く

#### (2) 調査校数及び回答者数

学校数：113校 回答者数：11,344名

#### (3) 調査実施日

平成27年5月12日(火)に川崎市学習状況調査の一環として、各教科の調査後に実施

#### (4) 調査方法

記名の質問紙法調査による

#### (5) 調査内容及び設問数

児童の生活と学習に関する意識と実態についての調査 50問

#### (6) 設問の主な観点及び視点

	観 点	視 点
1	学校生活に対する意識	楽しさ
2	学習全般に対する意識	好感度、必要性、理由、相談相手
3	各教科等に対する意識	好感度、理解度、有用感
4	家庭学習の実態	学習時間、学習内容、通塾
5	家庭生活の実態	睡眠時間、朝食の摂取、学習の準備、 テレビ・ビデオ・ゲームの視聴・実施時間 1ヶ月の読書量、携帯電話の有無
6	自尊意識、将来に関する意識等	自己肯定感、学びへの挑戦、学ぶこと生きることの尊さ、 郷土への愛着、他者との協力・協働
7	各教科等に対する意識・実態	学習内容・方法に対する好感度 日常生活への活用や関連 等

### 3 調査結果の集計・分析にあたっての留意事項

#### (1) 単純集計及び分析

- ① 2の(6)にある「設問の観点」ごとに項立てを行い、分析を行った。
- ② 設問ごとに集計結果をグラフで表し、考察を加えた。
- ③ 一部の設問では昨年度・一昨年度の結果を併記して、経年比較分析を行った。

#### (2) クロス集計及び分析

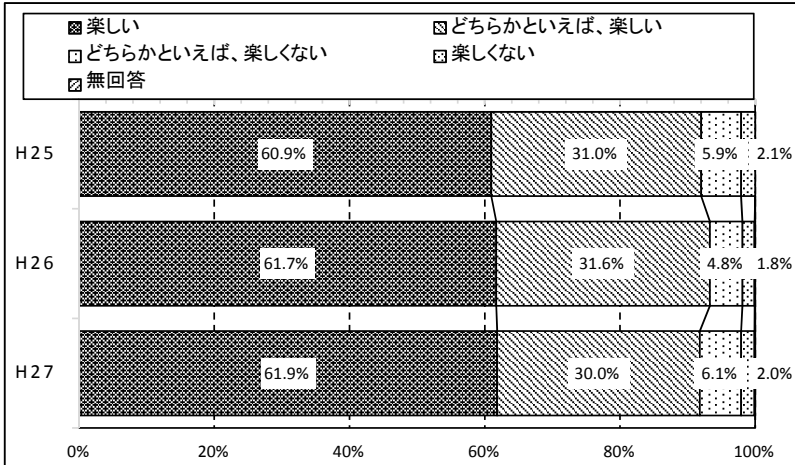
いくつかの設問については、クロス集計という手法を用いて分析した。これは、設問Aでの選択肢ごとに設問Bの回答を集計することで、設問Aでの回答選択の違いを設問Bで説明する方法である。このことにより、設問Aと設問Bの二つの設問の間の関連や相関関係などを分析した。なお、クロス集計では、集計の都合上無回答者を除いて集計した。

- (3) 各グラフには、見易さを考慮して調査結果の割合の数値を記入しきれていないものがある。単純集計については、「資料 調査結果集計表」の該当設問の数値でご確認願いたい。

# 調査結果と分析

## 単純集計

### 1 学校生活に対する意識

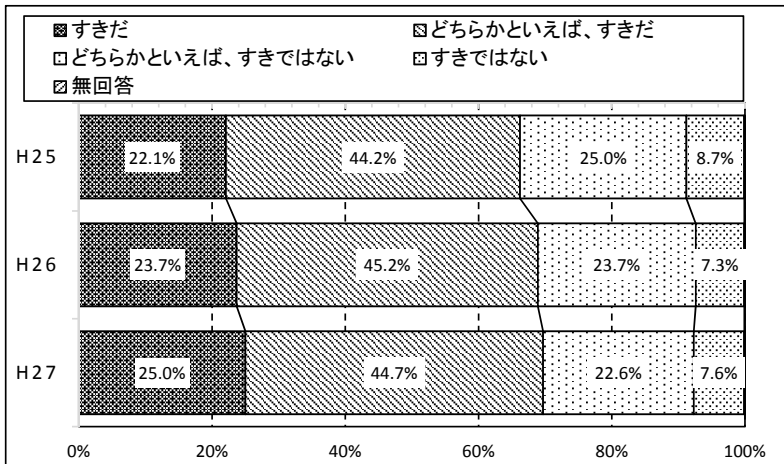


○61.9%の児童が、学校生活は「楽しい」と○61.9%の児童が、学校生活は「楽しい」と回答しており、「どちらかといえば、楽しい」を合わせると91.9%となり、9割を超える。

○25年度と比較すると、「楽しい」と「どちらかといえば、楽しい」を合わせた回答は同値である。

### 2 学習全般に対する意識

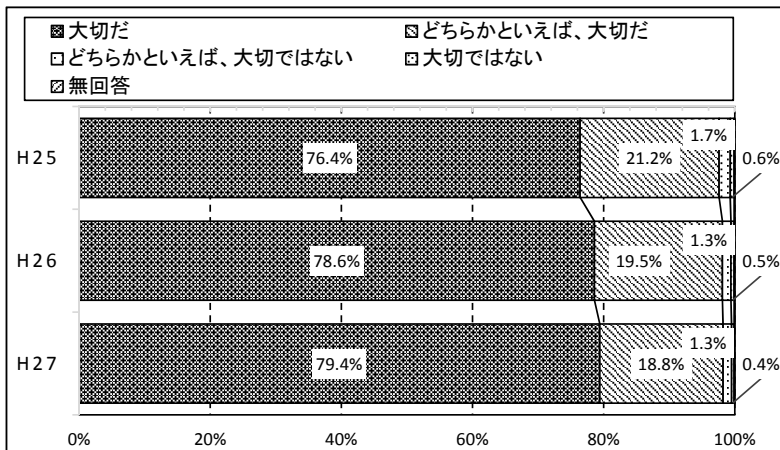
#### (1) 好感度【問2】



○25.0%の児童が、勉強は「すきだ」と回答しており、「どちらかといえば、すきだ」を合わせると69.7%である。

○25年度と比較すると、「すきだ」と「どちらかといえば、すきだ」を合わせた回答は3.4ポイント増加している。

#### (2) 必要性【問3】

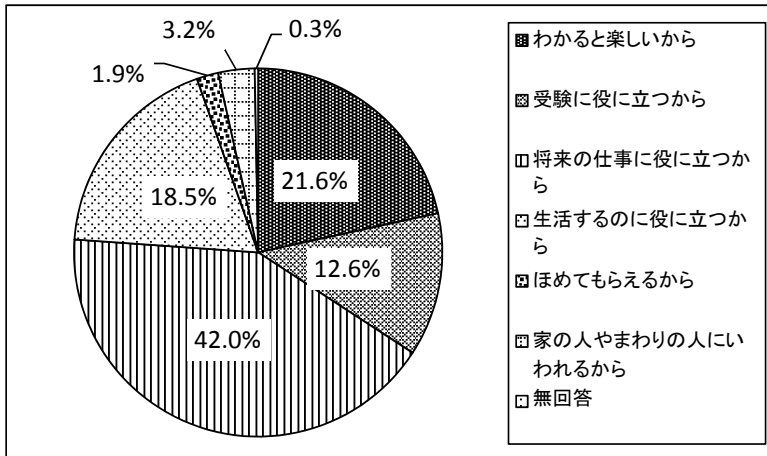


○79.4%の児童が、勉強は「大切だ」と回答しており、「どちらかといえば、大切だ」を合わせると98.2%である。

○25年度と比較すると、勉強は「大切だ」と「どちらかといえば、大切だ」を合わせた回答は0.6ポイント増加している。

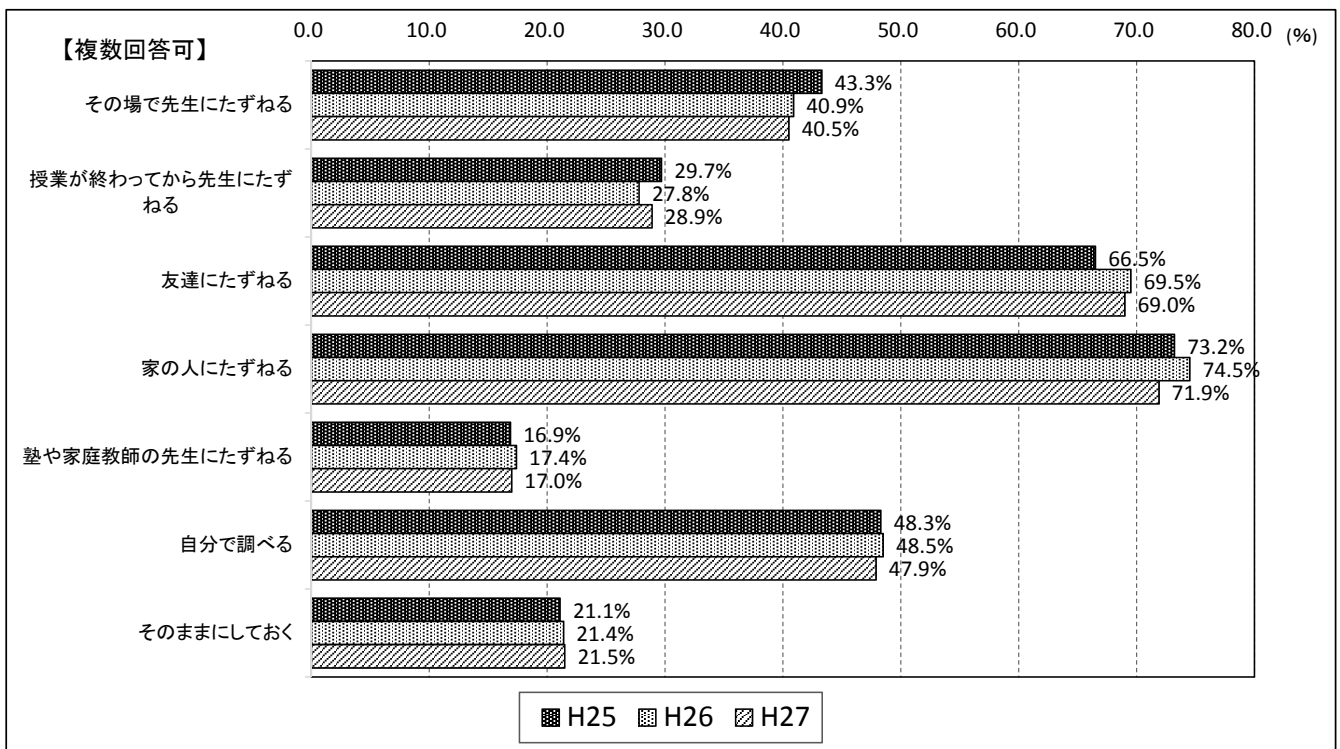
II 調査結果の概要

(3) 理由【問4】



○勉強する一番の理由として、「将来の仕事に役に立つから」、「生活するのに役に立つから」を合わせると60.5%で、約6割である。  
○21.6%の児童が「わかると楽しいから」と回答している。

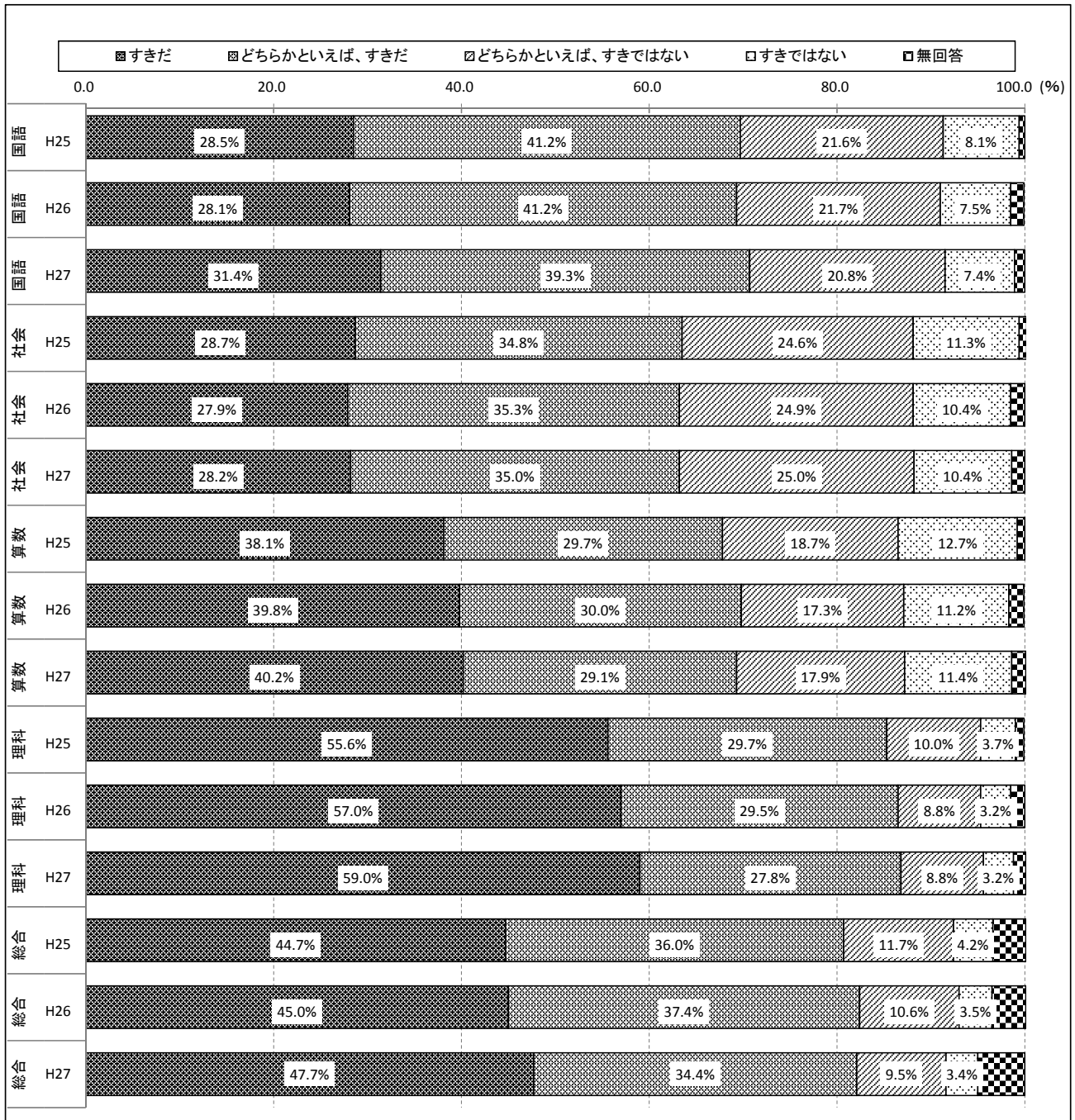
(4) 相談相手【問19】



○「授業の中で、わからないことがあったときに相談する相手」として、「家の人」を選んでいる児童が71.9%と最も多く、「友達」の69.0%が続いている。  
○25年度と比較すると、「その場で先生にたずねる」「授業が終わってから先生にたずねる」「そのままにしておく」はほぼ同値である。

### 3 各教科等に対する意識

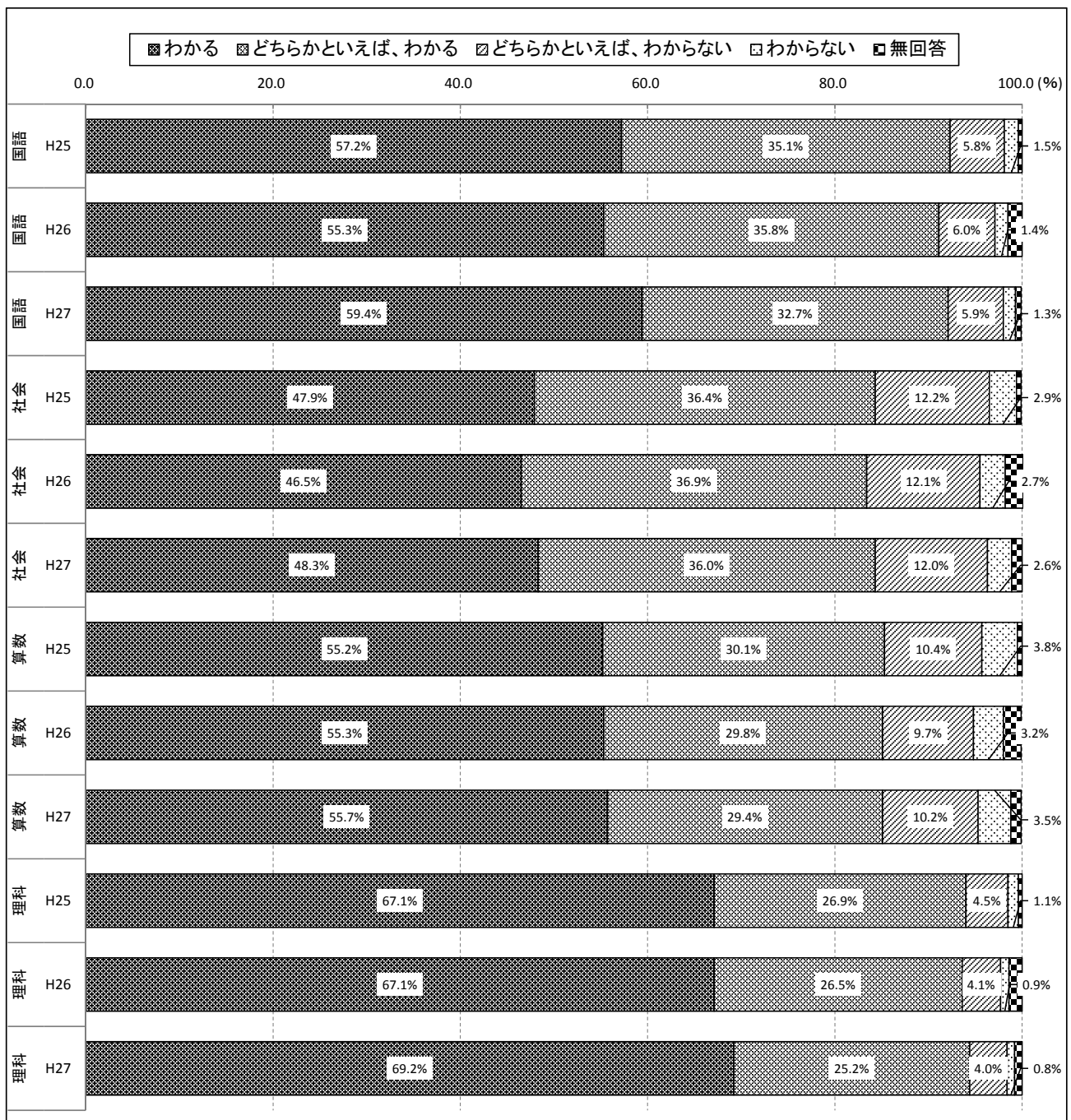
#### (1) 好感度【問5～9】



- 「好きだ」と「どちらかといえば、好きだ」と回答した児童は、「国語」70.7%、「社会」63.2%、「算数」69.3%、「理科」86.8%、「総合的な学習の時間」82.1%である。平成25年度からの経年比較では、「算数」「理科」においてポイントが高くなっている。平成25年度と比較すると、「理科」では、1.5ポイント高くなっている。
- 「好きだ」と回答した児童は、「国語」31.4%、「社会」28.2%、「算数」40.2%、「理科」59.0%、「総合的な学習の時間」47.7%である。平成25年度からの経年比較では、「国語」「理科」「総合的な学習の時間」においてポイントが高くなっている。平成25年度と比較すると、「理科」「総合的な学習の時間」では、それぞれ3.4、3.0ポイント高くなっている。

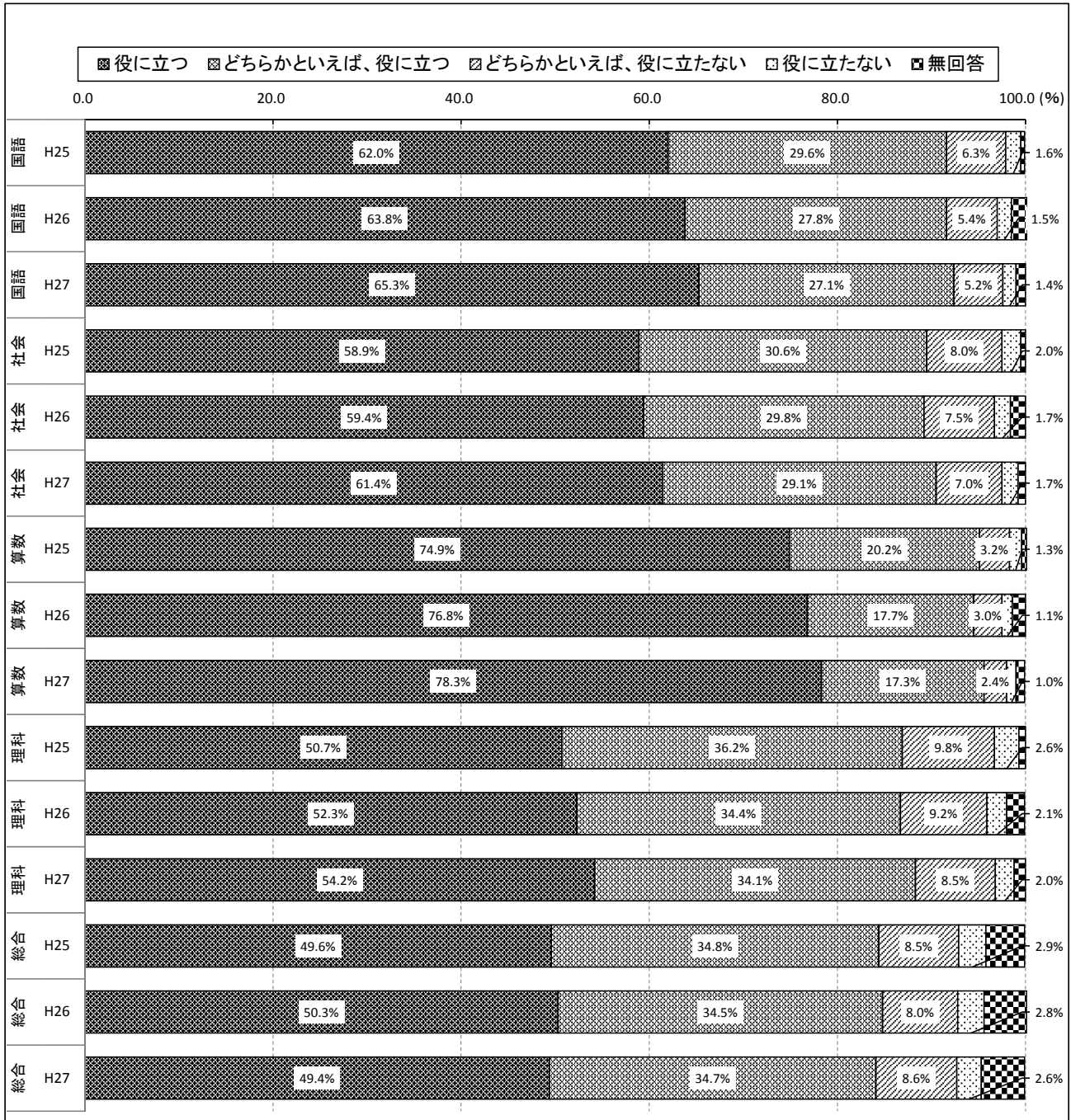
II 調査結果の概要

(2) 理解度【問 10～13】



- 「わかる」と「どちらかといえば、わかる」と回答した児童は、「国語」92.1%、「社会」84.3%、「算数」85.1%、「理科」94.4%である。平成25年度からの経年比較では、大きな変化は見られないが、「国語」「理科」において、9割を超える児童が授業を「わかる」「どちらかといえば、わかる」と回答している。
- 「わかる」と回答した児童は、「国語」59.4%、「社会」48.3%、「算数」55.7%、「理科」69.2%である。平成25年度からの経年比較では、「国語」においてポイントが高くなっている。平成25年度と比較すると、「理科」では、2.1ポイント高くなっている。

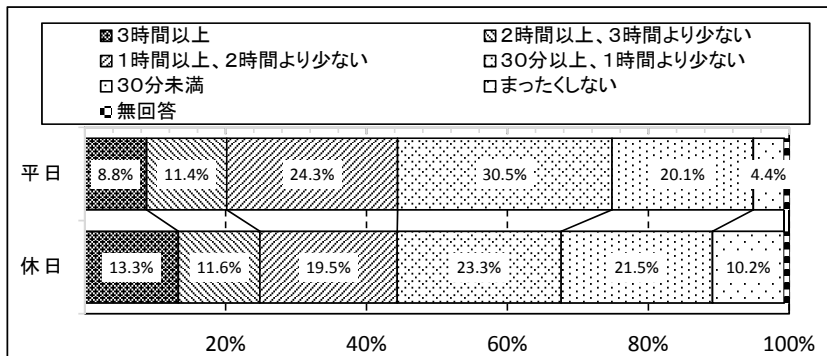
(3) 有用感【問 14~18】



- 「役に立つ」と「どちらかといえば、役に立つ」と回答した児童は、「国語」92.4%、「社会」90.5%、「算数」95.6%、「理科」88.3%、「総合的な学習の時間」84.1%である。平成25年度からの経年比較では、「国語」「社会」「算数」「理科」においてポイントが高くなっている。
- 「役に立つ」と回答した児童は、「国語」65.3%、「社会」61.4%、「算数」78.3%、「理科」54.2%、「総合的な学習の時間」49.4%である。平成25年度からの経年比較では、「国語」「社会」「算数」「理科」でポイントが高くなっている。平成25年度と比較すると、「国語」「算数」「理科」では、それぞれ3.3、3.4、3.5ポイント高くなっている。

## 4 家庭学習の実態

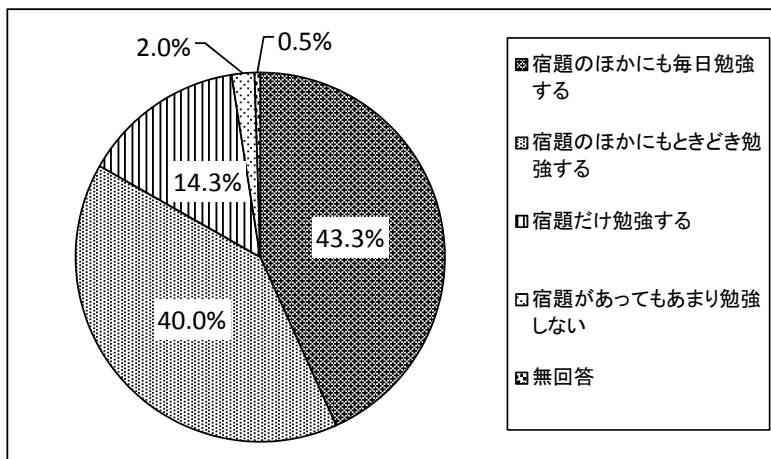
### (1) 学習時間【問 20～21】



○平日、休日とも「30分以上、1時間より少ない」が最も多く、「1時間以上、2時間より少ない」を合わせると、平日では54.8%、休日では42.8%である。

○「30分未満」「まったくしない」という回答は、平日は24.5%、休日は31.7%であり、休日の方が7.2ポイント高い。一方、「3時間以上」と回答した比較的勉強時間が長い児童の割合も、休日の方が平日より4.5ポイント高い。

### (2) 学習内容【問 22】



○「宿題のほかにもと毎日勉強する」が43.3%で最も多く、「宿題のほかにもときどき勉強する」が40.0%で続いている。

○「宿題があってもあまり勉強しない」と回答した児童は2.0%である。

### (3) 通塾【問 23】

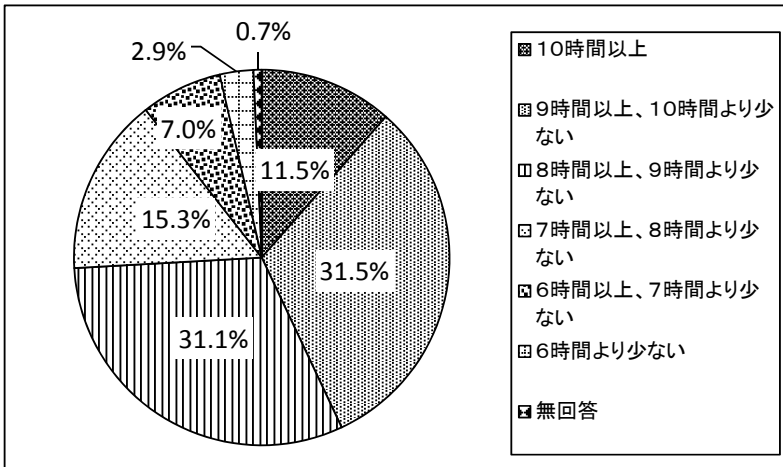
(%)

	通っている	通っていない	無回答
H25	50.6	48.6	0.8
H26	49.8	49.5	0.7
H27	50.7	48.7	0.6

○学習塾に通っている児童は50.7%で、25年度と比較すると、ほぼ同値である。

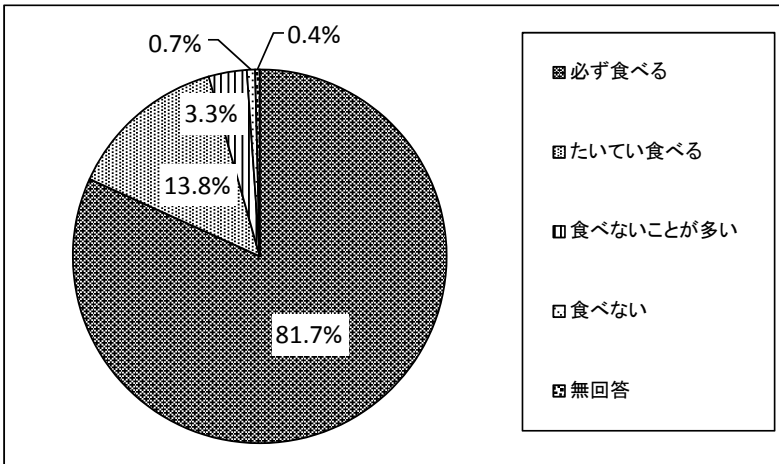
## 5 家庭生活の実態

### (1) 睡眠時間【問 24】



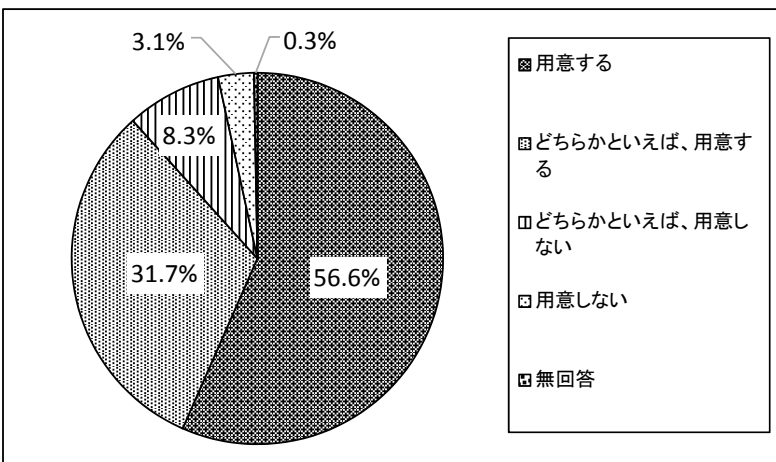
○「9時間以上、10時間より少ない」(31.5%)、「8時間以上、9時間より少ない」(31.1%)という回答が多く、約6割の児童は睡眠時間が「8～10時間」である。  
○睡眠時間が7時間未満の児童の割合は9.9%である。

### (2) 朝食の摂取【問 25】



○「必ず食べる」と回答している児童の割合は81.7%であり、「たいてい食べる」を合わせると、95.5%である。  
○「食べない」と回答した児童は0.7%である。

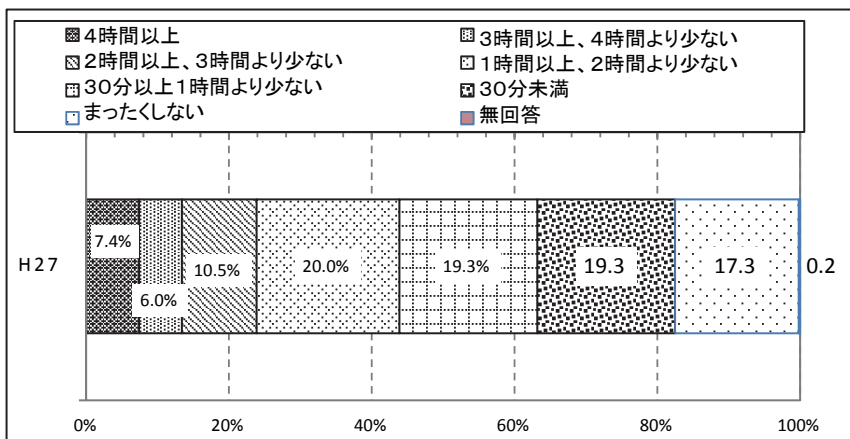
### (3) 学習の準備【問 26】



○学校に持って行くものを前日に「用意する」と回答した児童の割合は56.6%であり、「どちらかといえば、用意する」を合わせると、88.3%である。

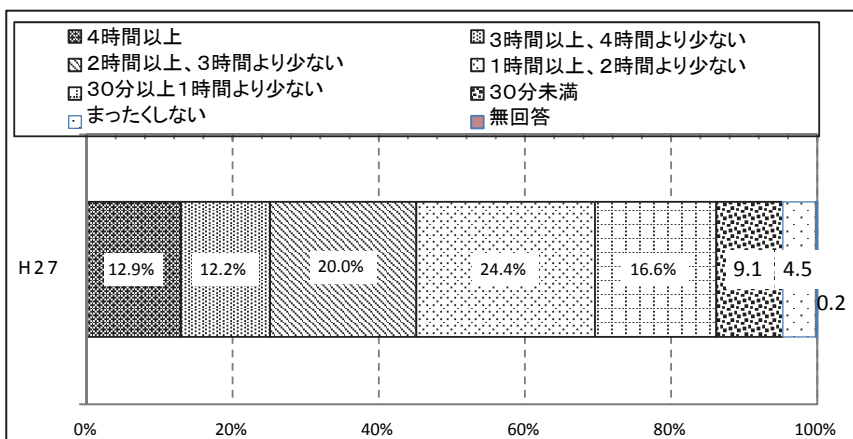
II 調査結果の概要

(4) テレビゲームの実施時間【問 27】



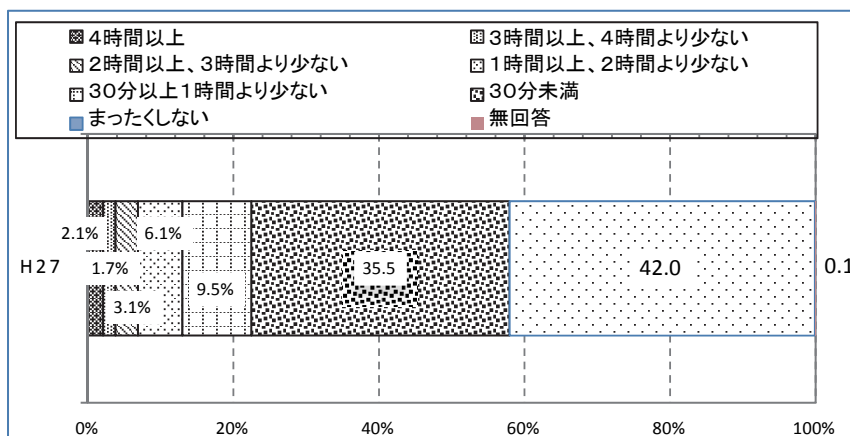
○実施時間が「1時間以上」の回答の合計は、43.9%である。  
 ○「3時間以上」の回答の合計は、13.4%である。

(5) テレビやビデオ・DVDの視聴時間【問 28】



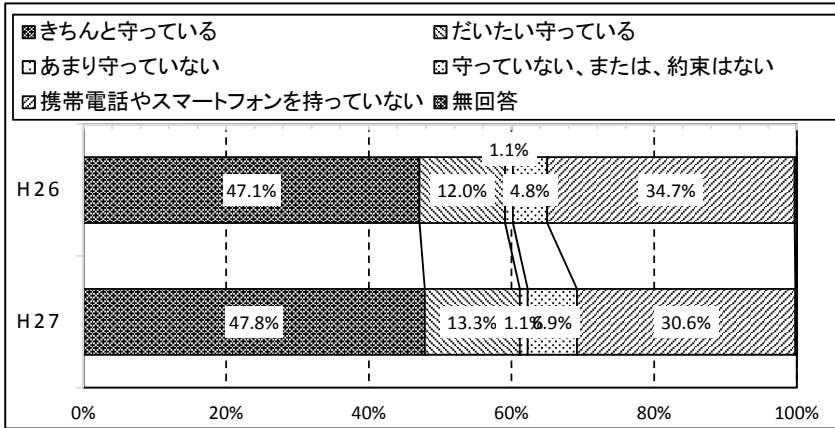
○視聴時間が「1時間以上」の回答の合計は、69.5%である。  
 ○「3時間以上」の回答の合計は、25.1%である。

(6) 携帯電話やスマートフォンの使用時間【問 29】



○使用時間が「1時間以上」の回答の合計は、13.0%である。  
 ○「3時間以上」の回答の合計は、3.8%である。

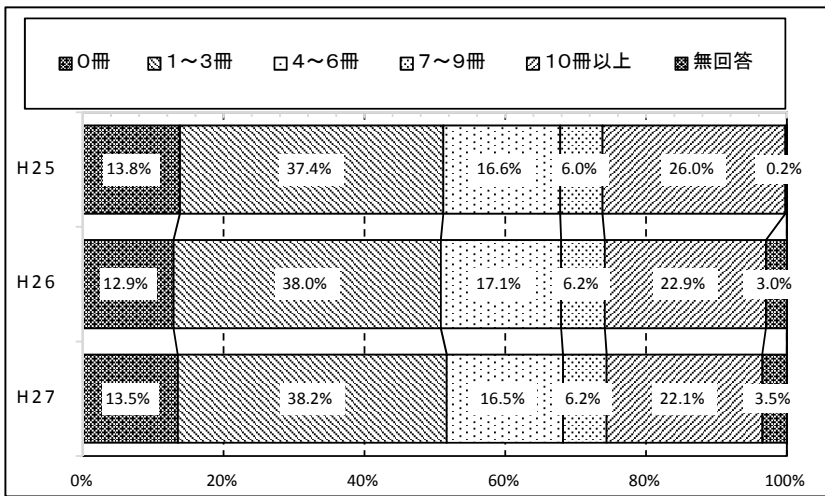
(7) 携帯電話の使い方【問 30】



○携帯電話やスマートフォンを持っていない児童の割合は、30.6%である。

○「きちんと守っている」、「だいたい守っている」と回答した児童の割合は、61.0%である。

(8) 1ヶ月の読書量【問 31】



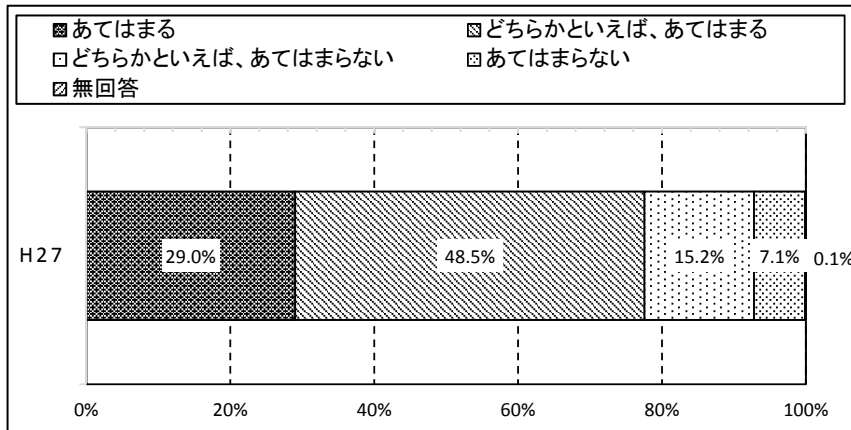
	平均冊数
H25	5.7冊
H26	5.7冊
H27	5.7冊

○「1~3冊」が38.2%で最も多く、「10冊以上」が22.1%、「4~6冊」が16.5%である。1冊も読まない児童の割合は13.5%である。

○25年と比較すると、「10冊以上」は3.9ポイント減少し、「0冊」は0.3ポイント減少している。平均冊数は同値である。

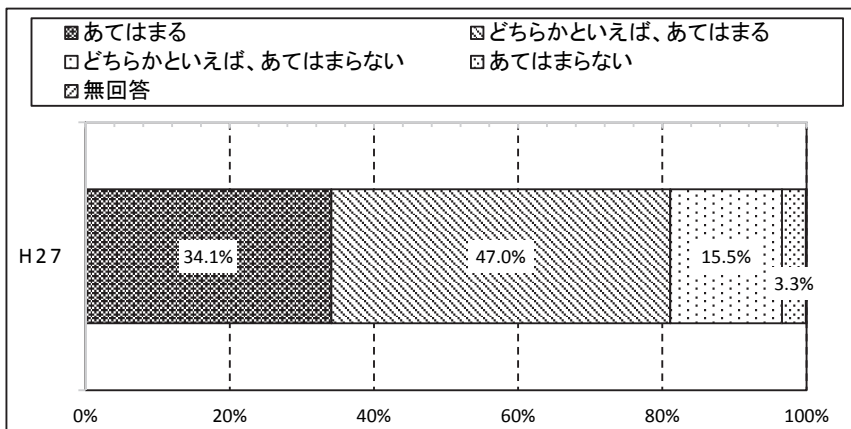
## 6 自尊心・将来に関する意識等

### (1) 自分にはよいところがあると思う【問 32】



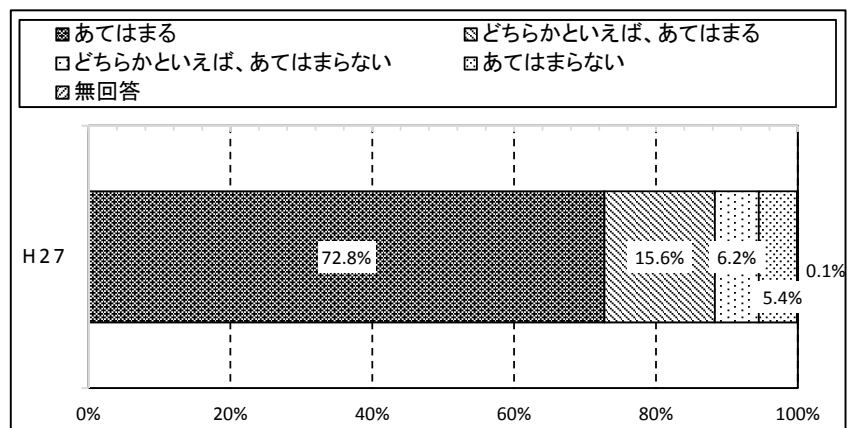
○「あてはまる」「どちらかといえば、あてはまる」と回答した児童の割合は、77.5%である。

### (2) 失敗を恐れなくて挑戦している【問 33】



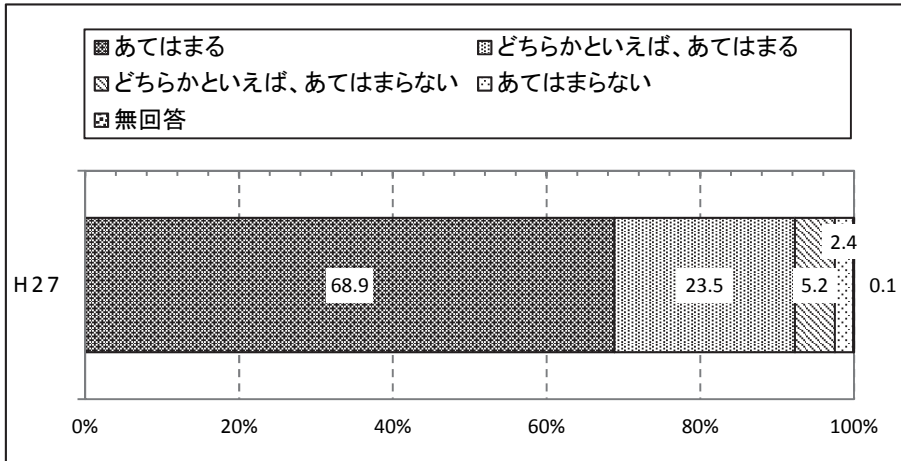
○「あてはまる」「どちらかといえば、あてはまる」と回答した児童の割合は、81.1%である。

### (3) 将来の夢や目標を持っている【問 34】



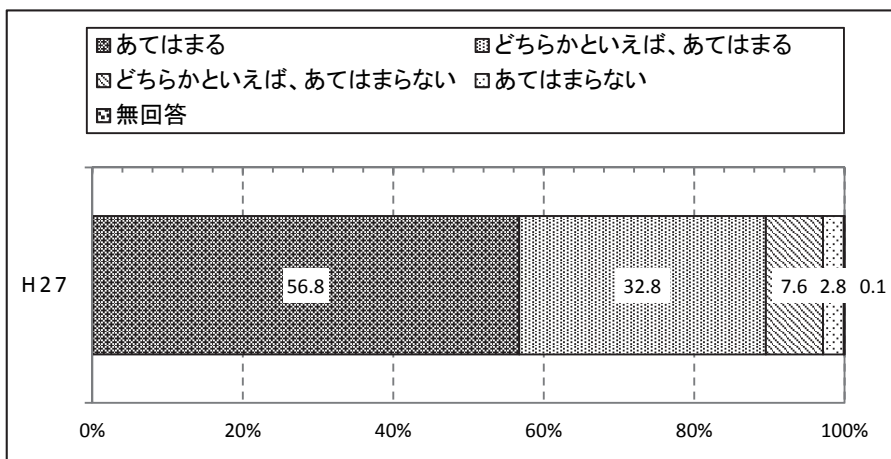
○「あてはまる」「どちらかといえば、あてはまる」と回答した児童の割合は、88.4%である。

(4) 自分の町が好き【問 35】



○「あてはまる」「どちらかといえば、あてはまる」と回答した児童の割合は、92.4%である。

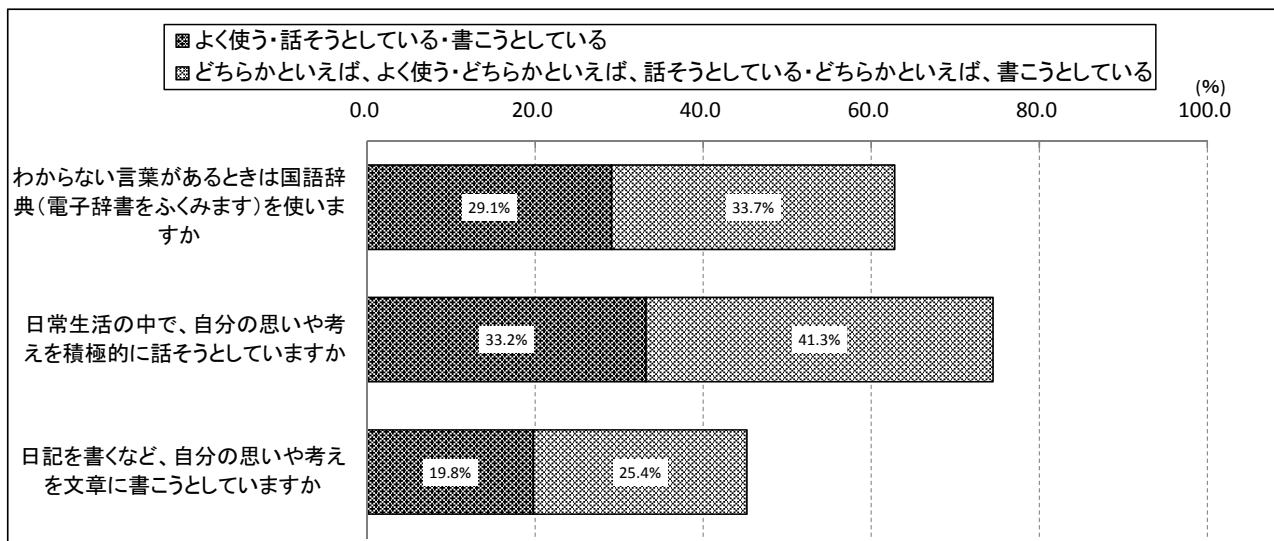
(5) 友達と協力して活動する【問 36】



○「あてはまる」「どちらかといえば、あてはまる」と回答した児童の割合は、89.6%である。

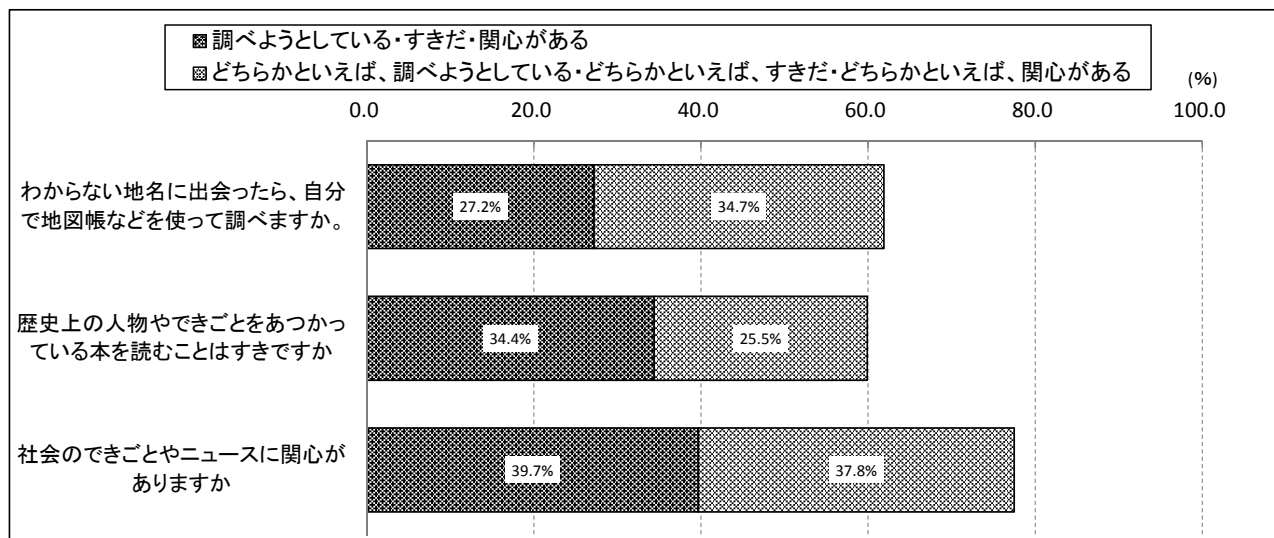
## 7 各教科等に対する意識・実態

### (1) 国語【問 37～39】



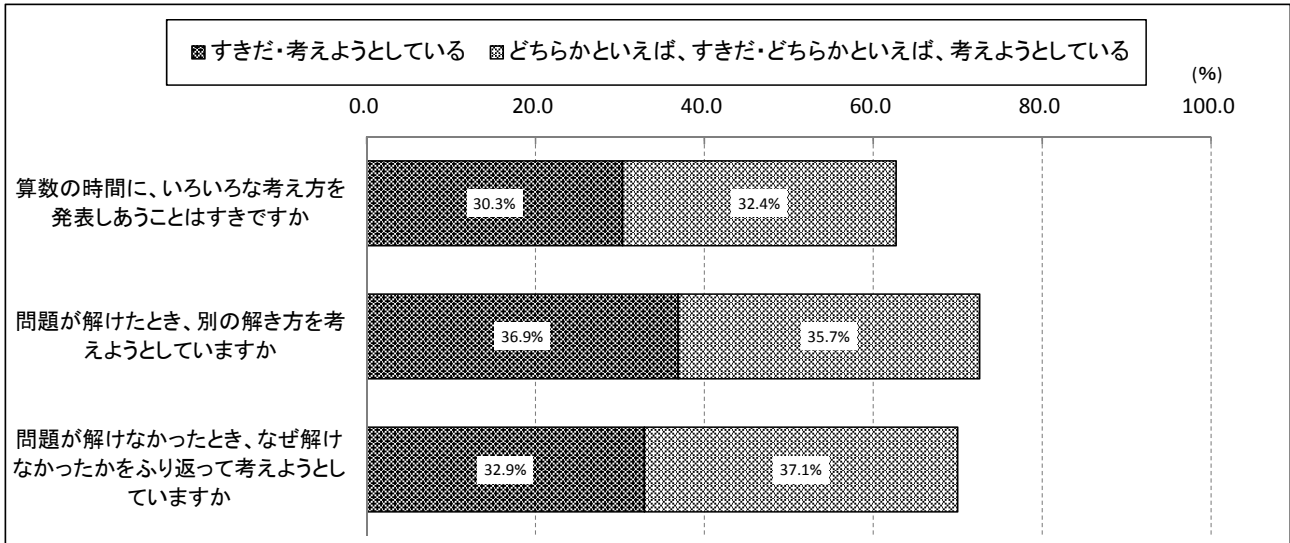
- 国語辞典を使う児童は、「どちらかといえば」を含めると、62.8%である。
- 自分の思いや考えを積極的に話そうとしている児童は、「どちらかといえば」を含めると、74.5%である。
- 自分の思いや考えを文章に書こうとしている児童は、「どちらかといえば」を含めると、45.2%である。

### (2) 社会【問 40～42】



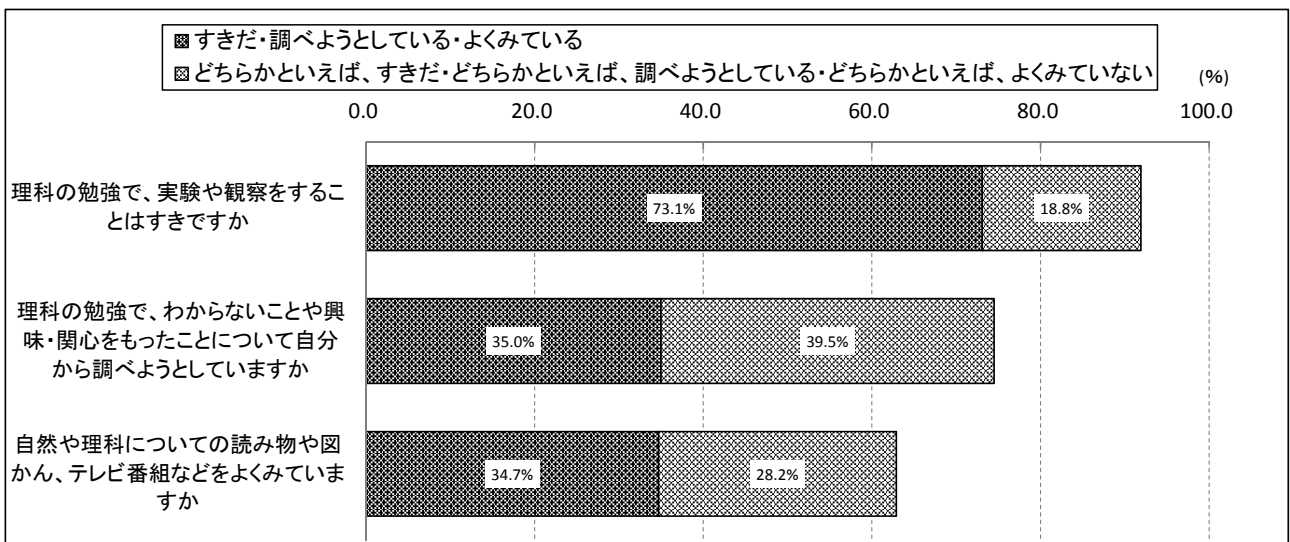
- 自分で地図帳などを使って地名を調べる児童は、「どちらかといえば」を含めると、61.9%である。
- 歴史に関する本を読むことが好きな児童は、「どちらかといえば」を含めると、59.9%である。
- 社会事象やニュースに関心がある児童は、「どちらかといえば」を含めると、77.5%である。

(3) 算数【問 43～45】



- いろいろな考え方を発表しあうことが好きな児童は、「どちらかといえば」を含めると、62.7%である。
- 別の解き方を考えようとしている児童は、「どちらかといえば」を含めると、72.6%である。
- なぜ解けなかったかをふり返って考えようとしている児童は、「どちらかといえば」を含めると、70.0%である。

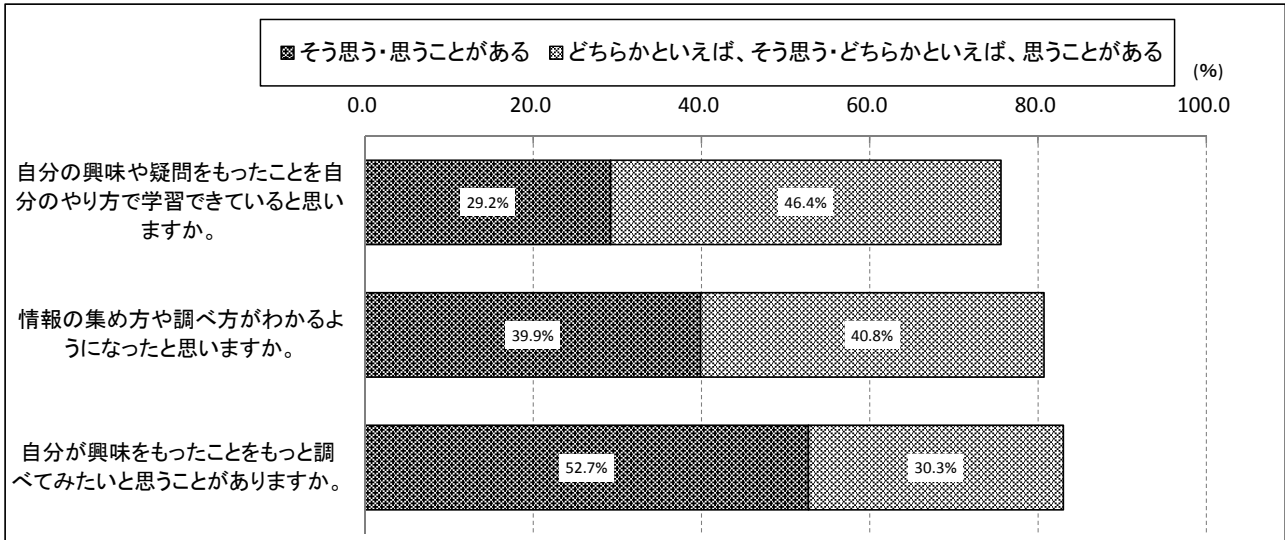
(4) 理科【問 46～48】



- 実験や観察をすることが好きな児童は、「どちらかといえば」を含めると、91.9%である。
- わからないことや興味・関心をもったことについて自分から調べようとする児童は、「どちらかといえば」を含めると、74.5%である。
- 自然や理科に関する読み物や図鑑、テレビ番組などをよくみている児童は、「どちらかといえば」を含めると、62.9%である。

II 調査結果の概要

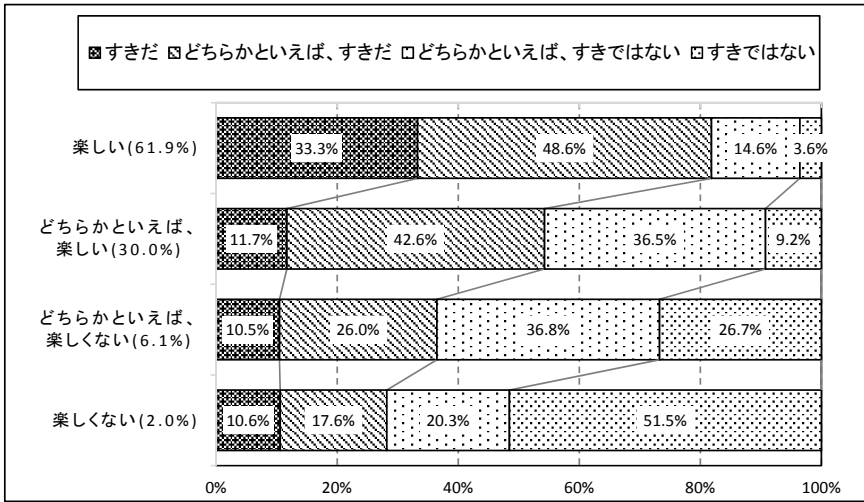
(5) 総合的な学習の時間【問 49～51】



- 自分の興味や疑問をもったことを自分のやり方で学習できていると思う児童は、「どちらかといえば」を含めると、75.6%である。
- 情報の集め方や調べ方がわかるようになったと思う児童は、「どちらかといえば」を含めると、80.7%である。
- 自分が興味をもったことをもっと調べてみたいと思う児童は、「どちらかといえば」を含めると、83.0%である。

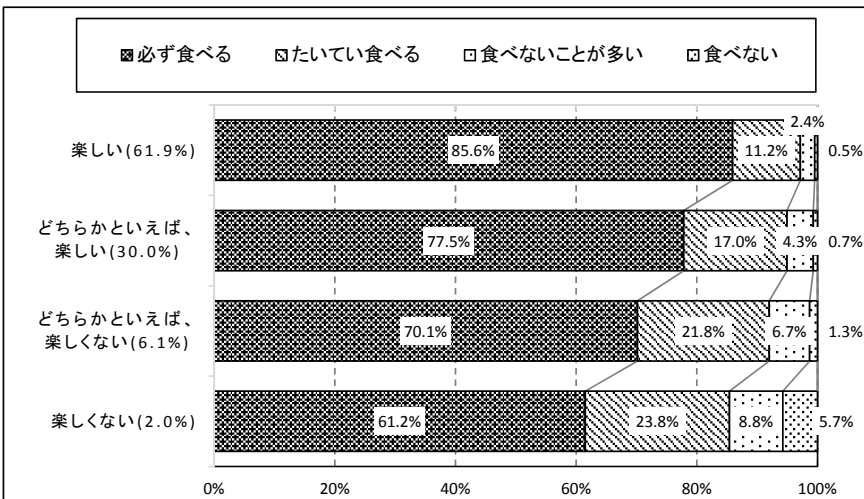
# クロス集計

## 1 学校生活の楽しさ【問1】×学習に対する好感度【問2】



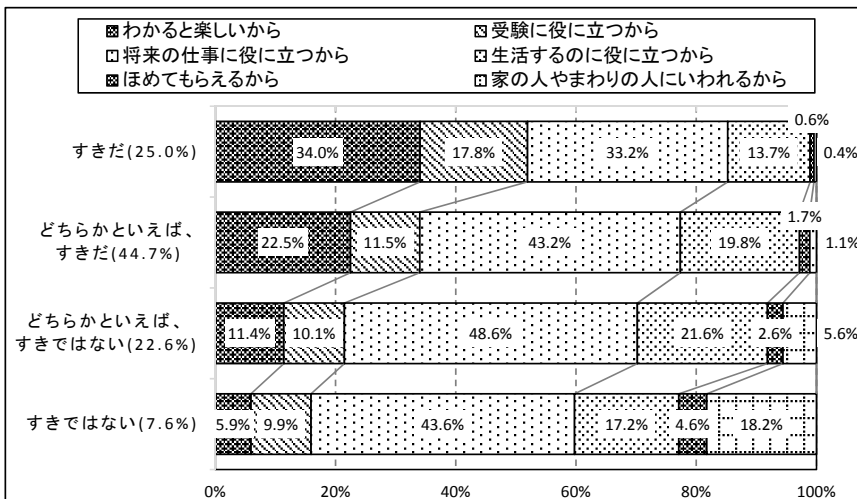
○学校生活が楽しい児童ほど、学習に対する好感度が高い傾向がある。  
○学校生活は「楽しくない」と回答した児童の71.8%、「どちらかといえば、楽しくない」と回答した児童の63.5%が勉強は「すきではない」、「どちらかといえば、すきではない」と答えている。

## 2 学校生活の楽しさ【問1】×朝食の摂取【問25】



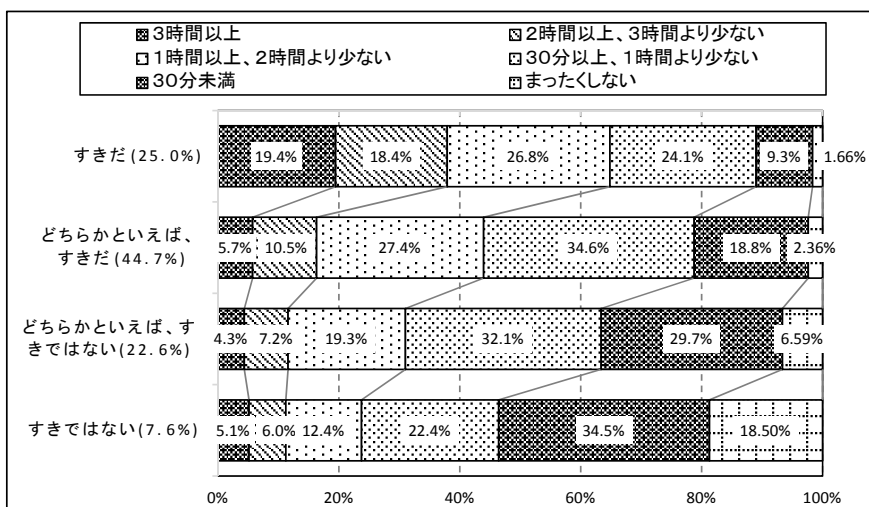
○学校生活が楽しい児童は、朝食の摂取状況が良好な状況にある。  
○学校生活は「楽しくない」と回答した児童の朝食を必ず食べる割合は、「楽しい」と答えた児童の朝食を必ず食べる割合よりも24.4ポイント低い。

## 3 学習に対する好感度【問2】×勉強する理由【問4】



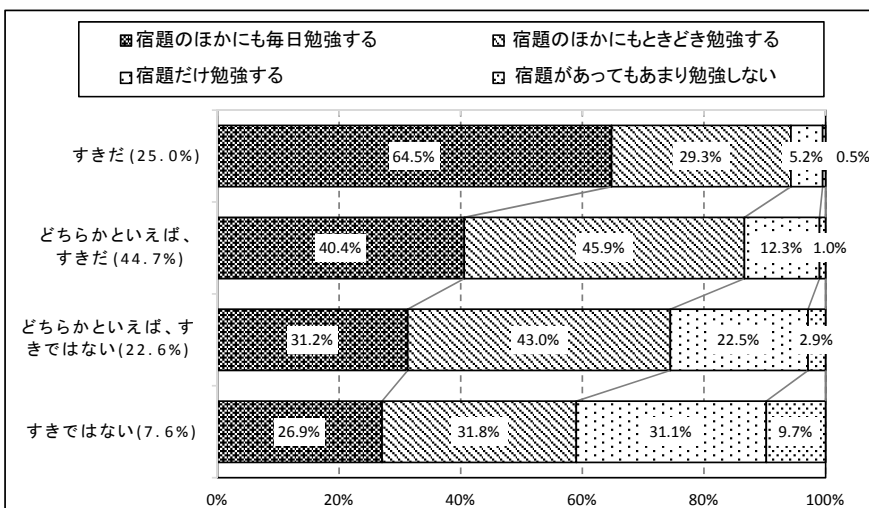
○好感度が高い児童ほど、「わかると楽しいから」と回答する割合が多い。「すきだ」と回答した児童と「すきではない」と答えた児童では28.1ポイントの差がある。  
○「すきではない」と回答した児童の18.2%が勉強する理由として、「家の人やまわりの人にいわれるから」を選んでおり、他と比べて多い。

#### 4 学習に対する好感度【問2】×家庭学習時間（平日）【問20】



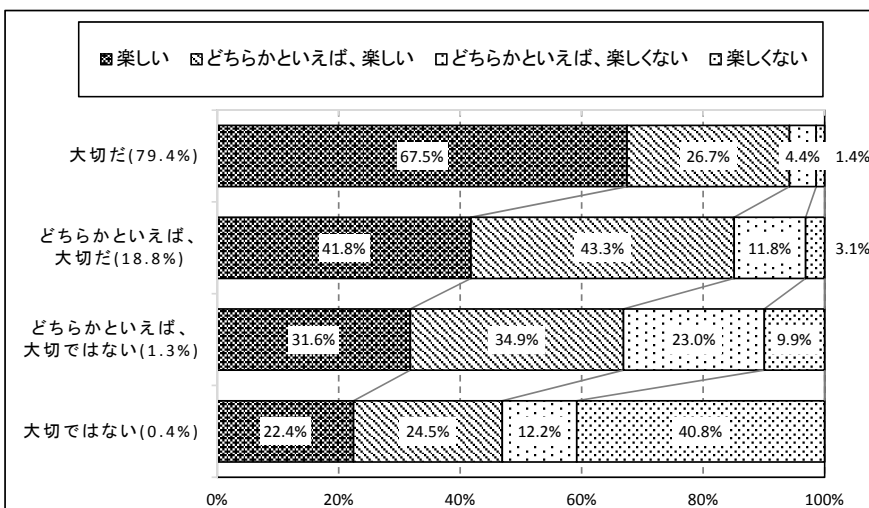
○好感度が高い児童ほど、平日の家庭学習時間が長い傾向にある。  
○勉強が「好きではない」と回答した児童の約5割が30分以上の家庭学習を行っている。

#### 5 学習に対する好感度【問2】×家庭学習の内容【問22】



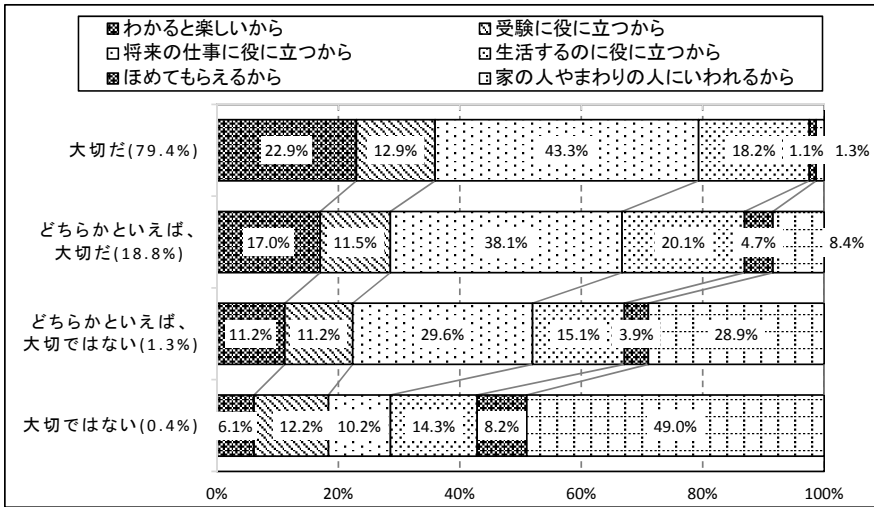
○勉強が「好きだ」と回答した児童の64.5%は、「宿題のほかに毎日勉強する」と回答している。  
○「好きではない」と回答した児童の58.7%が宿題のほかに勉強をしている。

#### 6 学習の必要性【問3】×学校生活の楽しさ【問1】



○学習に対する必要性を感じている児童ほど、学校生活を楽しいと感じている傾向がある。  
○勉強が「大切ではない」と回答した児童のうち、53.0%は学校生活が「楽しくない」、「どちらかといえば、楽しくない」と回答している。

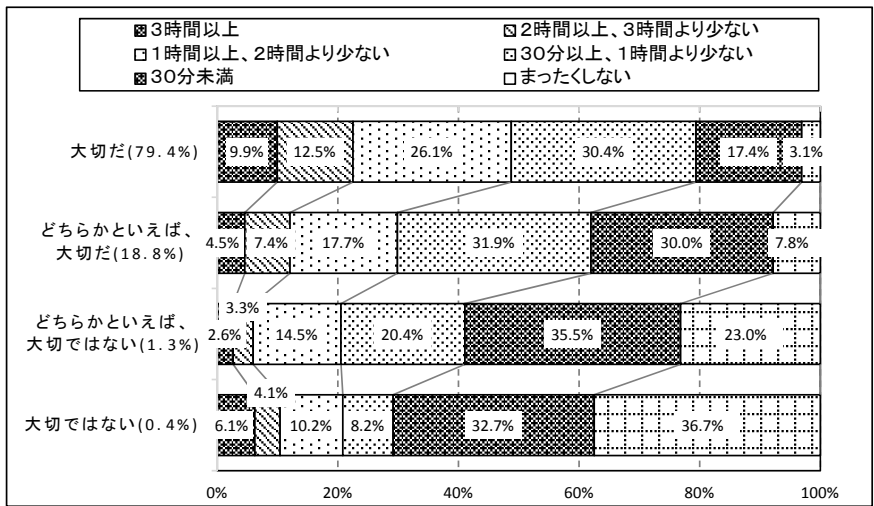
**7 学習の必要性【問3】×勉強する理由【問4】**



○学習に対する必要性を感じている児童ほど、「将来の仕事に役に立つから」や「わかると楽しいから」を勉強する理由に選んでいる割合が高い。

○学習が「大切ではない」と回答した児童のうち、49.0%が勉強する理由として「家の人やまわりの人にいわれるから」を選んでいる。

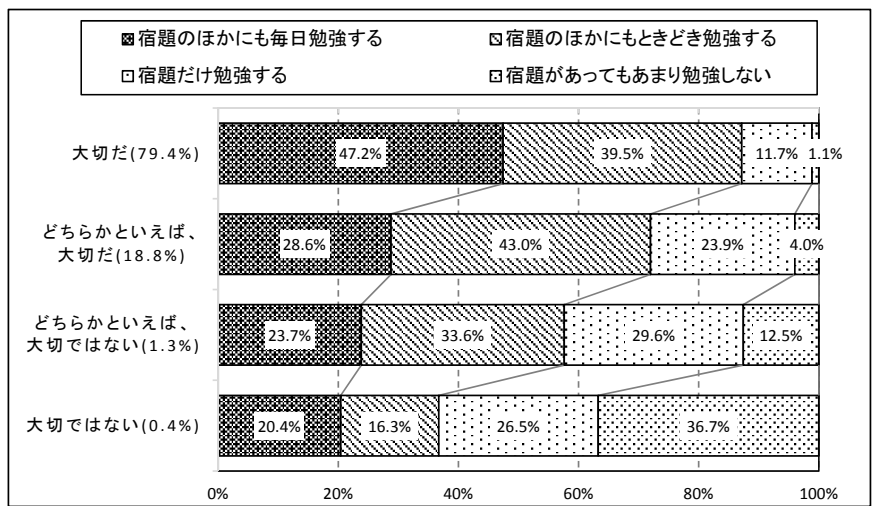
**8 学習の必要性【問3】×家庭学習時間(平日)【問20】**



○平日に家庭学習をしている割合は、学習に対する必要性を感じている児童ほど高い。

○勉強が「大切だ」、「どちらかといえば、大切だ」と回答した児童の家庭学習時間で一番多いのは、「30分以上、1時間より少ない」である。

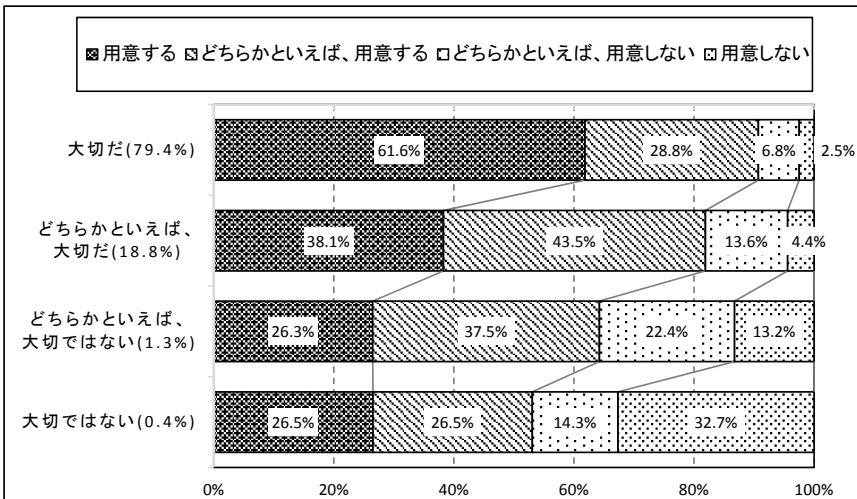
**9 学習の必要性【問3】×家庭学習の内容【問22】**



○勉強が「大切だ」と回答した児童のうち、86.7%が、宿題のほかに毎日またはときどき勉強すると回答している。

○勉強が「大切ではない」と回答した児童のうち、36.7%は「宿題があってもあまり勉強しない」と回答している。

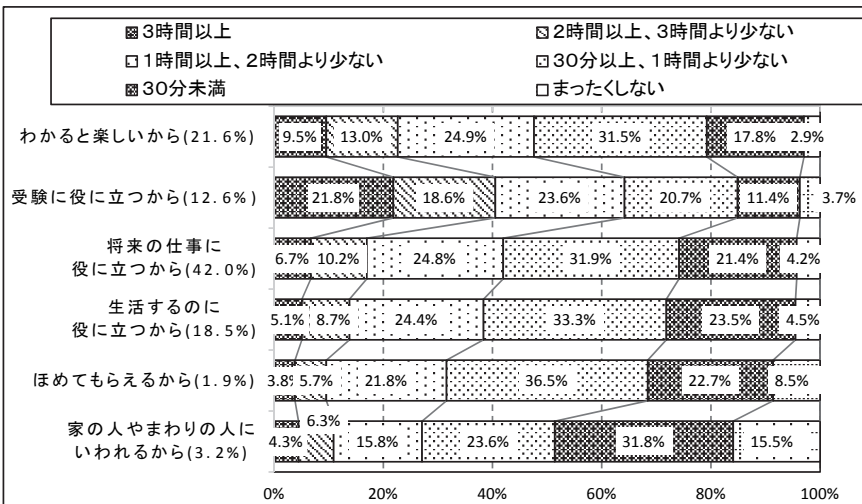
### 10 学習の必要性【問3】×学習の準備【問26】



○学習に対する必要性を感じている児童ほど、前日に学校の持ち物を準備する傾向が見られる。

○勉強が「大切だ」と回答した児童の90.4%が、前日に学校の持ち物を「用意する」、「どちらかといえば、用意する」と回答している。

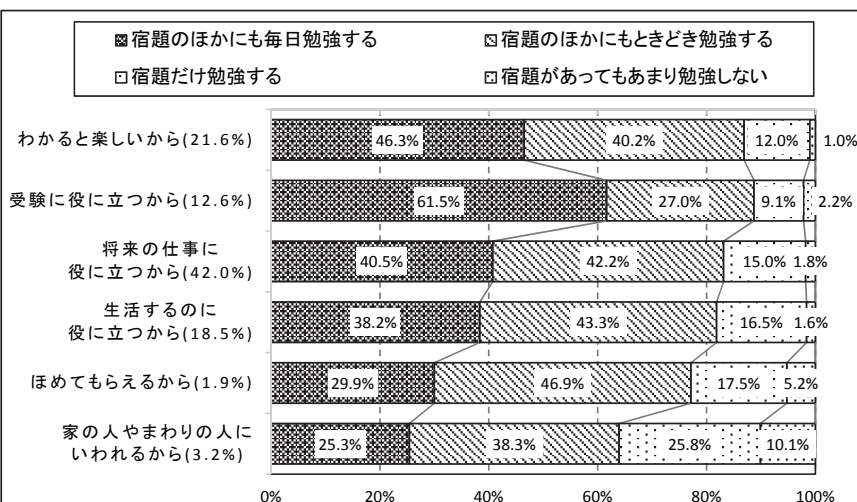
### 11 勉強する理由【問4】×家庭学習時間(平日)【問20】



○勉強する理由として「受験に役に立つから」を選んだ児童は勉強時間が長い傾向がある。

○勉強する理由として「家の人やまわりの人にいわれるから」を選んだ児童の47.3%が、勉強を「30分未満」「まったくしない」と回答している。

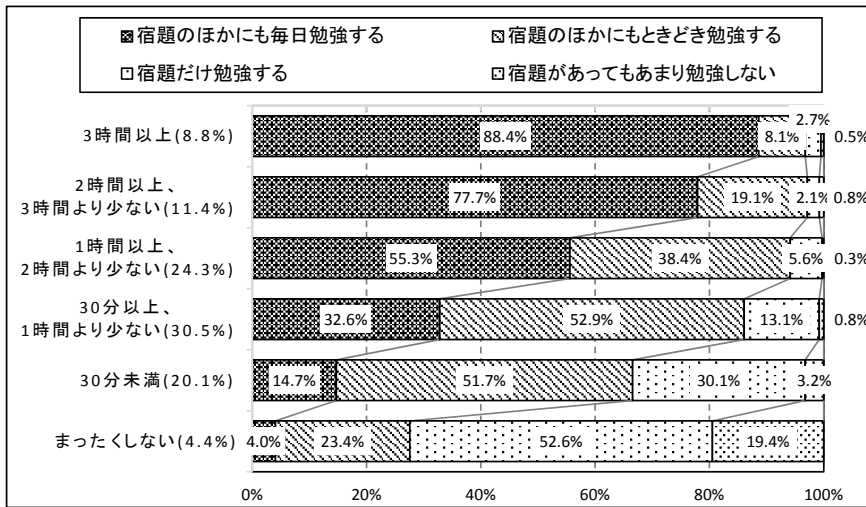
### 12 勉強する理由【問4】×家庭学習の内容【問22】



○「将来の仕事に役に立つから」、「生活するのに役に立つから」と回答した児童のうち、「宿題のほかに毎日勉強する」、「宿題のほかにもときどき勉強する」と回答した児童はそれぞれ82.7%、81.5%である。

○「家の人やまわりの人にいわれるから」と回答した児童では、10.1%が「宿題があってもあまり勉強しない」と回答している。

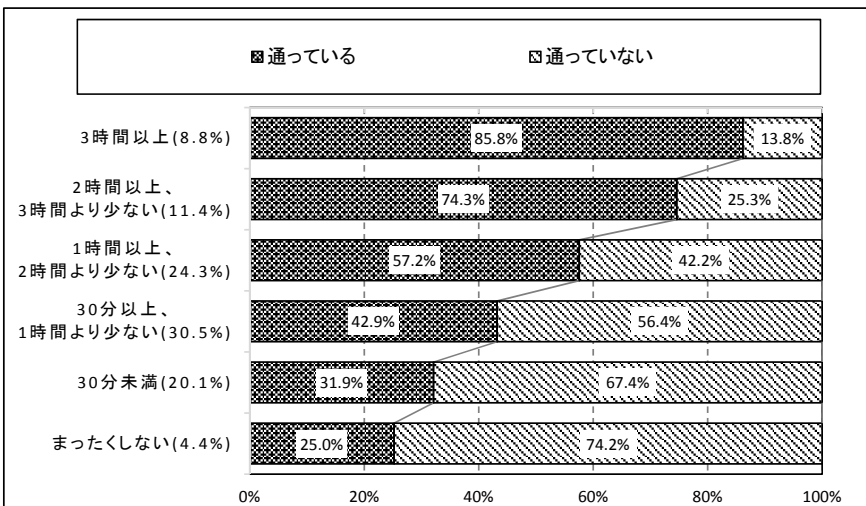
13 家庭学習時間（平日）【問 20】 × 家庭学習の内容【問 22】



○平日の家庭学習時間が長い児童ほど、宿題のほかに毎日勉強している傾向がある。

○「まったくしない」と回答した児童では52.6%が「宿題だけ勉強する」、19.4%が「宿題があってもあまり勉強しない」と回答している。

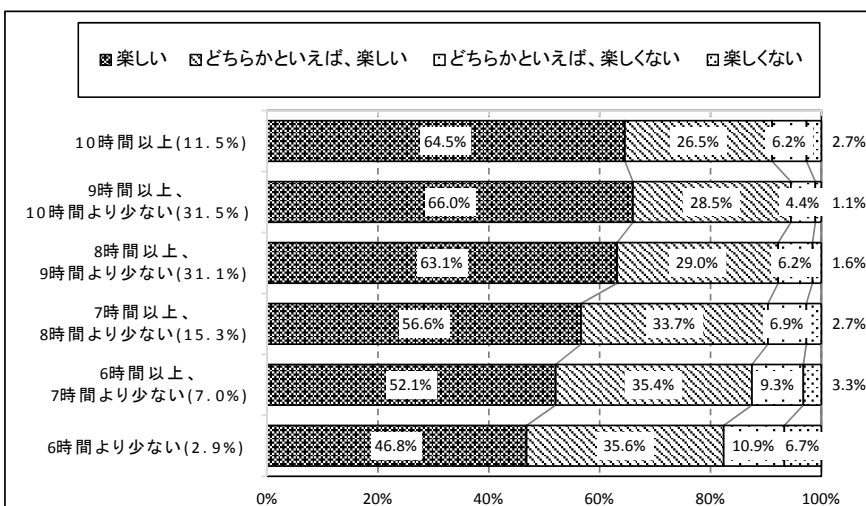
14 家庭学習時間（平日）【問 20】 × 通塾【問 23】



○平日の学習時間が長い児童ほど、学習塾に通っている割合が高い。

○家庭学習時間が「3時間以上」、「2時間以上、3時間より少ない」の中で、通塾者の占める割合は、それぞれ85.8%、74.3%である。

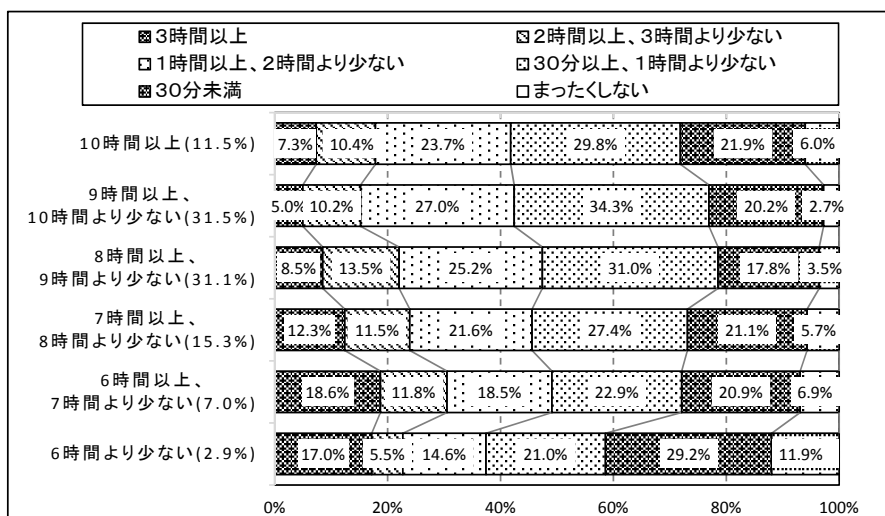
15 睡眠時間【問 24】 × 学校生活の楽しさ【問 1】



○睡眠時間が長い児童ほど、学校生活が「楽しい」と回答している。

○睡眠時間が「6時間より少ない」と回答した児童の17.6%が、学校生活は「楽しくない」、「どちらかといえば、楽しくない」と回答している。

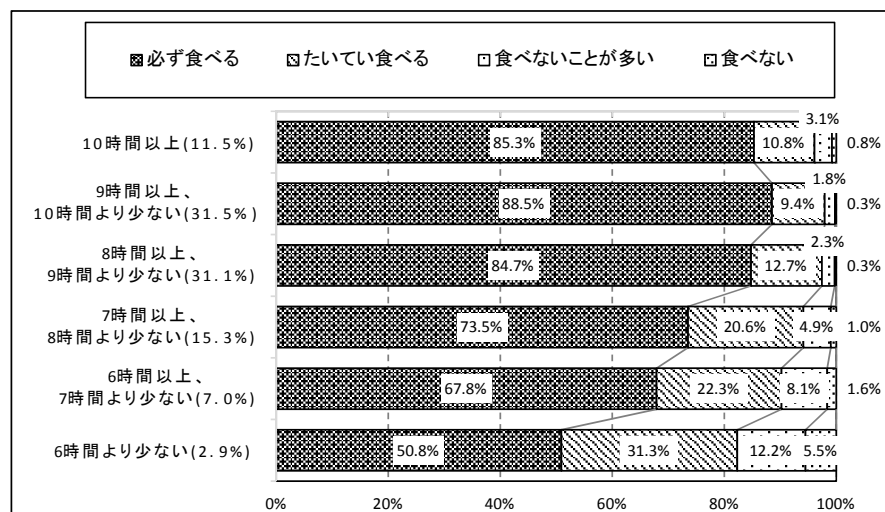
### 16 睡眠時間【問 24】×家庭学習時間（平日）【問 20】



○睡眠時間が「6時間より少ない」と回答した児童の17.0%が家庭での学習を「3時間以上」と回答している。どの睡眠時間帯よりも多くなっている。

○一方、睡眠時間が「6時間より少ない」と回答した児童の41.1%が家庭での学習を「30分未満」「まったくしない」と回答している。

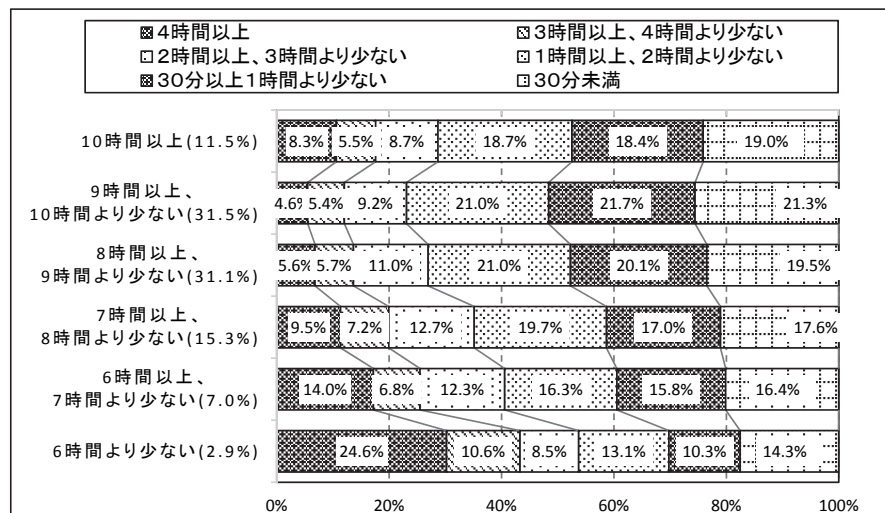
### 17 睡眠時間【問 24】×朝食の摂取【問 25】



○睡眠時間が8時間以上で、朝食を「必ず食べる」と回答した児童の割合は84%を超えており、朝食の摂取状況が良好な傾向にある。

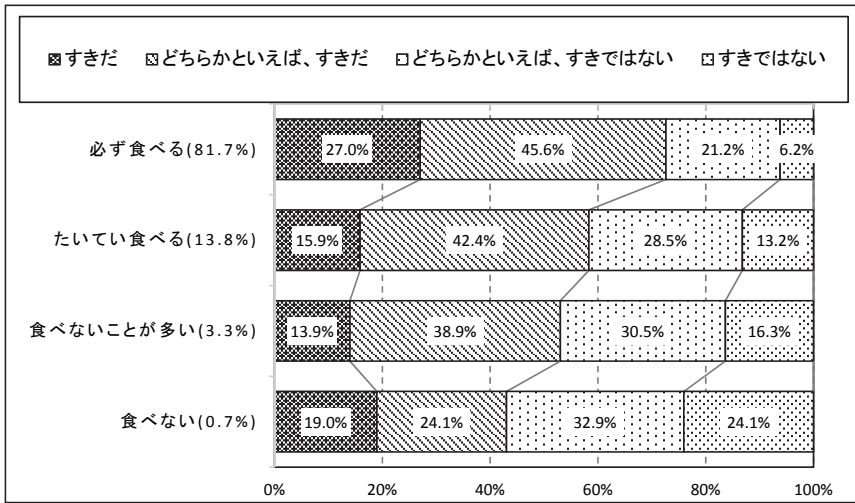
○睡眠時間が「6時間より少ない」と回答した児童のうち、朝食を「必ず食べる」と回答した児童は50.8%である。

### 18 睡眠時間【問 24】×テレビゲームの実施時間【問 27】



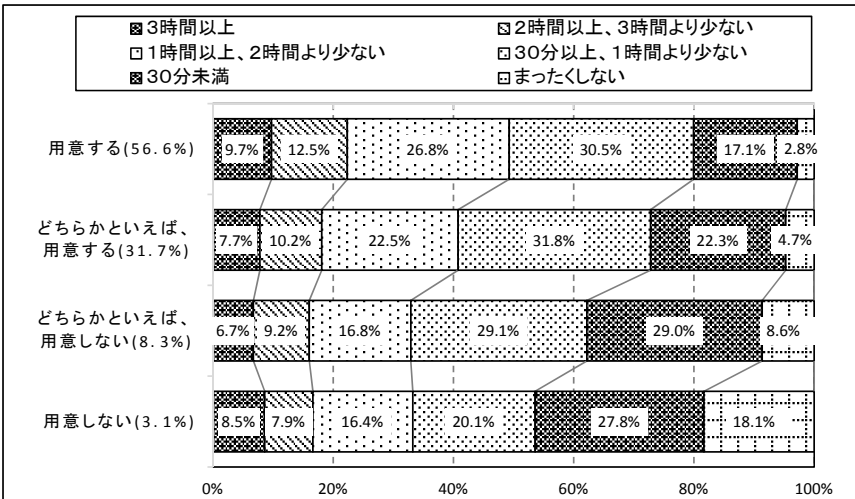
○睡眠時間が「10時間以上」と回答した児童を除くと、睡眠時間が短いほど、テレビゲームの実施時間が「4時間以上」、「3時間以上、4時間より少ない」と回答した児童の割合が増え、「2時間以上、3時間より少ない」、「1時間以上、2時間より少ない」、「30分以上、1時間より少ない」と回答した児童の割合は減る傾向にある。

19 朝食の摂取【問 25】×学習に対する好感度【問 2】



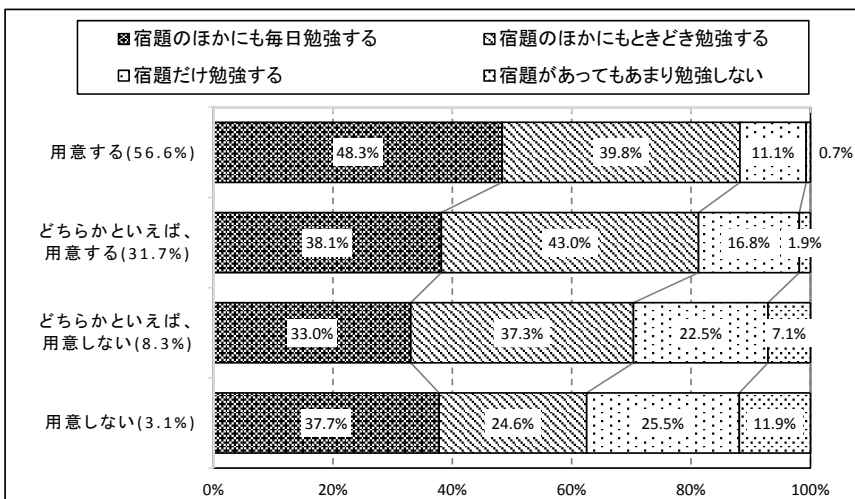
○朝食を「必ず食べる」と回答した児童のうち、勉強が「すきだ」、「どちらかといえば、すきだ」と回答した児童の割合は 72.6%であるのに対して、「食べない」と回答した児童のうち、勉強が「すきだ」、「どちらかといえば、すきだ」と回答した児童の割合は 43.1%である。

20 学習の準備【問 26】×家庭学習時間(平日)【問 20】



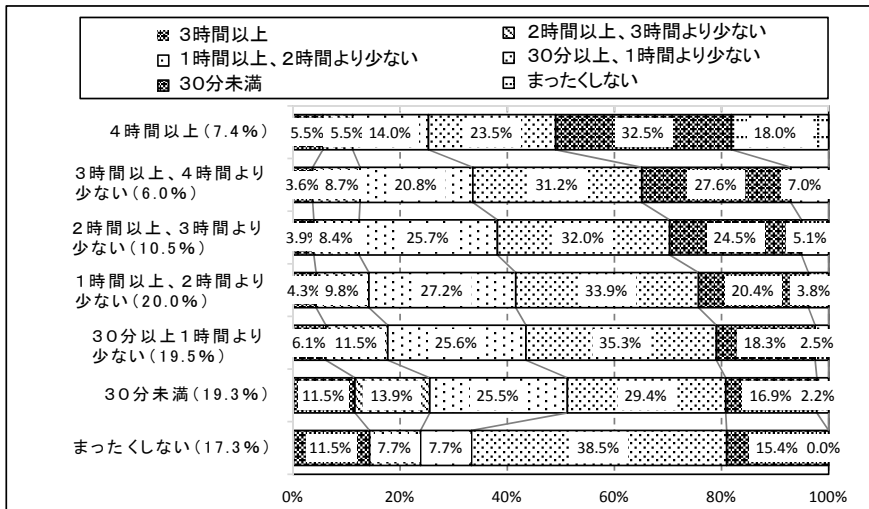
○前日に学校の持ち物を「用意する」と回答した児童の 49.6%が、家庭での学習を「1時間以上」していると回答しており、他よりも多くなっている。  
○「用意しない」と回答した児童のうち、家庭学習を「30分未満」「まったくしない」と回答した児童の割合は 45.9%である。

21 学習の準備【問 26】×家庭学習の内容【問 22】



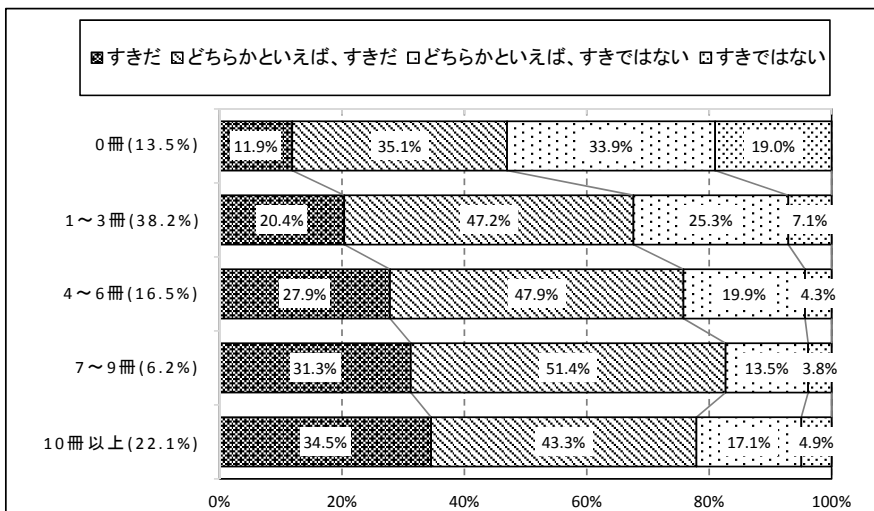
○前日に学校の持ち物を用意する児童ほど、家庭で宿題のほかに勉強している傾向がある。  
○「用意しない」と回答した児童のうち、「宿題があってもあまり勉強しない」児童の割合は 11.9%である。

22 テレビゲーム実施時間【問 27】×家庭学習時間（平日）【問 20】



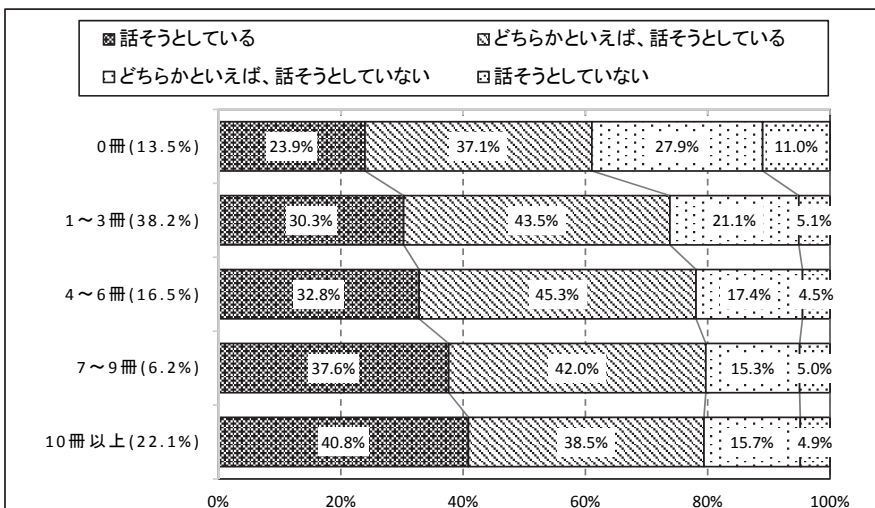
○テレビの視聴時間などが短い児童ほど、平日の家庭学習の時間において「3時間以上」、「2時間以上、3時間より少ない」の割合が高くなる傾向であり、逆に、視聴時間などが長い児童ほど、家庭学習を「30分未満」「まったくしない」割合が高くなる傾向にある。

23 1ヶ月の読書量【問 31】×学習に対する好感度【問 2】



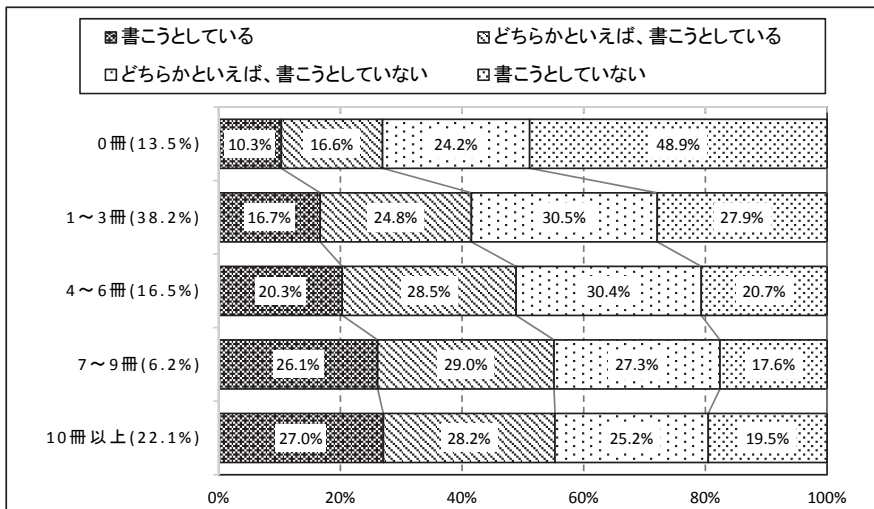
○1ヶ月の読書量が多いほど、勉強が「すきだ」と回答する傾向がある。  
○1ヶ月の読書量が0冊と回答した児童の52.9%が勉強が「すきではない」、「どちらかといえば、すきではない」と回答している。

24 1ヶ月の読書量【問 31】×思いや考えを話そうとする意欲【問 38】



○1ヶ月の読書量が多いほど、自分の思いや考えを「話そうとしている」と回答する傾向がある。  
○1ヶ月に1冊も本を読まない児童のうち、38.9%が、自分の思いや考えを「話そうとしない」、「どちらかといえば、話そうとしない」と回答している。

**25 1ヶ月の読書量【問31】×思いや考えを書こうとする意欲【問39】**



○1ヶ月の読書量が多いほど、自分の思いや考えを文章に「書こうとしている」、「どちらかといえば、書こうとしている」と回答する児童の割合が高い。

○1ヶ月に1冊も本を読まない児童のうち、73.1%が自分の思いや考えを「書こうしていない」、「どちらかといえば、書こうしていない」と回答している。

**資料 調査結果集計表**

【共通】

問1 学校生活は、楽しいですか。

(数字はすべて%)

	楽しい	どちらかといえば、 楽しい	どちらかといえば、 楽しくない	楽しくない	無回答
H25	60.9	31.0	5.9	2.1	0.0
H26	61.7	31.6	4.8	1.8	0.1
H27	<b>61.9</b>	<b>30.0</b>	<b>6.1</b>	<b>2.0</b>	<b>0.1</b>

問2 勉強は、好きですか。

	好きだ	どちらかといえば、 好きだ	どちらかといえば、 好きではない	好きではない	無回答
H25	22.1	44.2	25.0	8.7	0.1
H26	23.7	45.2	23.7	7.3	0.1
H27	<b>25.0</b>	<b>44.7</b>	<b>22.6</b>	<b>7.6</b>	<b>0.1</b>

問3 勉強をすることは、大切なことだと思いますか。

	大切だ	どちらかといえば、 大切だ	どちらかといえば、 大切ではない	大切ではない	無回答
H25	76.4	21.2	1.7	0.6	0.1
H26	78.6	19.5	1.3	0.5	0.1
H27	<b>79.4</b>	<b>18.8</b>	<b>1.3</b>	<b>0.4</b>	<b>0.1</b>

問4 勉強をする一番の理由は何ですか。

	わかると楽しいから	受験に役に立つから	将来の仕事に役に立つから	生活するのに役に立つから	ほめてもらえるから	家の人やまわりの人にいわれるから	無回答
H25	21.6	11.8	42.6	17.9	2.3	3.5	0.3
H26	21.9	11.5	42.2	19.0	2.0	2.8	0.6
H27	<b>21.6</b>	<b>12.6</b>	<b>42.0</b>	<b>18.5</b>	<b>1.9</b>	<b>3.2</b>	<b>0.3</b>

問5～9 次の学習は好きですか。

		好きだ	どちらかといえ ば、好きだ	どちらかといえ ば、好きではな い	好きではない	無回答
国語	H25	28.5	41.2	21.6	8.1	0.7
	H26	28.1	41.2	21.7	7.5	0.6
	H27	<b>31.4</b>	<b>39.3</b>	<b>20.8</b>	<b>7.4</b>	<b>1.4</b>
社会	H25	28.7	34.8	24.6	11.3	0.9
	H26	27.9	35.3	24.9	10.4	0.8
	H27	<b>28.2</b>	<b>35.0</b>	<b>25.0</b>	<b>10.4</b>	<b>1.5</b>
算数	H25	38.1	29.7	18.7	12.7	0.9
	H26	39.8	30.0	17.3	11.2	0.8
	H27	<b>40.2</b>	<b>29.1</b>	<b>17.9</b>	<b>11.4</b>	<b>1.6</b>
理科	H25	55.6	29.7	10.0	3.7	1.0
	H26	57.0	29.5	8.8	3.2	0.9
	H27	<b>59.0</b>	<b>27.8</b>	<b>8.8</b>	<b>3.2</b>	<b>1.5</b>
総合	H25	44.7	36.0	11.7	4.2	4.5
	H26	45.0	37.4	10.6	3.5	3.5
	H27	<b>47.7</b>	<b>34.4</b>	<b>9.5</b>	<b>3.4</b>	<b>3.6</b>

問 10～13 次の授業は、よくわかりますか。

		わかる	どちらかといえ ば、わかる	どちらかといえ ば、わからない	わからない	無回答
国語	H25	57.2	35.1	5.8	1.5	0.4
	H26	55.3	35.8	6.0	1.4	1.5
	H27	<b>59.4</b>	<b>32.7</b>	<b>5.9</b>	<b>1.3</b>	<b>0.6</b>
社会	H25	47.9	36.4	12.2	2.9	0.5
	H26	46.5	36.9	12.1	2.7	1.9
	H27	<b>48.3</b>	<b>36.0</b>	<b>12.0</b>	<b>2.6</b>	<b>1.1</b>
算数	H25	55.2	30.1	10.4	3.8	0.5
	H26	55.3	29.8	9.7	3.2	1.9
	H27	<b>55.7</b>	<b>29.4</b>	<b>10.2</b>	<b>3.5</b>	<b>1.1</b>
理科	H25	67.1	26.9	4.5	1.1	0.4
	H26	67.1	26.5	4.1	0.9	1.4
	H27	<b>69.2</b>	<b>25.2</b>	<b>4.0</b>	<b>0.8</b>	<b>0.8</b>

問 14～18 授業で学んだことは、生活の中で役に立っていると思いますか。

		役に立つ	どちらかといえ ば、役に立つ	どちらかといえ ば、役に立たな い	役に立たない	無回答
国語	H25	62.0	29.6	6.3	1.6	0.4
	H26	63.8	27.8	5.4	1.5	1.7
	H27	<b>65.3</b>	<b>27.1</b>	<b>5.2</b>	<b>1.4</b>	<b>1.0</b>
社会	H25	58.9	30.6	8.0	2.0	0.5
	H26	59.4	29.8	7.5	1.7	1.6
	H27	<b>61.4</b>	<b>29.1</b>	<b>7.0</b>	<b>1.7</b>	<b>0.8</b>
算数	H25	74.9	20.2	3.2	1.3	0.5
	H26	76.8	17.7	3.0	1.1	1.4
	H27	<b>78.3</b>	<b>17.3</b>	<b>2.4</b>	<b>1.0</b>	<b>0.9</b>
理科	H25	50.7	36.2	9.8	2.6	0.7
	H26	52.3	34.4	9.2	2.1	1.9
	H27	<b>54.2</b>	<b>34.1</b>	<b>8.5</b>	<b>2.0</b>	<b>1.2</b>
総合	H25	49.6	34.8	8.5	2.9	4.1
	H26	50.3	34.5	8.0	2.8	4.5
	H27	<b>49.4</b>	<b>34.7</b>	<b>8.6</b>	<b>2.6</b>	<b>4.6</b>

問 19 授業の中で、わからないことがあったら、どうすることが多いですか。

	その場で先 生にたずね る	授業が終わ ってから先 生にたずね る	友だちにた ずねる	家の人にた ずねる	じゆくや家 庭教師の先 生にたずね る	自分で調べ る	そのままに しておく
H25	43.3	29.7	66.5	73.2	16.9	48.3	21.1
H26	40.9	27.8	69.5	74.5	17.4	48.5	21.4
H27	40.5	28.9	69.0	<b>71.9</b>	17.0	47.9	21.5

II 調査結果の概要

問 20 学校のある日、家で1日どのくらい勉強しますか。

	3時間以上	2時間以上、 3時間より 少ない	1時間以上、 2時間より 少ない	30分以上、1 時間より少 ない	ほとんどしない		無回答
H25	8.9	11.6	26.3	38.9	13.8		0.6
	3時間以上	2時間以上、 3時間より 少ない	1時間以上、 2時間より 少ない	30分以上、1 時間より少 ない	30分未満	まったくしな い	無回答
H26	8.4	11.5	24.3	31.2	19.6	4.3	0.6
H27	8.8	11.4	24.3	30.5	20.1	4.4	0.7

問 21 学校が休みの日、家で1日どのくらい勉強しますか。

	3時間以上	2時間以上、 3時間より 少ない	1時間以上、 2時間より 少ない	30分以上、1 時間より少 ない	ほとんどしない		無回答
H25	12.4	12.0	21.9	31.3	21.8		0.7
	3時間以上	2時間以上、 3時間より 少ない	1時間以上、 2時間より 少ない	30分以上、1 時間より少 ない	30分未満	まったくしな い	無回答
H26	12.7	11.6	19.7	23.2	21.6	10.6	0.6
H27	13.3	11.6	19.5	23.3	21.5	10.2	0.7

問 22 ふだん、家でしている勉強は、どれに近いですか。

	宿題のほかに毎日 勉強する	宿題のほかにま とどき勉強する	宿題だけ勉強する	宿題があってもあ まり勉強しない	無回答
H25	38.6	40.4	17.7	2.5	0.8
H26	40.1	40.5	16.2	2.5	0.8
H27	43.3	40.0	14.3	2.0	0.5

問 23 学習じゆくに、通っていますか。

	通っている	通っていない	無回答
H25	50.6	48.6	0.8
H26	49.8	49.5	0.7
H27	50.7	48.7	0.6

問 24 学校がある日の、睡眠時間はどれくらいですか。

	10時間以上	9時間以上、 10時間より 少ない	8時間以上、 9時間より 少ない	7時間以上、 8時間より 少ない	6時間以上、 7時間より 少ない	6時間より 少ない	無回答
H25	12.3	32.4	29.9	15.4	6.3	2.8	0.8
H26	11.4	33.4	30.3	14.4	6.5	2.6	1.3
H27	11.5	31.5	31.1	15.3	7.0	2.9	0.7

問 25 毎日、朝食を食べますか。

	必ず食べる	たいてい食べる	食べないことが多 い	食べない	無回答
H25	83.3	13.3	2.8	0.6	0.1
H26	82.1	13.6	3.1	0.6	0.6
H27	81.7	13.8	3.3	0.7	0.4

問 26 学校に持って行くものは、前日にきちんと用意しますか。

	用意する	どちらかといえば、 用意する	どちらかといえば、 用意しない	用意しない	無回答
H25	57.6	30.3	8.9	3.1	0.1
H26	57.9	31.0	8.0	2.9	0.2
H27	56.6	31.7	8.3	3.1	0.3

問 27 学校がある日、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか。

	4時間以上	3時間以上、4時間より少ない	2時間以上、3時間より少ない	1時間以上、2時間より少ない	30分以上、1時間より少ない	30分見未満	まったくしない	無回答
H27	7.4	6.0	10.5	<b>20.0</b>	19.3	19.3	17.3	0.2

問 28 学校がある日、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり聞いたりしますか。

	4時間以上	3時間以上、4時間より少ない	2時間以上、3時間より少ない	1時間以上、2時間より少ない	30分以上、1時間より少ない	30分見未満	まったくしない	無回答
H27	12.9	12.2	20.0	<b>24.4</b>	16.6	9.1	4.5	0.2

問 29 学校がある日、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか。

	4時間以上	3時間以上、4時間より少ない	2時間以上、3時間より少ない	1時間以上、2時間より少ない	30分以上、1時間より少ない	30分見未満	まったくしない	無回答
H27	2.1	1.7	3.1	6.1	9.5	<b>35.5</b>	42.0	0.1

問 30 携帯電話やスマートフォンの使い方について、家の人と約束をしたことを守っていますか。

	きちんと守っている	だいたい守っている	あまり守っていない	守っていない、または、約束はない	携帯電話やスマートフォンを持っていない	無回答
H26	47.1	12.0	1.1	4.8	34.7	0.3
H27	<b>47.8</b>	13.3	1.1	6.9	30.6	0.2

問 31 月に何さつぐらい本（マンガ・雑誌をのぞく）を読みますか。

	0冊	1～3冊	4～6冊	7～9冊	10冊以上	無回答	平均冊数
H25	13.8	37.4	16.6	6.0	26.0	0.2	5.7冊
H26	12.9	38.0	17.1	6.2	22.9	3.0	5.7冊
H27	13.5	<b>38.2</b>	16.5	6.2	22.1	3.5	5.7冊

問 32 自分には、よいところがあると思いますか。

	あてはまる	どちらかといえば、あてはまる	どちらかといえば、あてはまらない	あてはまらない	無回答
H27	29.0	<b>48.5</b>	15.2	7.1	0.1

問 33 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。

	あてはまる	どちらかといえば、あてはまる	どちらかといえば、あてはまらない	あてはまらない	無回答
H27	34.1	<b>47.0</b>	15.5	3.3	0.1

問 34 将来の夢や目標を持っていますか。

	あてはまる	どちらかといえば、あてはまる	どちらかといえば、あてはまらない	あてはまらない	無回答
H27	<b>72.8</b>	15.6	6.2	5.4	0.1

II 調査結果の概要

問 35 あなたは、自分の住んでいる町が好きですか。

	あてはまる	どちらかといえば、あてはまる	どちらかといえば、あてはまらない	あてはまらない	無回答
H27	68.9	23.5	5.2	2.4	0.1

問 36 友達と協力しながら、活動したり勉強したりすることは好きですか。

	あてはまる	どちらかといえば、あてはまる	どちらかといえば、あてはまらない	あてはまらない	無回答
H27	56.8	32.8	7.6	2.8	0.1

【国語】

問 37 わからない言葉があるときは国語辞典（電子辞書をふくみます）を使いますか。

	よく使う	どちらかといえば、よく使う	どちらかといえば、あまり使わない	あまり使わない	無回答
H25	27.3	34.5	24.6	13.6	0.0
H26	28.5	34.6	24.5	12.3	0.1
H27	29.1	33.7	23.7	13.4	0.1

問 38 日常生活の中で、自分の思いや考えを積極的に話そうとしていますか。

	話そうとしている	どちらかといえば、話そうとしている	どちらかといえば、話そうしていない	話そうしていない	無回答
H25	32.8	42.6	19.0	5.5	0.1
H26	32.4	42.1	19.9	5.4	0.1
H27	33.2	41.3	19.6	5.9	0.1

問 39 日記を書くなど、自分の思いや考えを文章に書こうとしていますか。

	書こうとしている	どちらかといえば、書こうとしている	どちらかといえば、書こうしていない	書こうしていない	無回答
H25	21.5	24.9	27.6	25.9	0.1
H26	20.9	26.3	27.7	25.0	0.1
H27	19.8	25.4	27.9	26.9	0.1

【社会】

問 40 わからない地名に出会ったら、自分で地図帳などを使って調べますか。

	調べようとしている	どちらかといえば、調べようとしている	どちらかといえば、調べようしていない	調べようしていない	無回答
H25	29.5	35.7	23.0	11.8	0.1
H26	28.3	35.9	23.5	12.0	0.3
H27	27.2	34.7	24.2	13.5	0.4

問 41 歴史上の人物やできごとをあつかっている本を読むことは好きですか。

	好きだ	どちらかといえば、好きだ	どちらかといえば、好きではない	好きではない	無回答
H25	31.9	25.2	24.0	18.7	0.2
H26	32.7	25.4	24.7	16.8	0.4
H27	34.4	25.5	23.0	16.7	0.4

問 42 社会のできごとやニュースに関心がありますか。

	関心がある	どちらかといえば、関心がある	どちらかといえば、関心がない	関心がない	無回答
H25	33.2	38.9	19.5	8.2	0.3
H26	37.1	39.1	16.8	6.7	0.4
H27	39.7	37.8	15.7	6.4	0.4

【算数】

問 43 算数の時間に、いろいろな考え方を発表しあうことは好きですか。

	すきだ	どちらかといえば、すきだ	どちらかといえば、すきではない	すきではない	無回答
H25	27.4	30.6	28.3	13.5	0.2
H26	29.3	32.3	25.9	12.2	0.4
H27	30.3	32.4	24.9	12.1	0.4

問 44 問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしていますか。

	考えようとしている	どちらかといえば、考えようとしている	どちらかといえば、考えようしていない	考えようしていない	無回答
H25	30.9	36.8	22.3	9.7	0.3
H26	33.1	36.3	21.0	9.2	0.3
H27	36.9	35.7	18.1	8.9	0.4

問 45 問題が解けなかったとき、なぜ解けなかったかをふり返って考えようとしていますか。

	考えようとしている	どちらかといえば、考えようとしている	どちらかといえば、考えようしていない	考えようしていない	無回答
H25	28.8	38.2	22.7	10.1	0.2
H26	32.0	38.5	19.8	9.3	0.4
H27	32.9	37.1	20.2	9.4	0.4

【理科】

問 46 理科の勉強で、実験や観察をすることは好きですか。

	すきだ	どちらかといえば、すきだ	どちらかといえば、すきではない	すきではない	無回答
H25	72.0	19.6	5.4	2.7	0.3
H26	73.1	18.9	5.4	2.2	0.4
H27	73.1	18.8	5.3	2.5	0.4

問 47 理科の勉強で、わからないことや興味・関心をもったことについて自分から調べようとしていますか。

	調べようとしている	どちらかといえば、調べようとしている	どちらかといえば、調べようしていない	調べようしていない	無回答
H25	31.5	38.4	22.7	7.1	0.3
H26	35.0	39.8	19.1	5.6	0.4
H27	35.0	39.5	19.1	6.0	0.4

問 48 自然や理科についての読み物や図かん、テレビ番組などをよくみていますか。

	よくみている	どちらかといえば、よくみている	どちらかといえば、あまりみていない	あまりみていない	無回答
H25	34.3	27.5	24.6	13.2	0.3
H26	36.3	28.3	23.5	11.5	0.4
H27	34.7	28.2	24.0	12.7	0.4

II 調査結果の概要

【総合的な学習】

問 49 自分の興味や疑問をもったことを自分のやり方で学習できていると思いますか。

	そう思う	どちらかといえ ば、そう思う	どちらかといえ ば、そう思わない	思わない	無回答
H25	24.8	46.4	22.4	6.1	0.3
H26	27.3	46.8	20.4	5.0	0.4
H27	29.2	46.4	18.7	5.3	0.4

問 50 情報の集め方や調べ方がわかるようになったと思いますか。

	そう思う	どちらかといえ ば、そう思う	どちらかといえ ば、そう思わない	思わない	無回答
H25	37.1	42.2	15.4	5.0	0.3
H26	38.4	41.2	15.1	4.7	0.4
H27	39.9	40.8	14.2	4.8	0.4

問 51 自分が興味をもったことをもっと調べてみたいと思うことがありますか。

	思うことがある	どちらかといえ ば、思うことがあ る	どちらかといえ ば、思うことはな い	思うことはない	無回答
H25	49.5	32.0	13.4	4.8	0.3
H26	51.2	31.9	11.7	4.8	0.4
H27	52.7	30.3	11.9	4.6	0.4